



1383
68

要指郡保揖



332

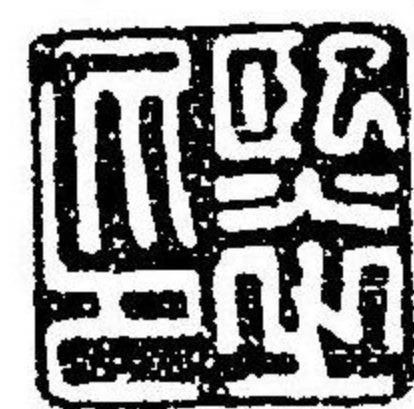
68

332-68

指西女



淡洲書



44. 4. 7

序

揖保郡主催の下に開設する播磨生産品々評會は播磨一圓の産業發達上多大の效果あるべきを信ずると共に主催郡の責任も亦た重大なることを自覺す、今回の品評會は本郡の眞價を定むべき試金石にして今や衆目環視の中心となれり本郡は此好機を利用して郡内の産業状態を始め一般の現状を説明すべき出版物の必要を認め茲に周到なる調査の下に郡内の實状を網羅したる一冊子を編纂し名けて揖保郡指要と謂ふ書中編を分つ二十章

を重ねる六十有餘亦以て其梗概を知るに足れり大方の
諸彦希くは此冊子と品評會設備の内容とに據りて本郡
微意の存する所を諒知せられんことを

明治四十四年三月

兵庫縣揖保郡長 安達儀一郎

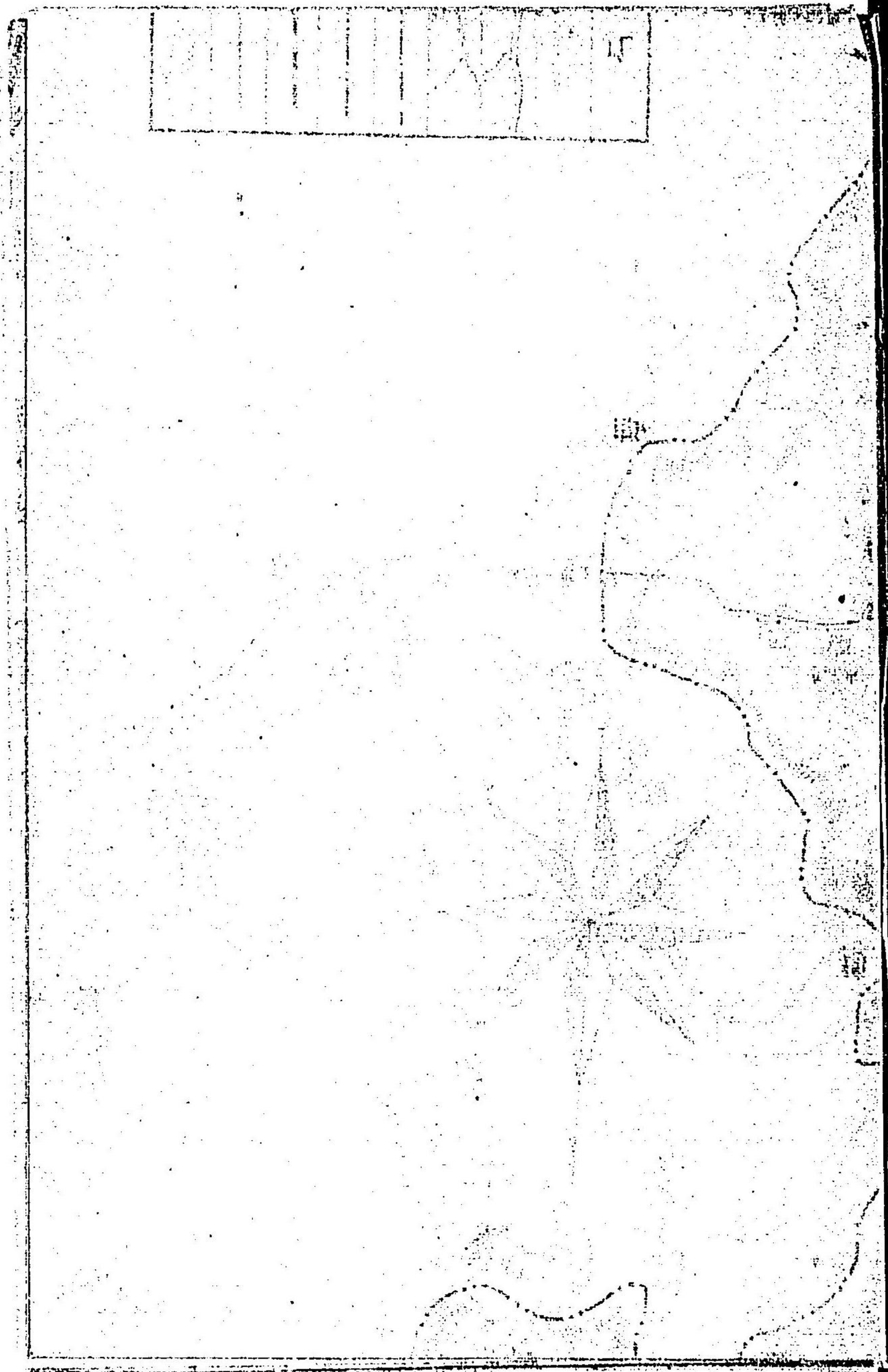
緒言

- 一本書は揖保郡主催播磨生産品々評會の開會に際し揖保郡の沿革并に現状を廣く社會に紹介する趣旨を以て編纂したるものなり
- 一本書中に採用したる統計は多く明治四十三年の材料に據り調査未了のため其材料を得難きものは同四十二年の分を採用したり本郡は別に最新の揖保郡統計表を調製配布すべければ彼是對照せん事を望む
- 一本書の編纂に際し元龍野中學校教諭武藤直治氏の著作に係る「龍野」の記事を得たれば之を其儘本書中に編入したり編中重複の嫌ひあるは之が爲めにして間々統計數字等の符合せざるものあるは調査の前後に依る
- 一本書の編纂方法は其性質に依り區分したるも中には兩者に屬する

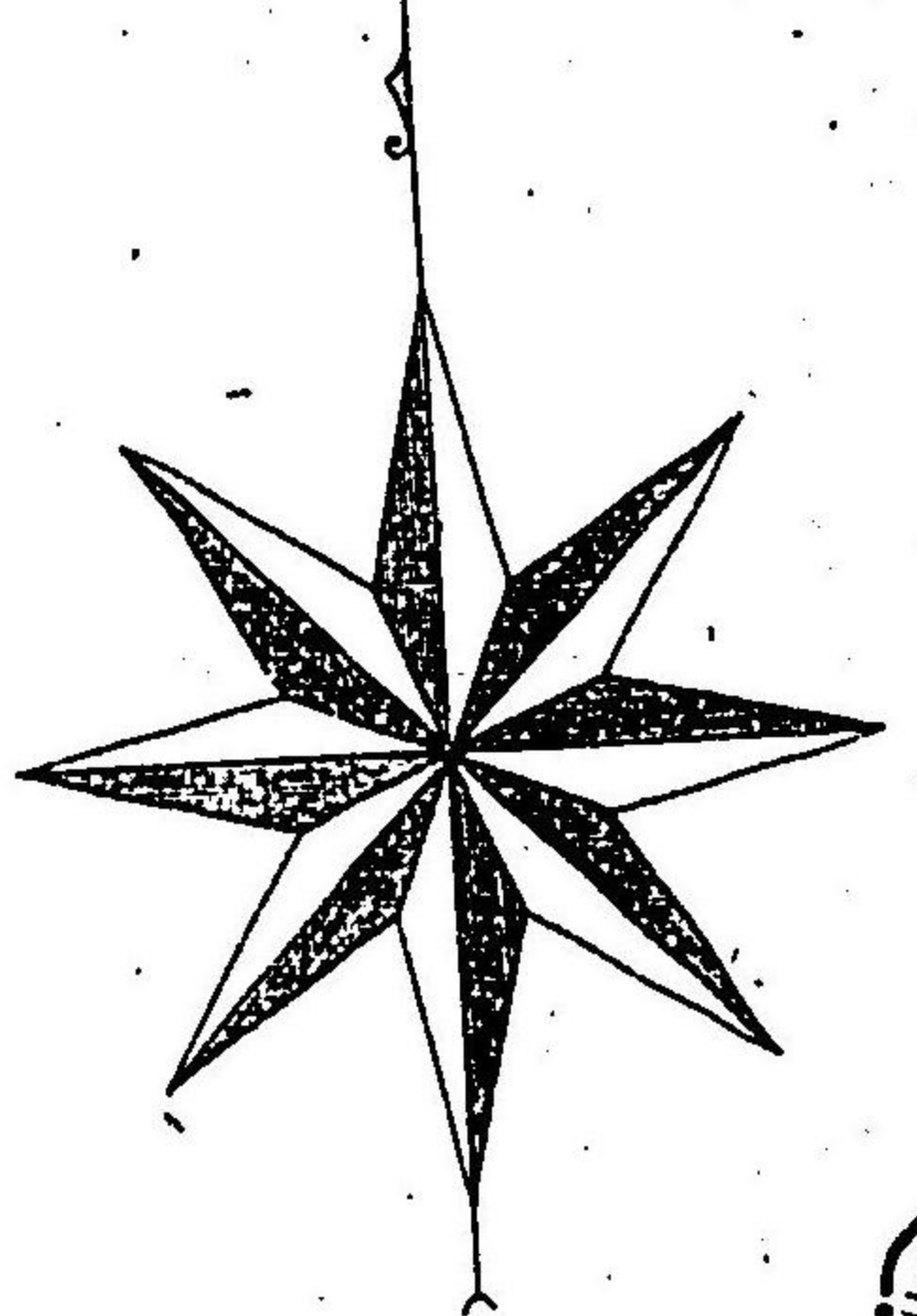
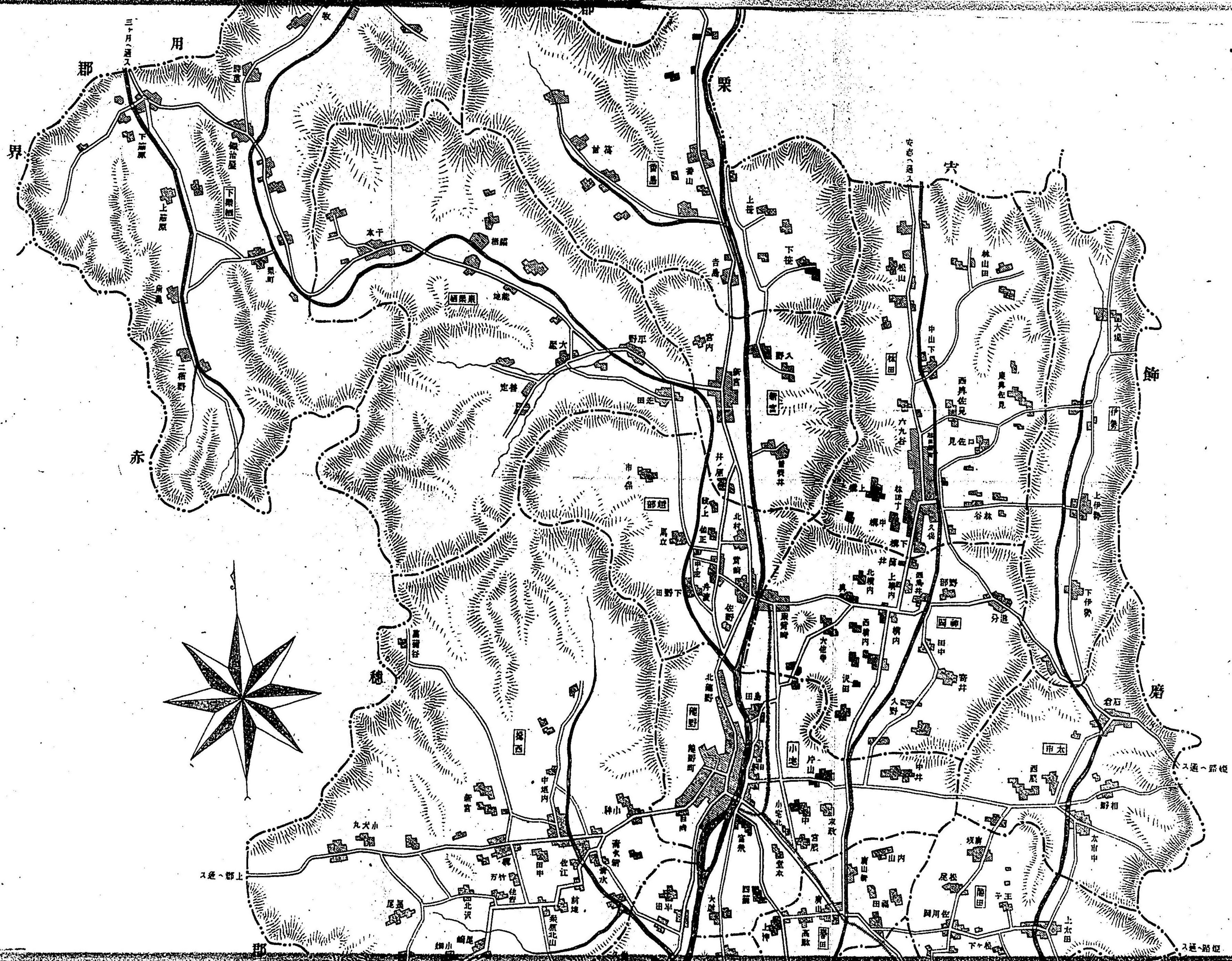
ものを一方に編入したるものあり假令ば産業組合を財政及金融の部に野見宿禰を墳墓の部に入れたるが如し
一、揖保郡の著名なる人物史は龍野の記事に之を網羅したれば更に増補をなさず

明治四十四年一月

編者識







郡

用

栗

六

赤

飾

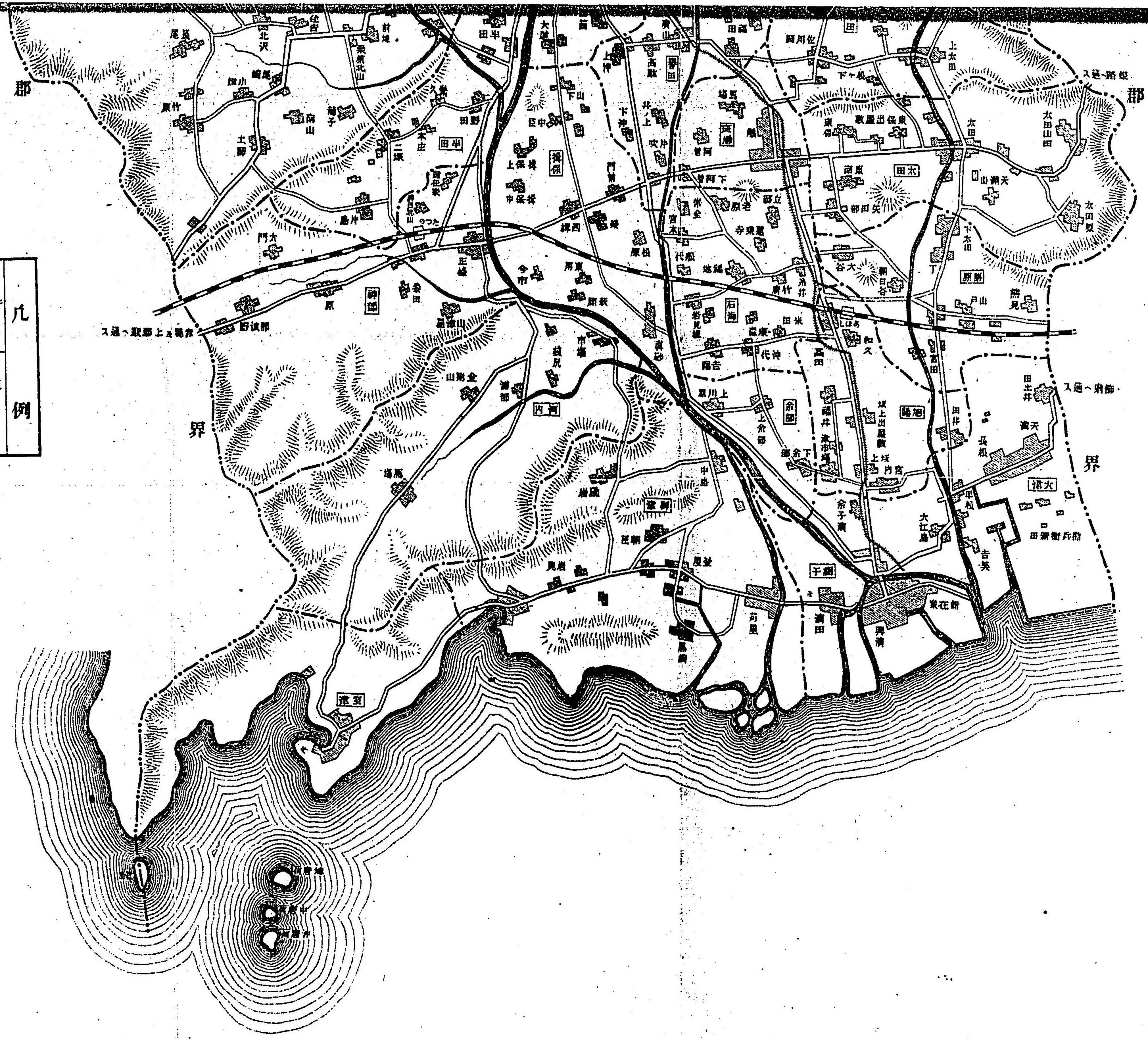
穂

磨

又通一郡上

又通一郡上

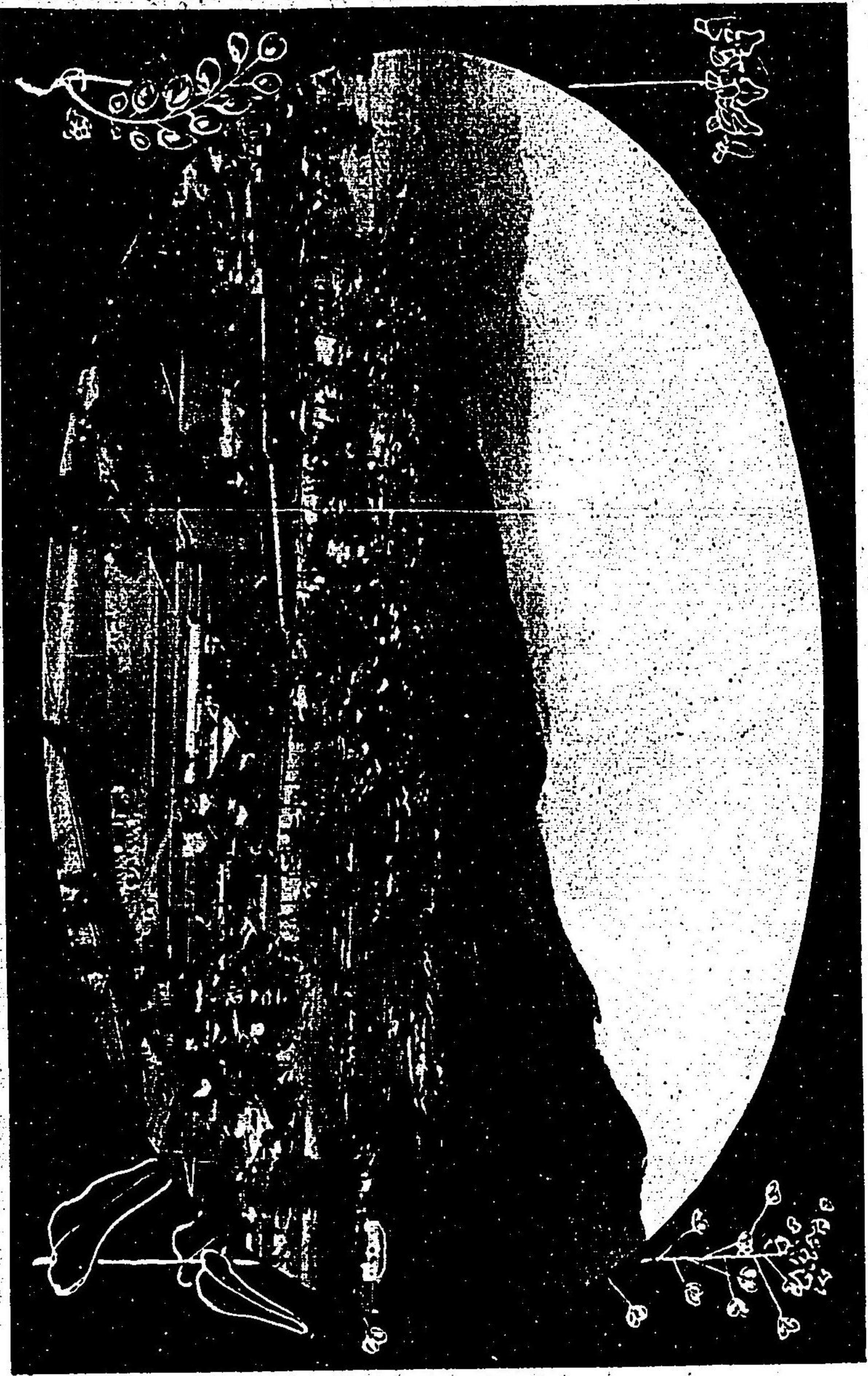
又通一郡上



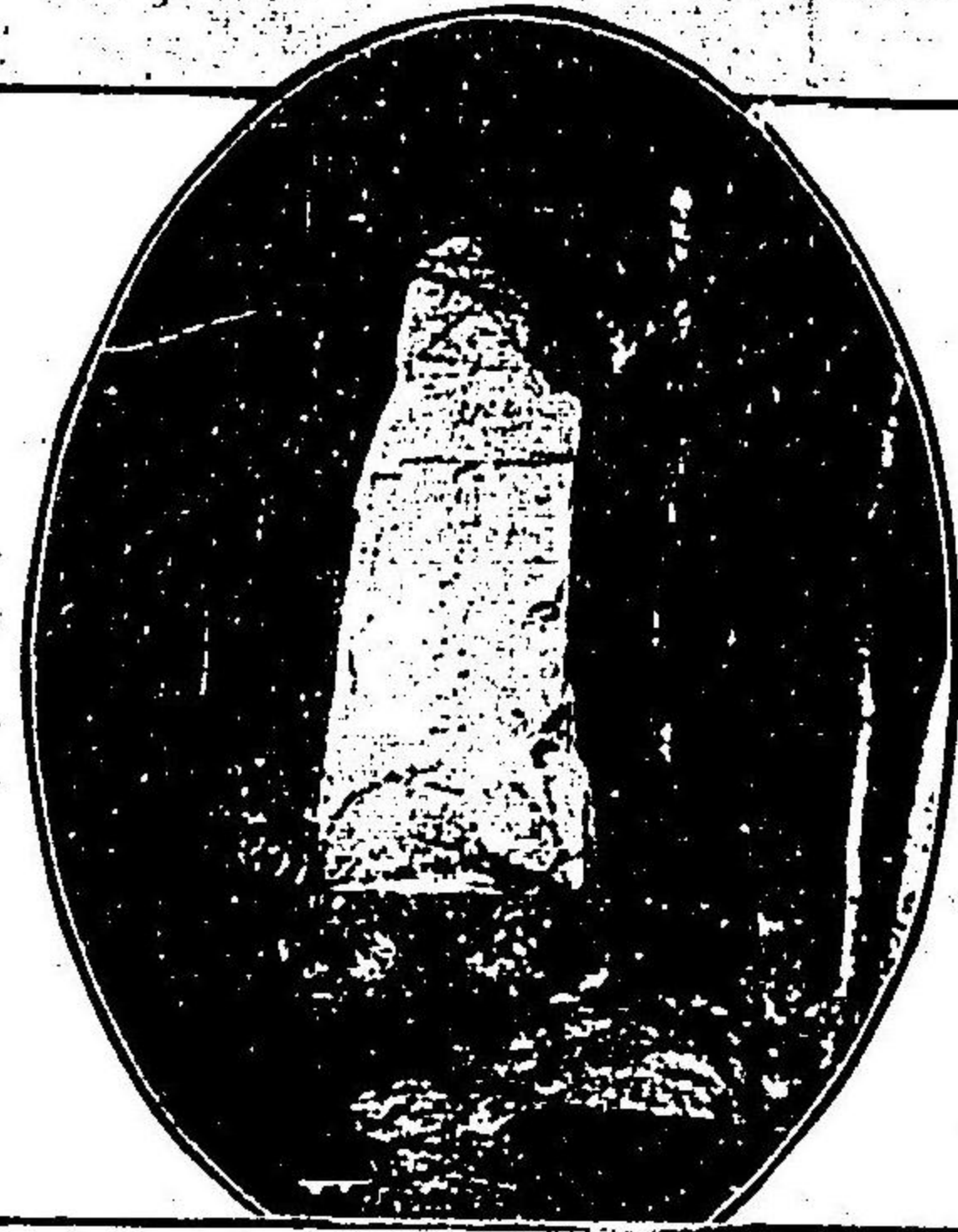
								凡例
山岳	電車道	鐵道	郡界	町村界	川及海	國道	郡及里道	



龍野町全景



兵庫縣立龍野中學校

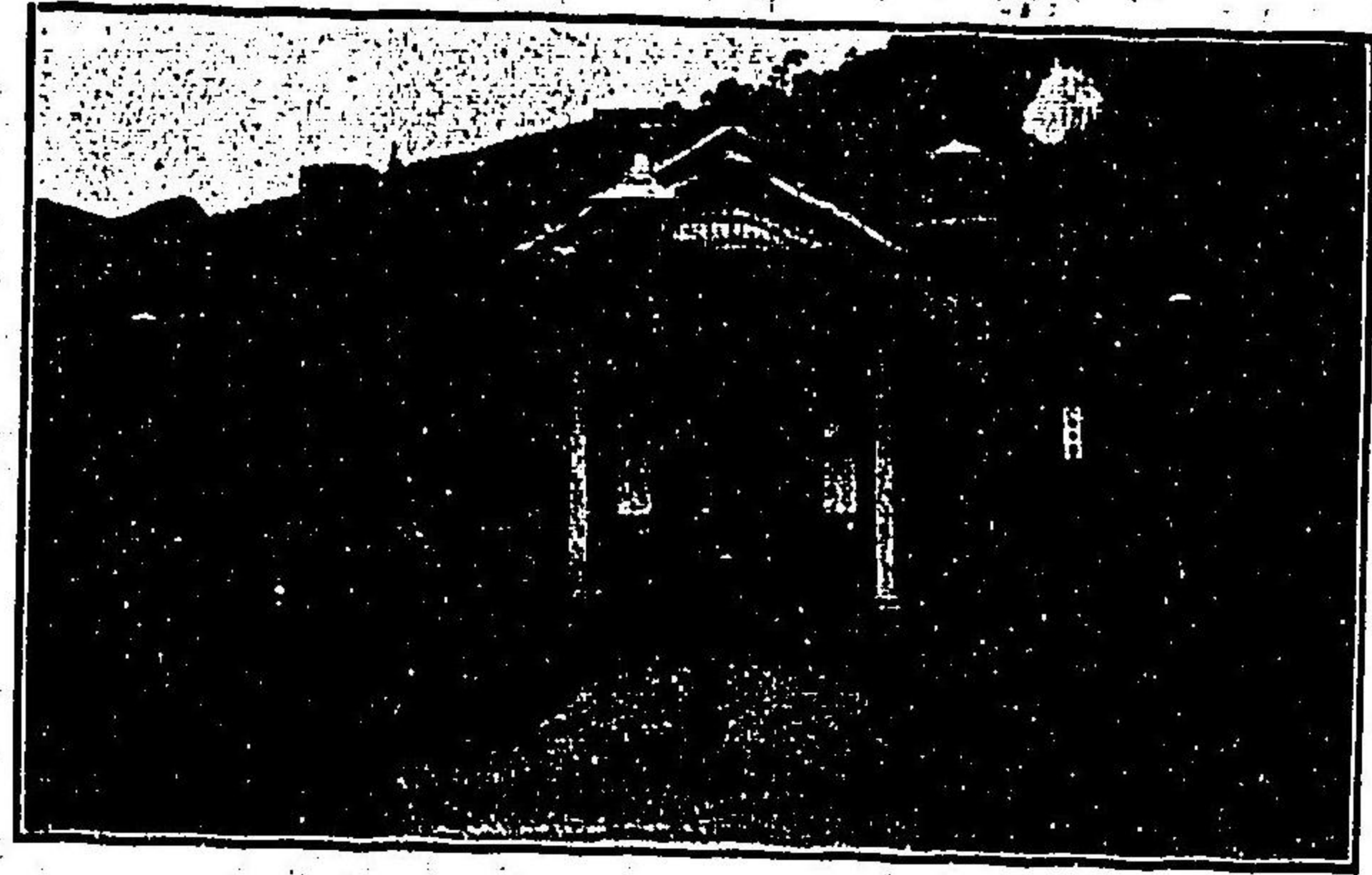


藤原極高先生遺跡



龍野揖保川の鮎狩

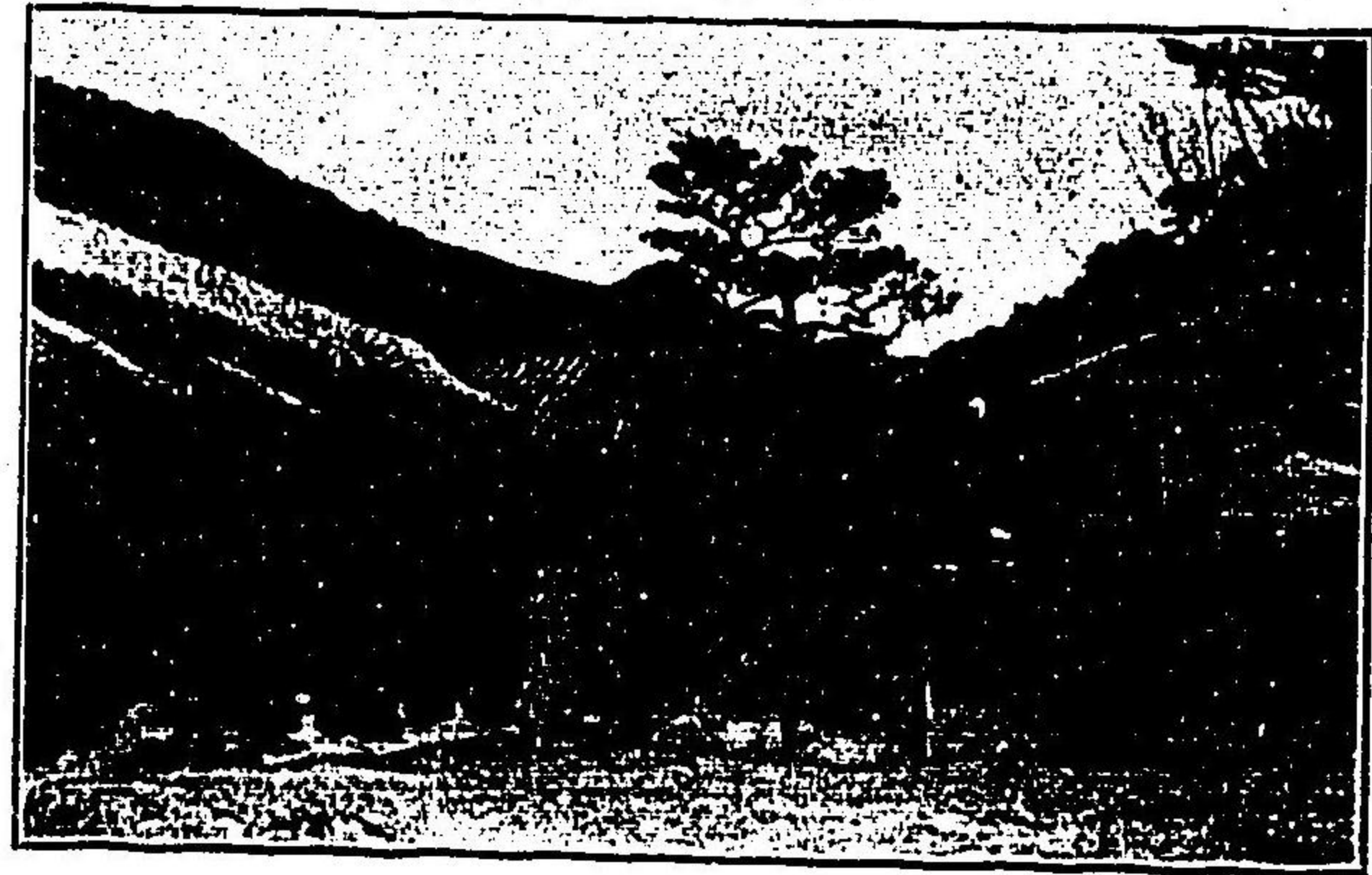
揖保郡役所



龍野高等小學校
郡立技藝女學校
（播磨生産品
評會々場）



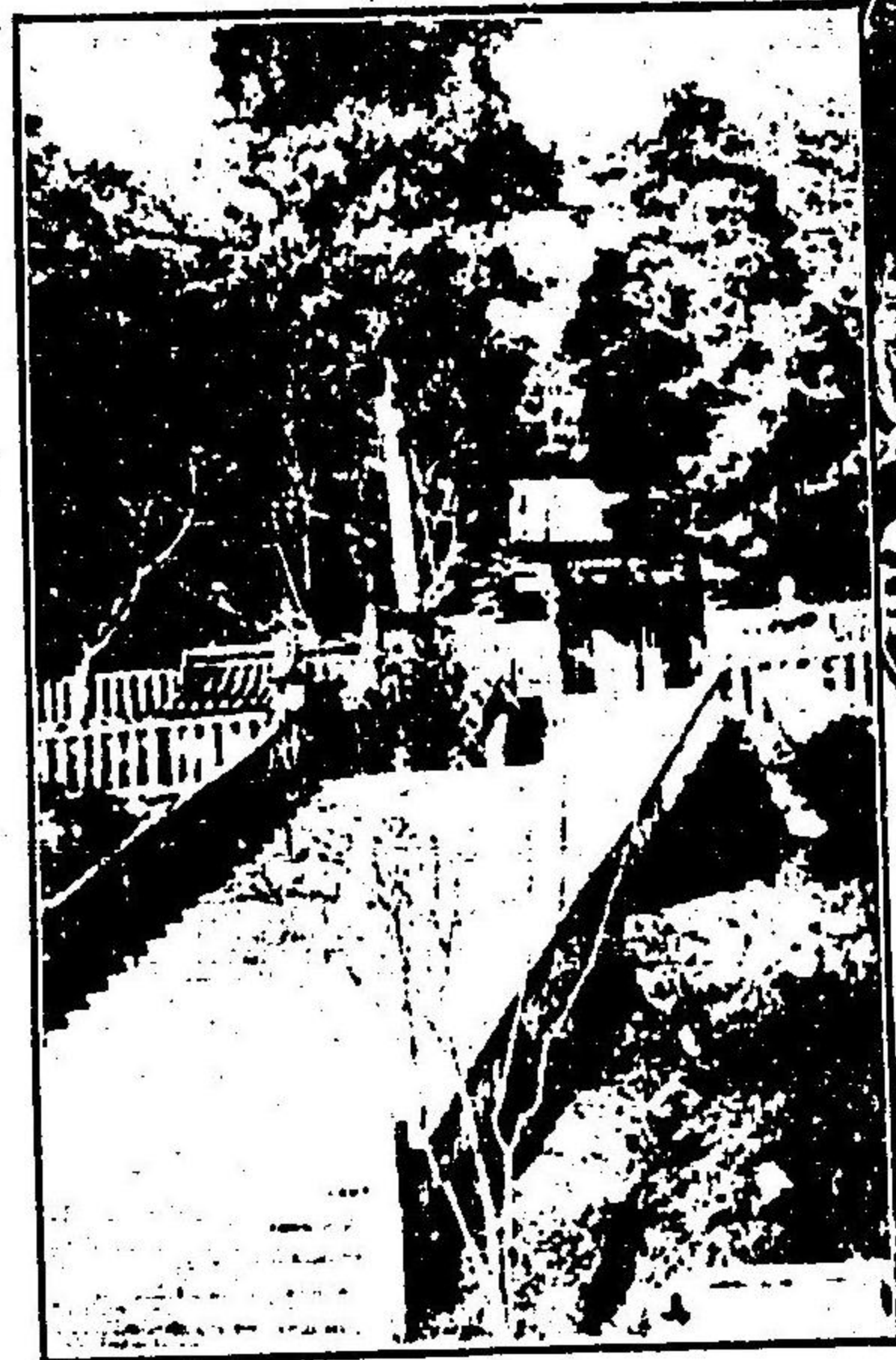
揖保郡公會堂（品評會賣店）



龍野粒座天照神社

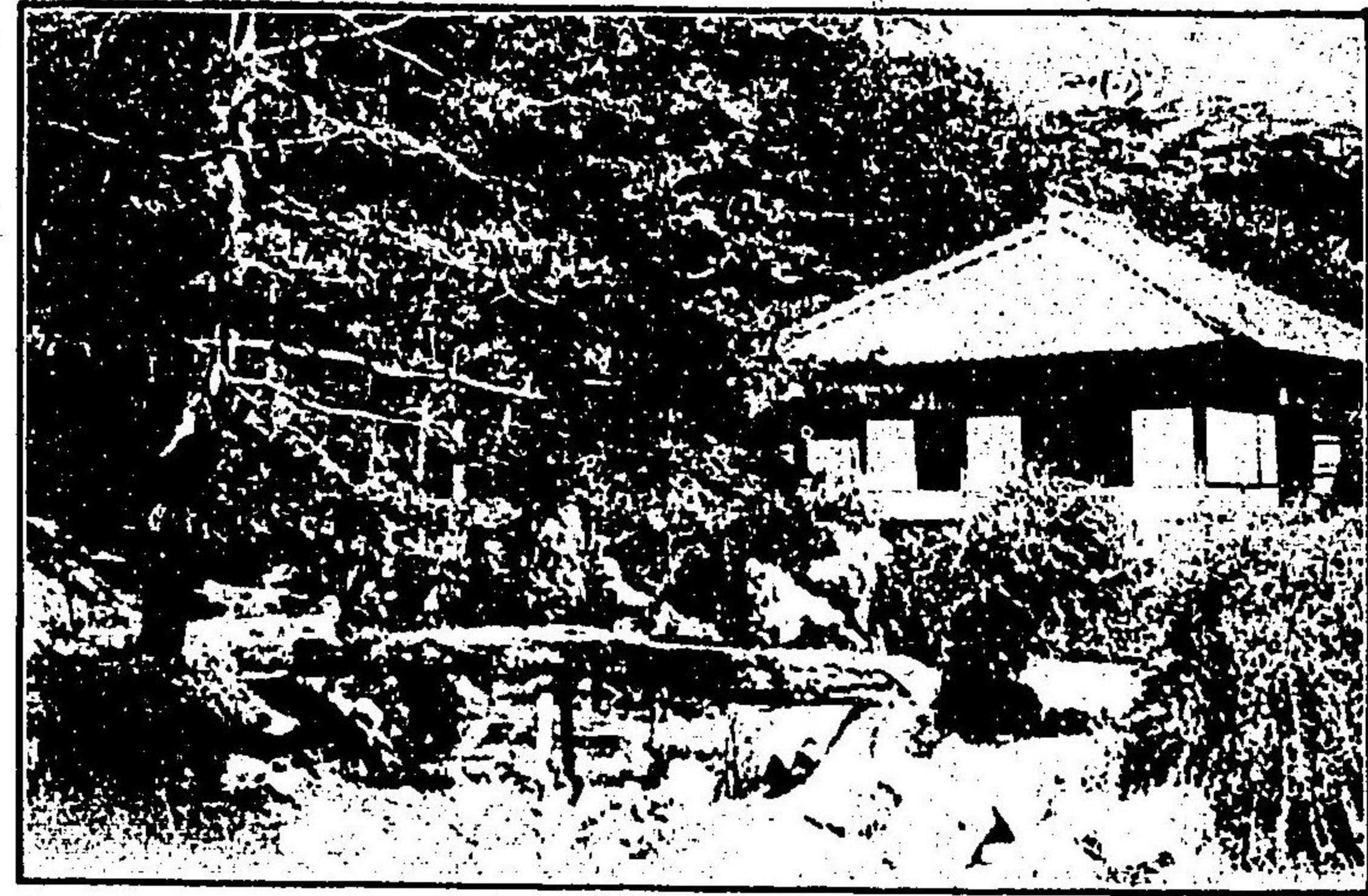


龍野神社

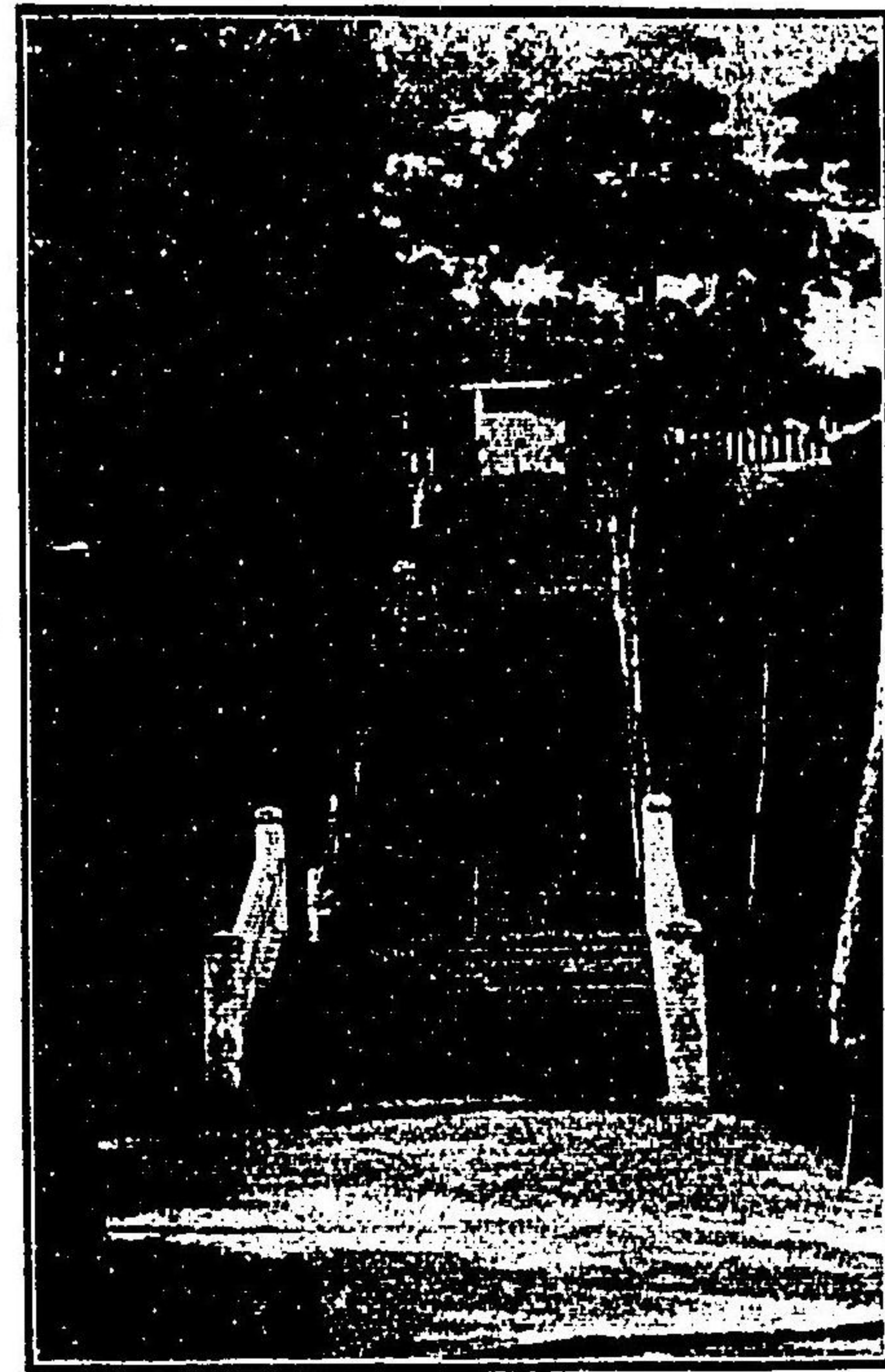


神功紀功の碑
(龍野粒座神社境内)

龍野聚遠亭



野見宿禰公墳墓
(龍野)



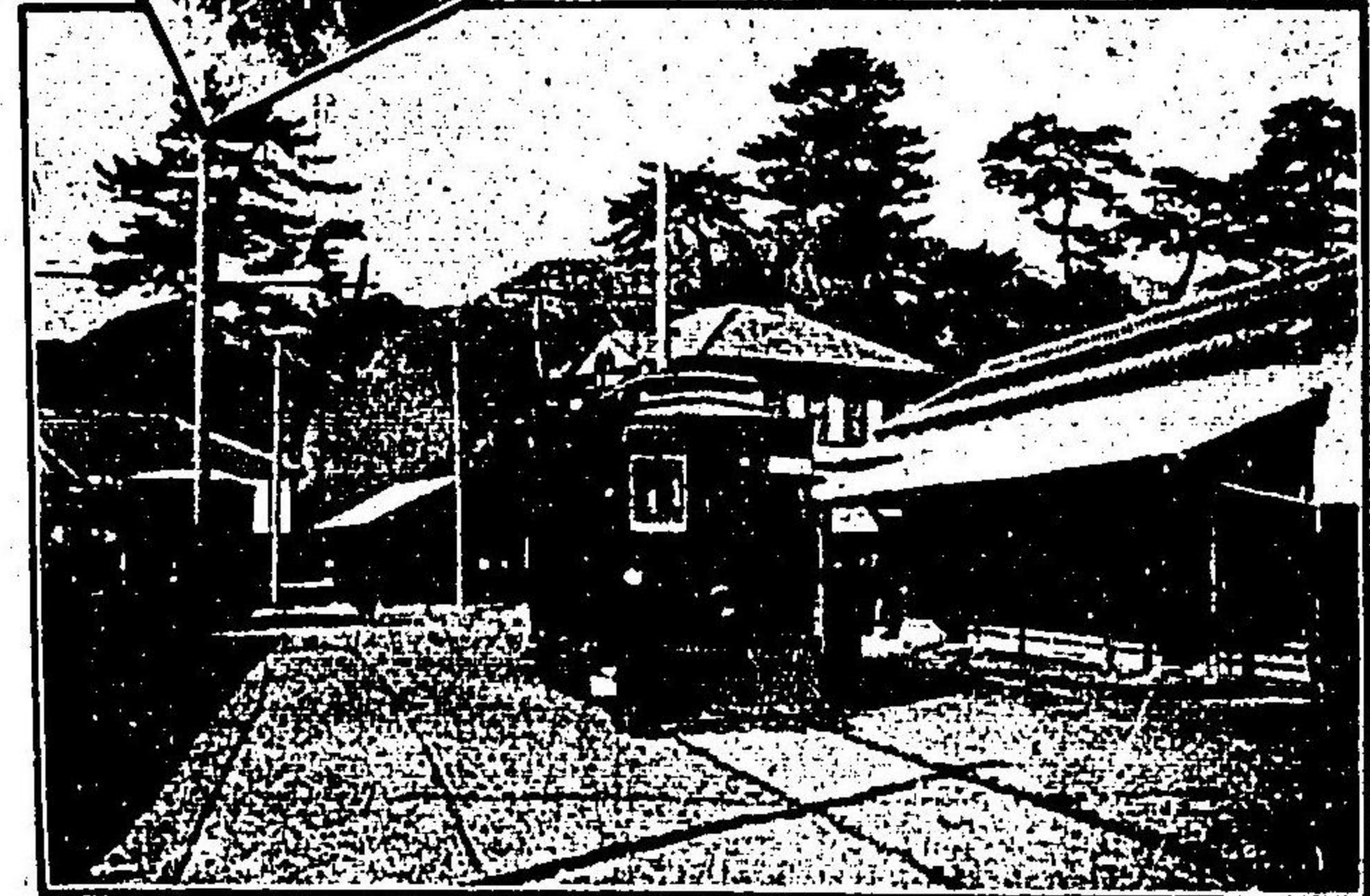
龍野揖保川樟津橋

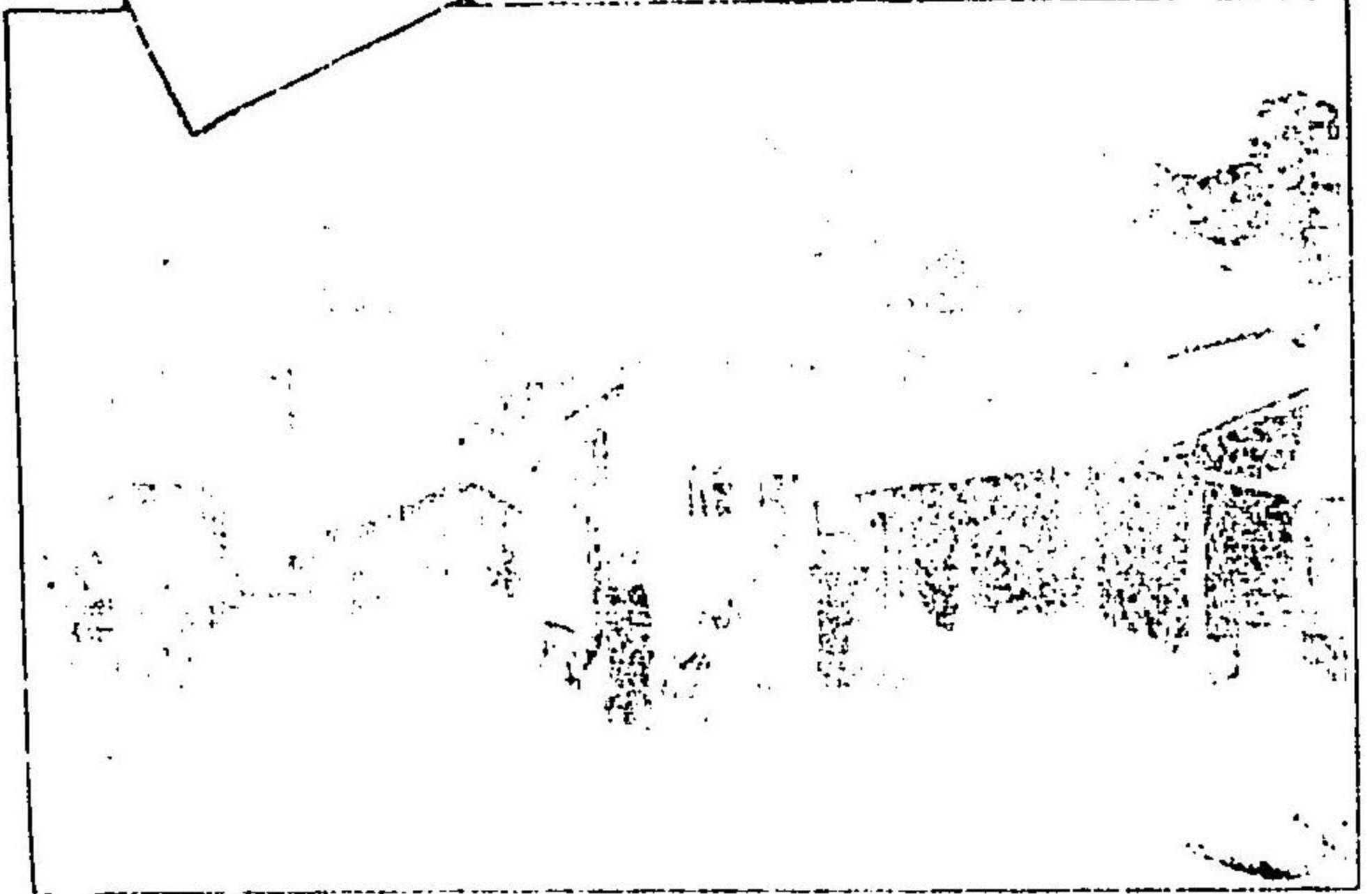
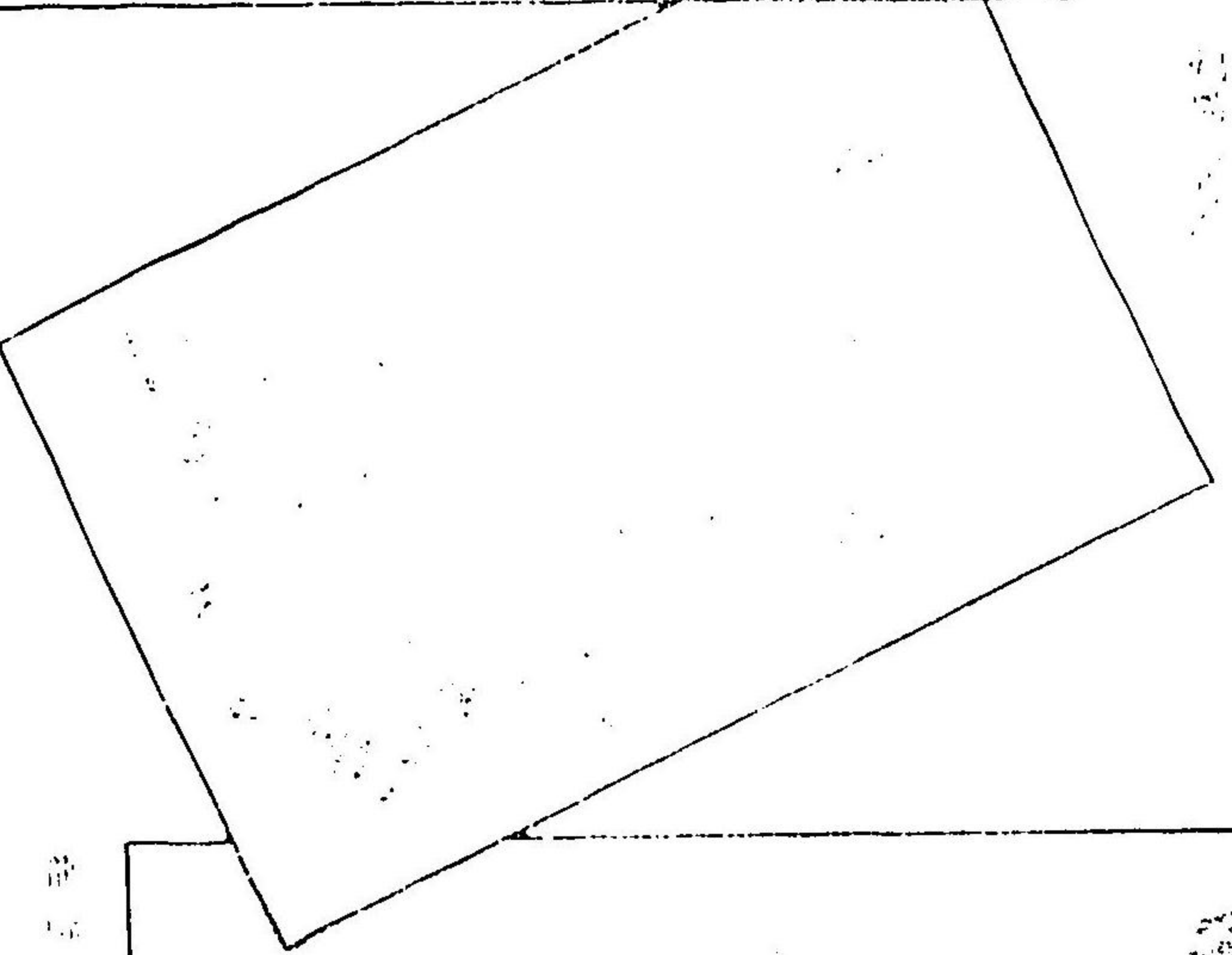
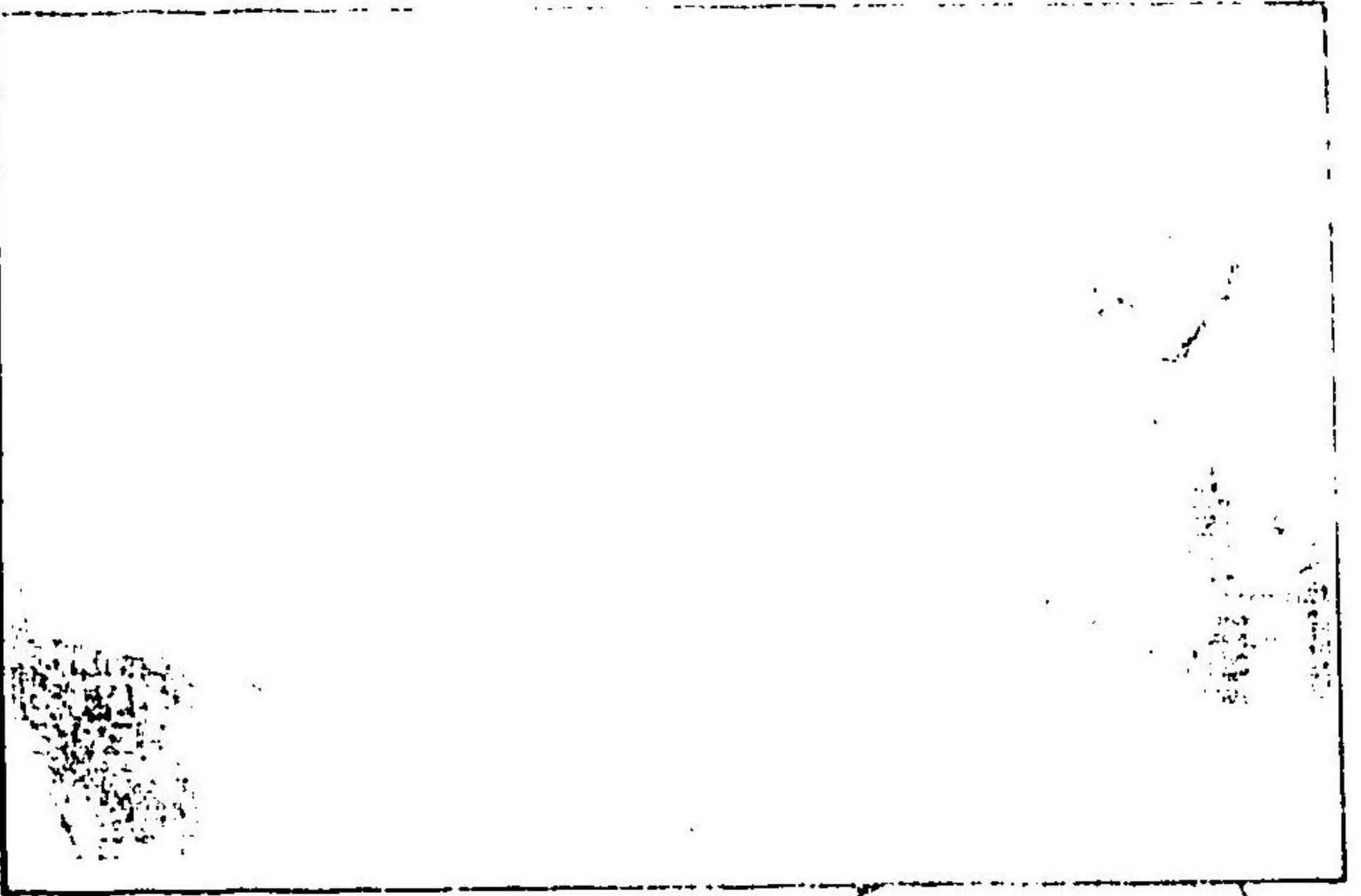


地質學上の一大奇觀安山岩(屏風岩)
(龜崎山所在)



龍野電鐵停留所





一本 店

揖保郡龍野町 電話三十二番

一支 店

同 郡網干町 電話十八番
穴栗郡山崎町 電話四番

株式會社

九十四銀行

取締役頭取 三宅虎之助

一資本金

五拾萬圓

一諸積立金

七萬六千四百圓

一諸預り金

五拾參萬六千壹圓卅五錢五厘

●本 店 掛保郡龍野町 電話七十一番
 ●支 店 同 郡神部村

株式會社 **龍野銀行**

頭取 末廣茂吉

●資本金 參拾萬圓也
 ●積立金 壹萬八千五百圓也

播州龍野町

株式會社 **龍野貯蓄銀行**

一貯蓄預
 一定期預
 一當座預
 一小口當座
 一貸附
 一割引

中原信之
 取末廣茂吉
 締淺井彌兵衛
 役松本完
 竹內伊八郎

其他普通銀行業
 最新方法ヲ以テ簡便迅速丁寧確實ニ取扱ヒ可申候

預金及貸附其他一般銀行ノ業務ハ確實懇切ニ取扱可申候

龍野樟津橋東

合資會社 堀銀行

電話長一八番

揖保郡揖西村

同 平井支店

山陽線網干驛前

株式會社 網干銀行

電話高田十番

揖保郡網干町

同 網干町支店

同 郡 鷗

同 鷗支店

同 郡 揖保村

同 揖保村支店

REFINED VERMICELLI

創立 明治廿年
組合員 貳千名

價 格 貳百萬圓

價 格 貳千萬斤

製 品 名

(素 麵)						(餛 飩)		
一等品	二等品	三等品	四等品	五等品	六等品	一等品	二等品	三等品
三神乃糸	聖乃糸	三幡乃糸	譽乃糸	揖保乃糸	龍乃糸	鶴	龜	朝
				八尋乃糸	嘴	岳	日	

イ七

銀行一般業務誠實取扱

株式會社

岩見銀行

<p>本 店</p> <p>揖保郡岩見港</p>	<p>龍野驛支店</p> <p>揖保郡龍野驛前</p>	<p>網干支店</p> <p>揖保郡網干町</p>
<p>家島支店</p> <p>電話二番</p> <p>飾磨郡家島港</p>		

イ六

原種用

神力稻種子

原種用神力種子ハ毎年一本植ヲナシテ原々種ヲ選擇シ之ヲ栽培セルモノニシテ特ニ肥培ニ注意シ出穂期ニ數回拔穂シ收穫ノ期ヲ失セズ精選セルモノナリ
多少ニ拘ハラズ續々申込アリタシ

揖保郡揖西村

兵庫縣
農會指定

平井水稻採種組合

一創立年月 明治四十年九月
 一資本金 拾萬圓
 一職工數 五百三十人
 一壹ヶ年產出高 貳拾萬圓

兵庫縣揖保郡龍野町ノ内北龍野

日本貝釦製造株式會社

オルガン ヴァイオリン

兵庫縣揖保郡龍野町

東洋樂器製造株式會社

電話三八番 振替貯金口座 第六四三六號



創業明治二十一年

オルガン
ヴァイオリン

兵庫縣
龍野町

池内風琴製造所

金銀賞牌拾五個受領



411

齒科專門

治術科目

- ◎充 填 術
- ◎義 齒 術
- ◎齒冠架工術
- ◎齒冠繼續術
- ◎齒列矯正術
- ◎口蓋破裂補缺術
- ◎拔 齒 術
- ◎再 植 齒 術
- ◎其他齒牙并口腔諸病

揖保郡龍野町ノ内河原町天保橋詰

高瀬齒科醫院

電話一三一番

413

特許熱氣消毒器械据附

あんぜんなるらしのち
消毒牛乳

兵庫縣揖保郡龍野町橋東

乳牛並牛乳

第一

藤井

牧場

ハ幾何ニテ

モ需用ニ應

ズ可候

同縣同郡新宮西町

第二

藤井

牧場

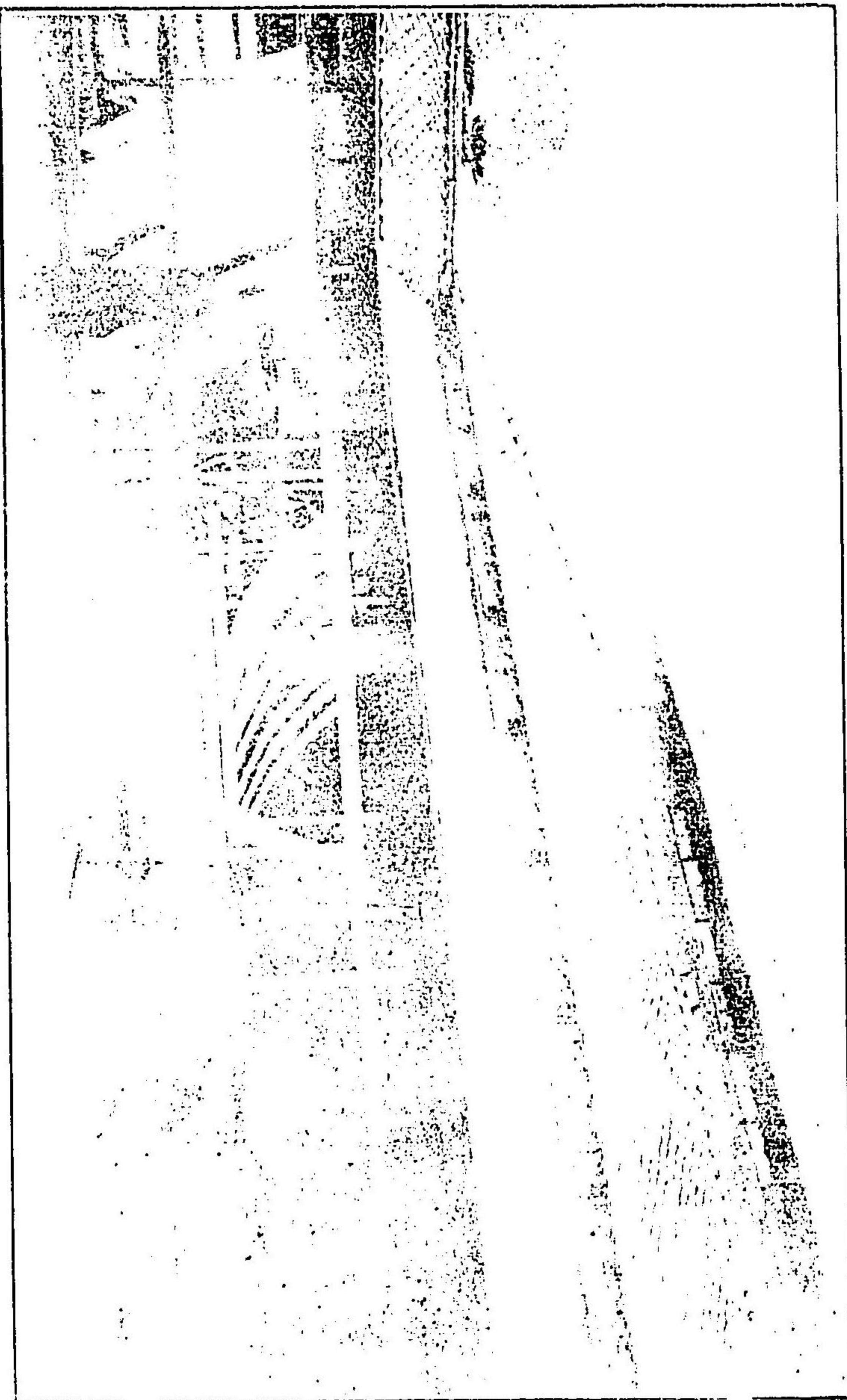
牧場主

藤井

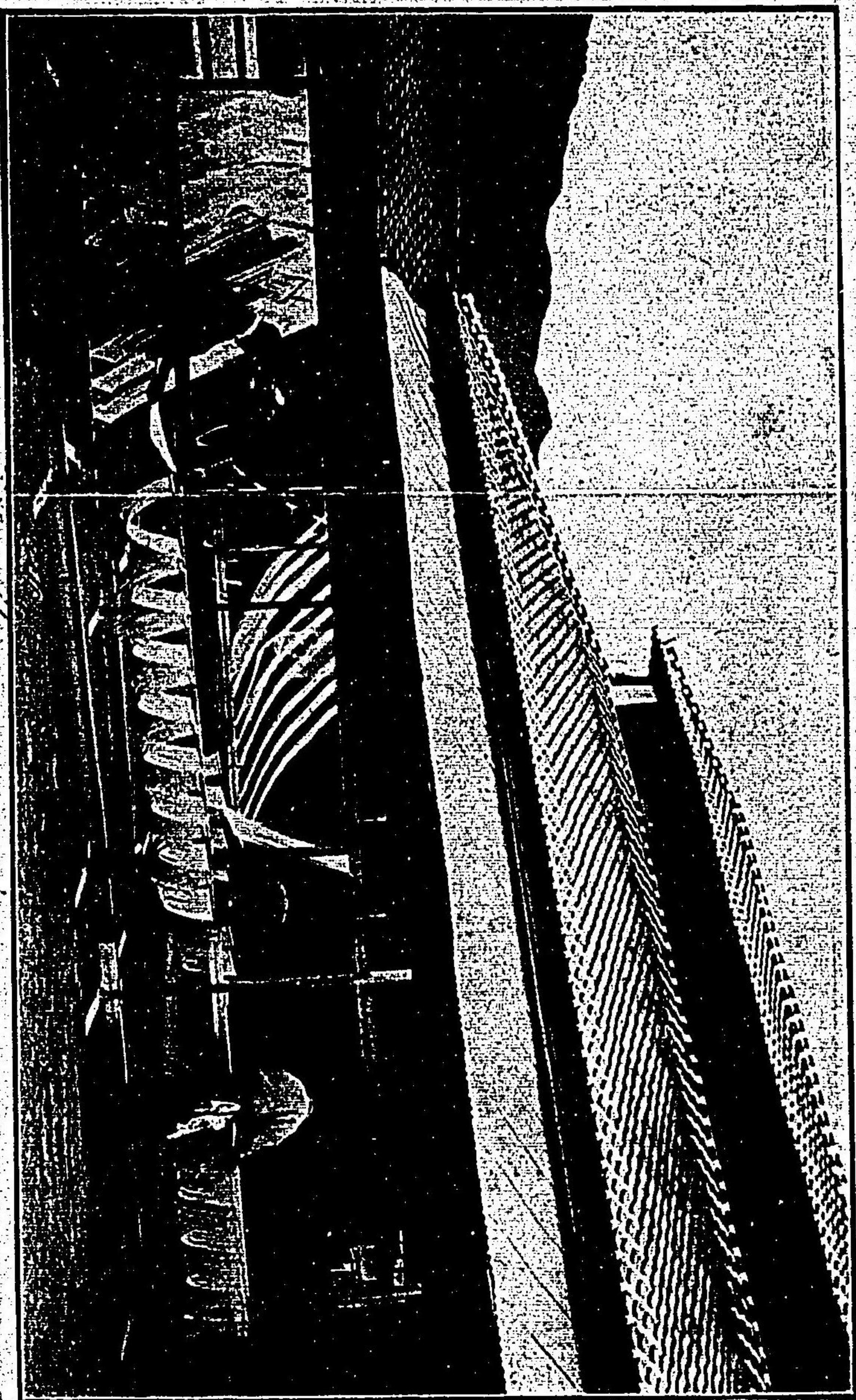
辰藏

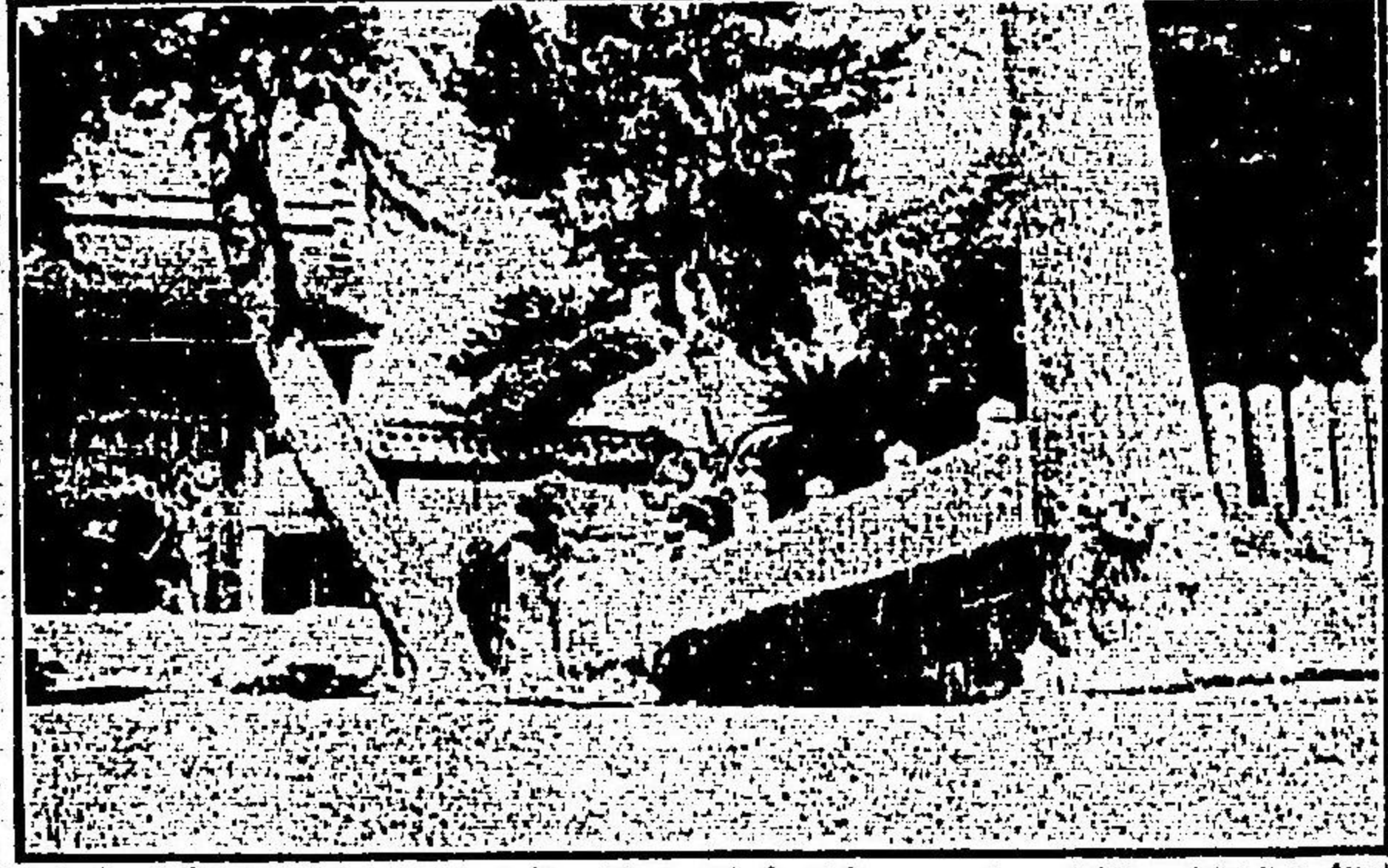
電話五十二番

三十三年三月三日

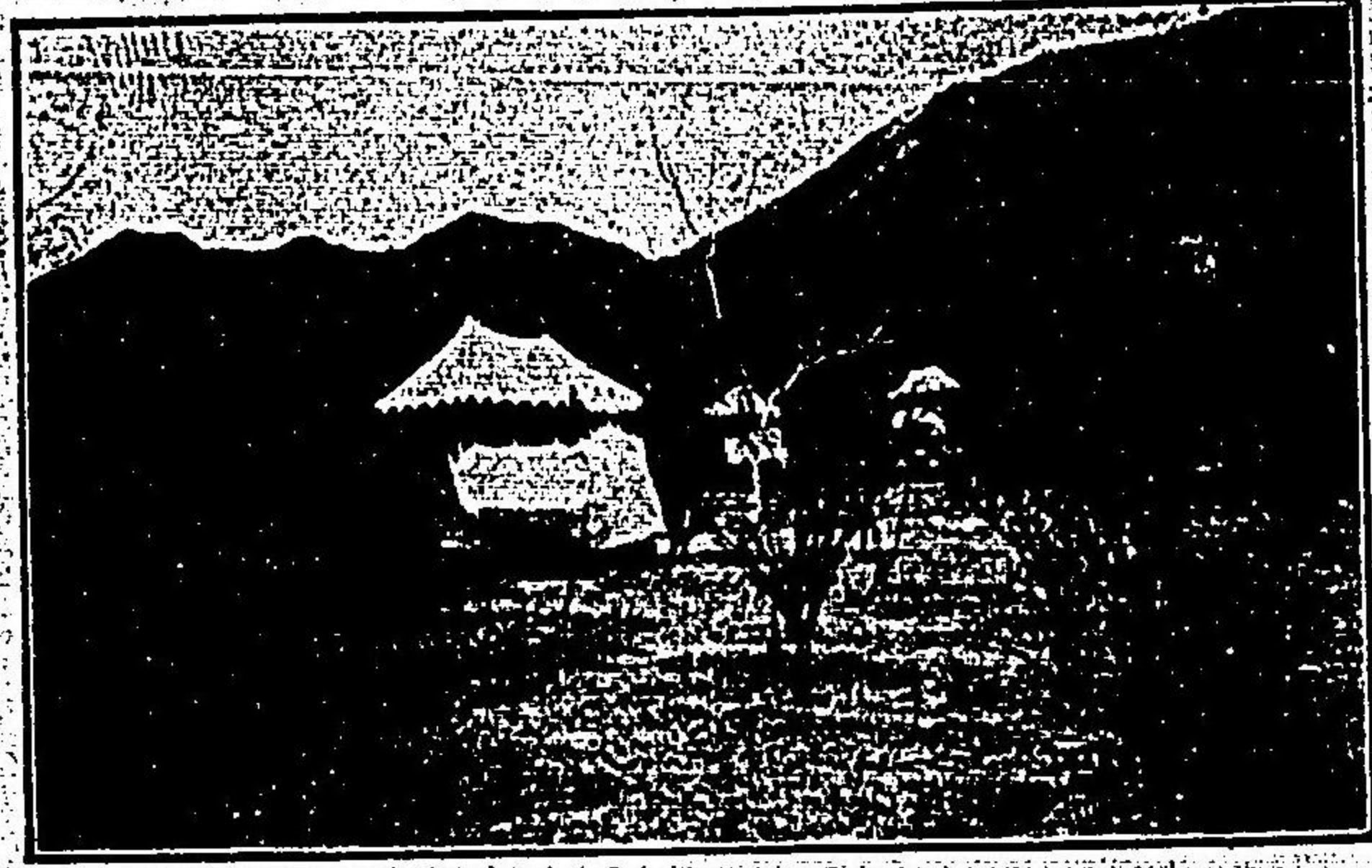


場工範模合組麵素那保揖

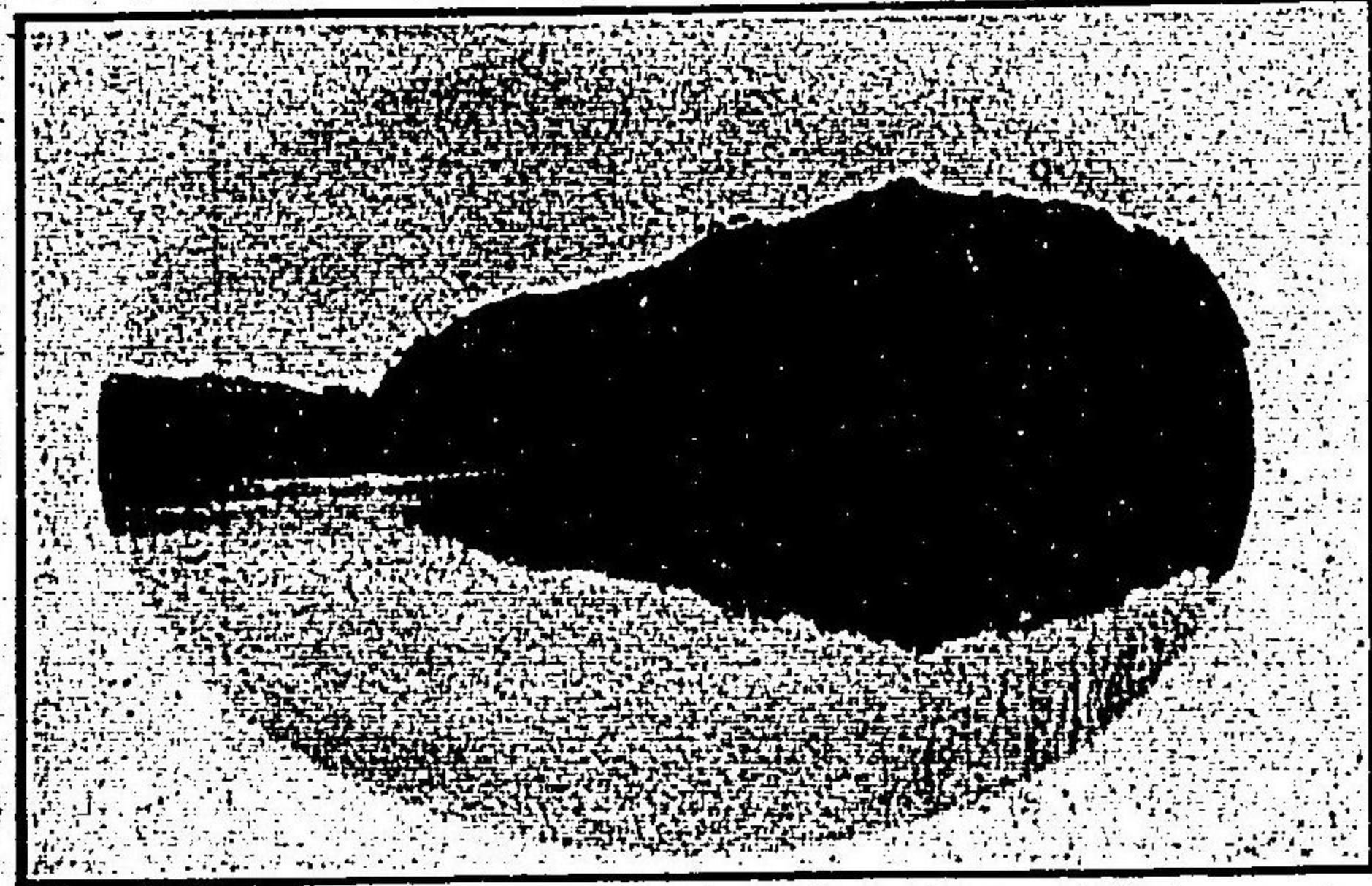




室津賀茂神社



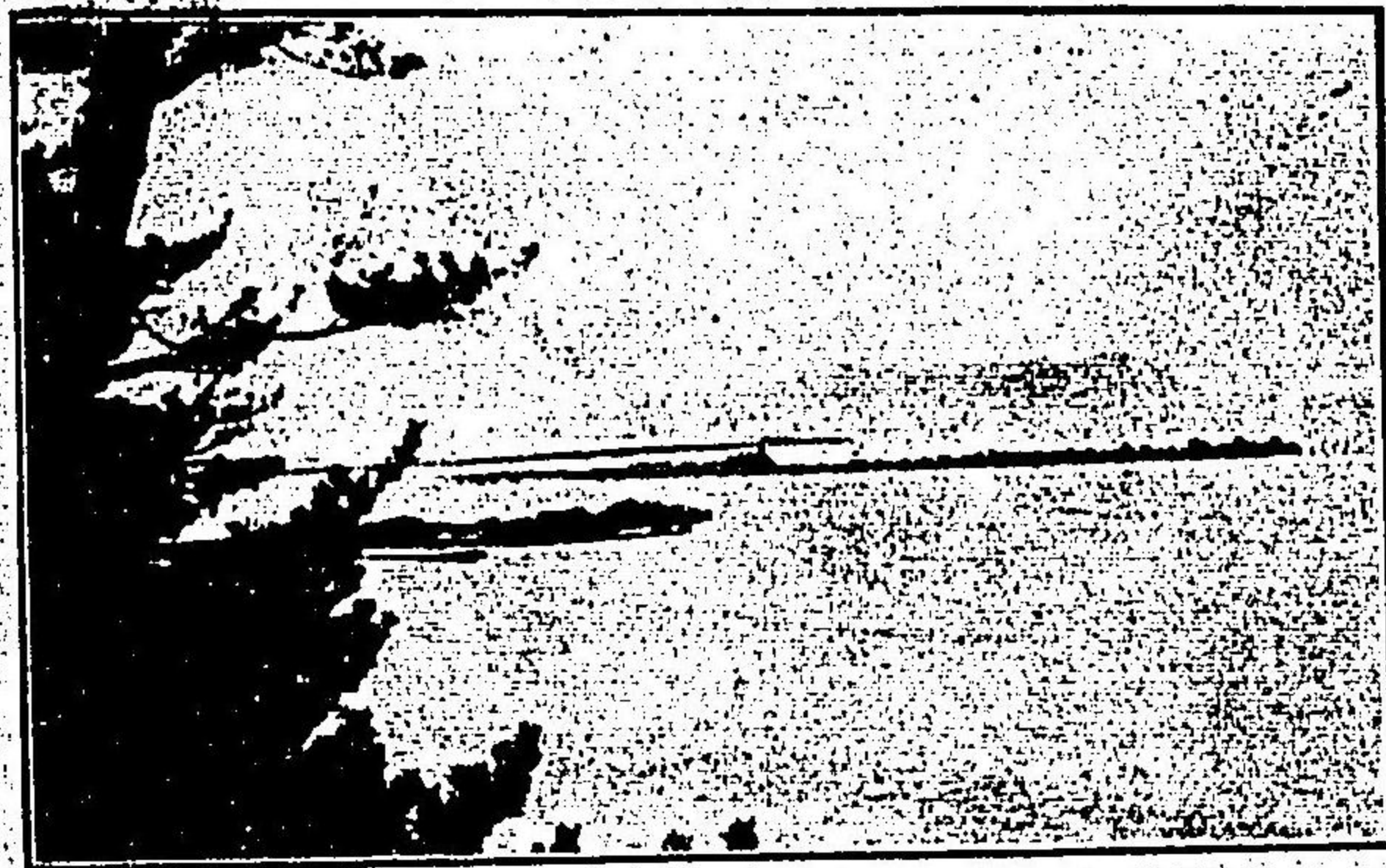
林田聖が岡梅林



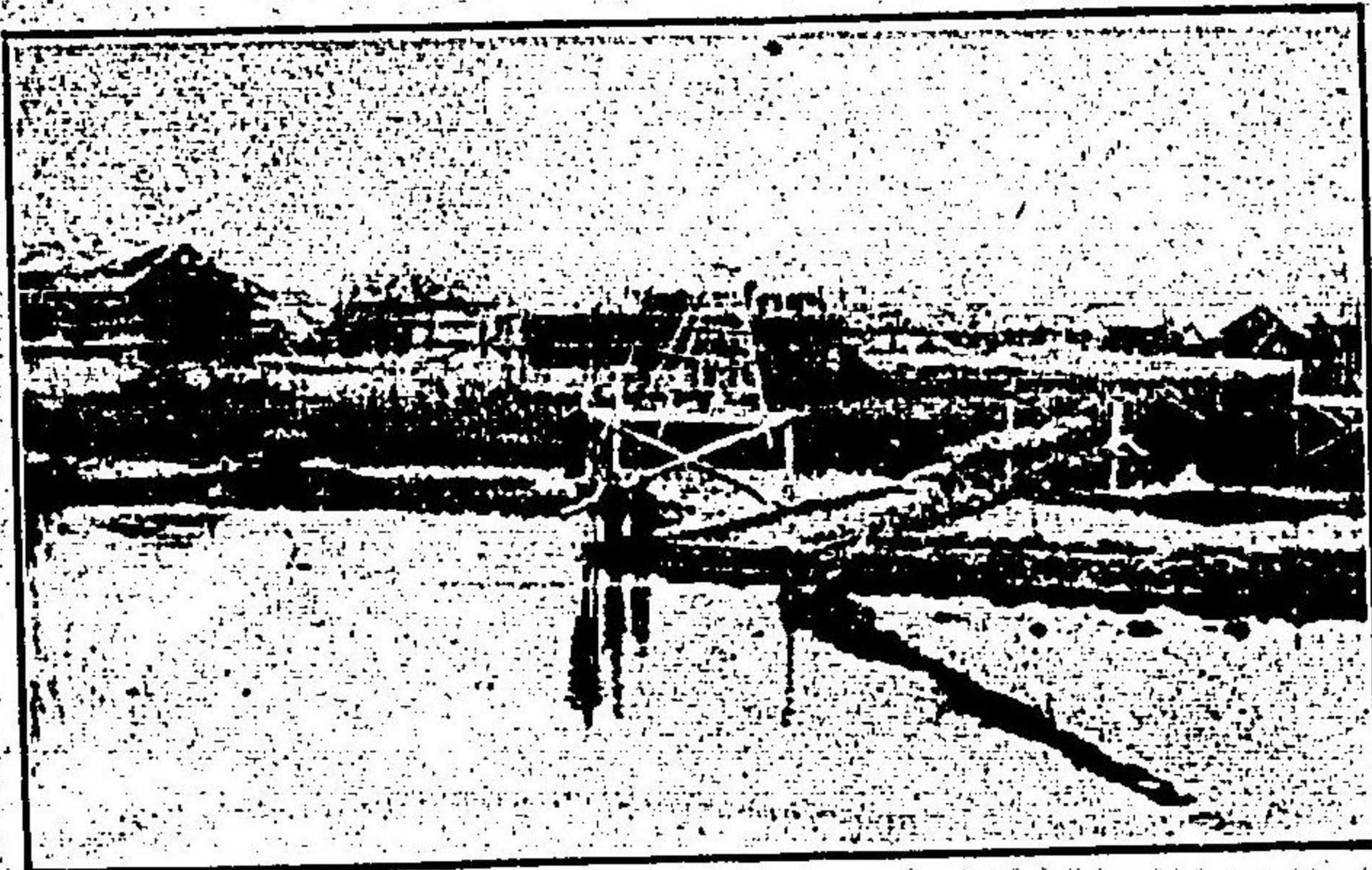
林田鴨池

龍野聚遠の亭名櫻

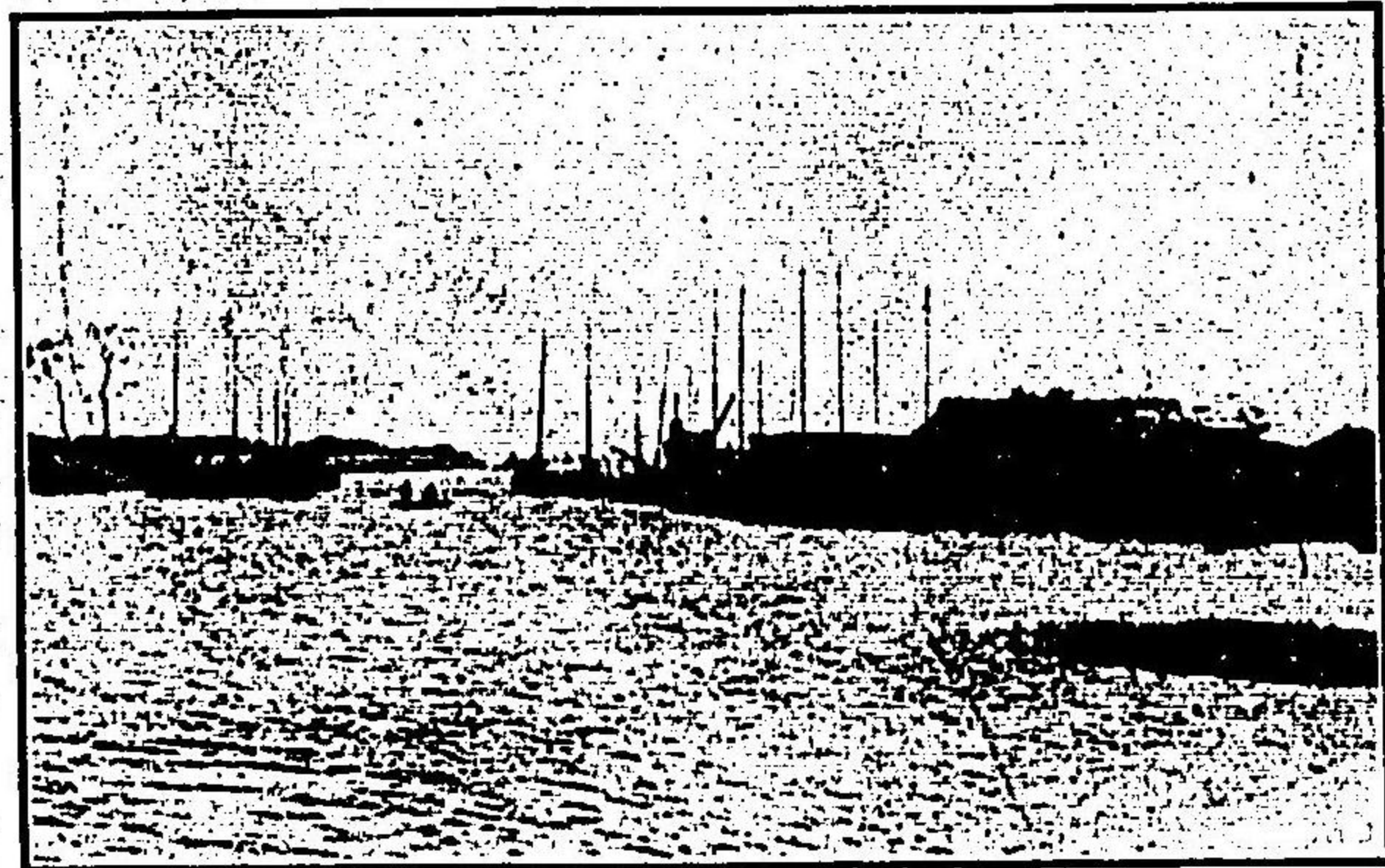




網千刈屋の投石



建築中のモルロイド會社(網千町)

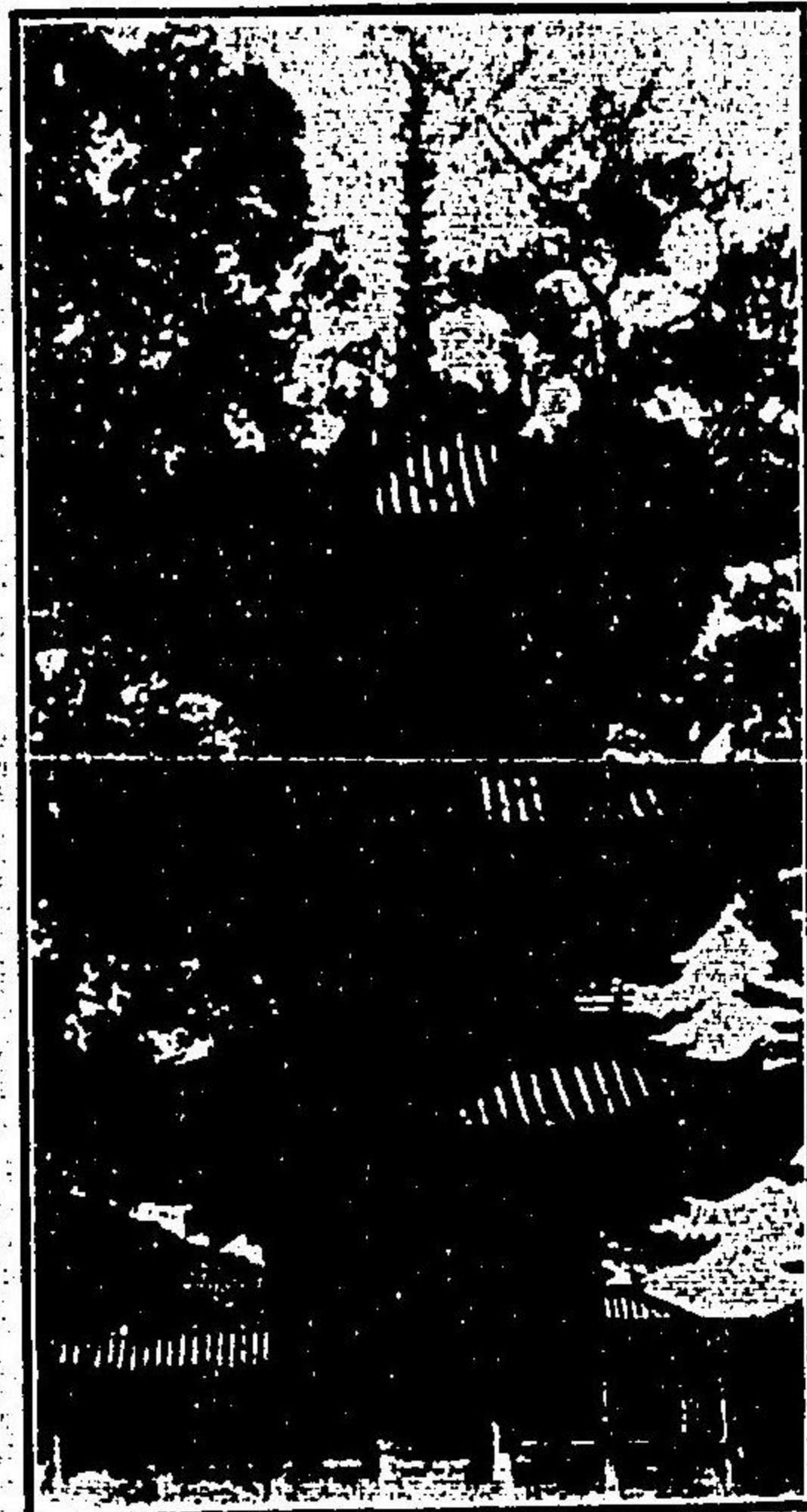


網千港

斑鳩寺仁王門



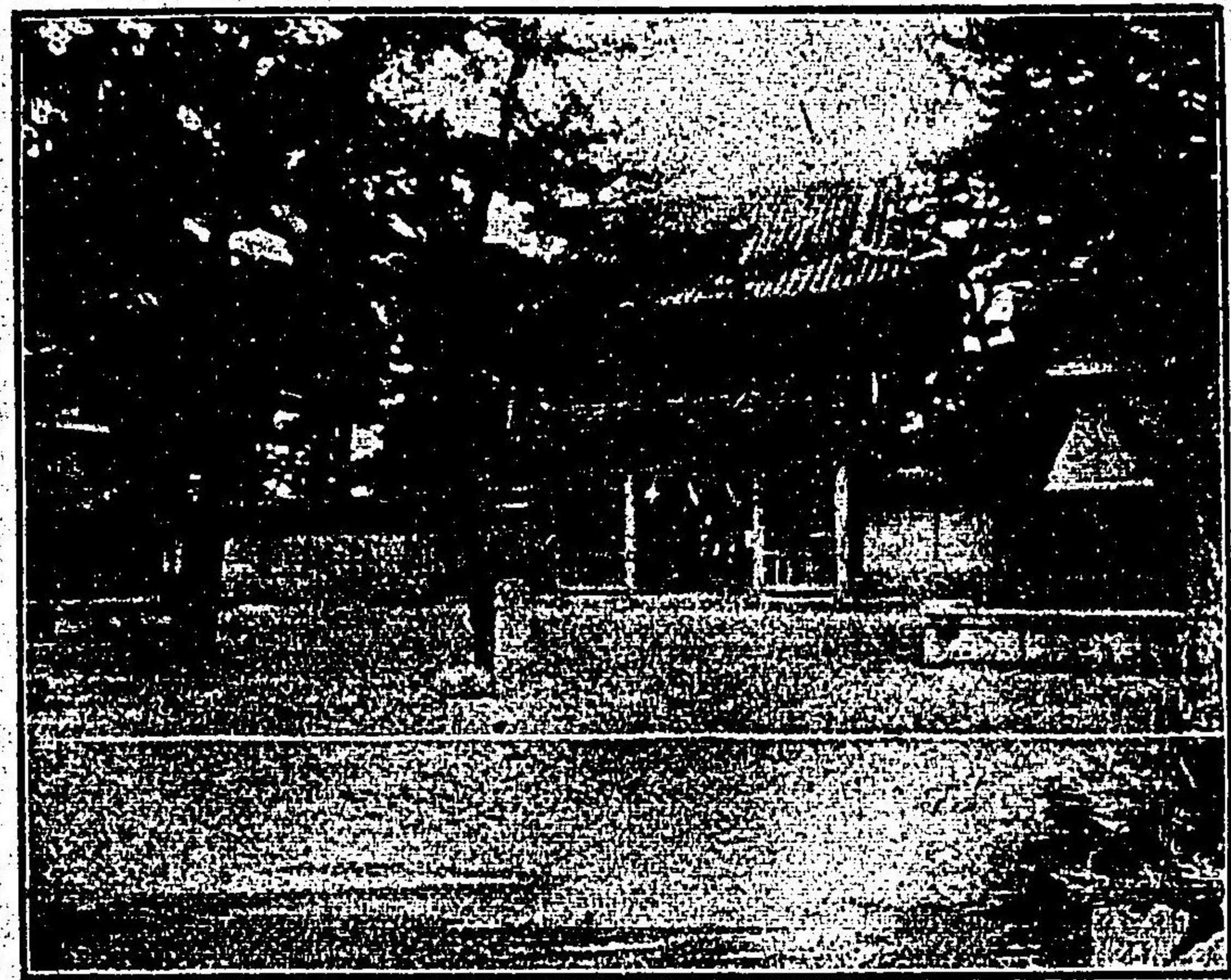
斑鳩寺の塔



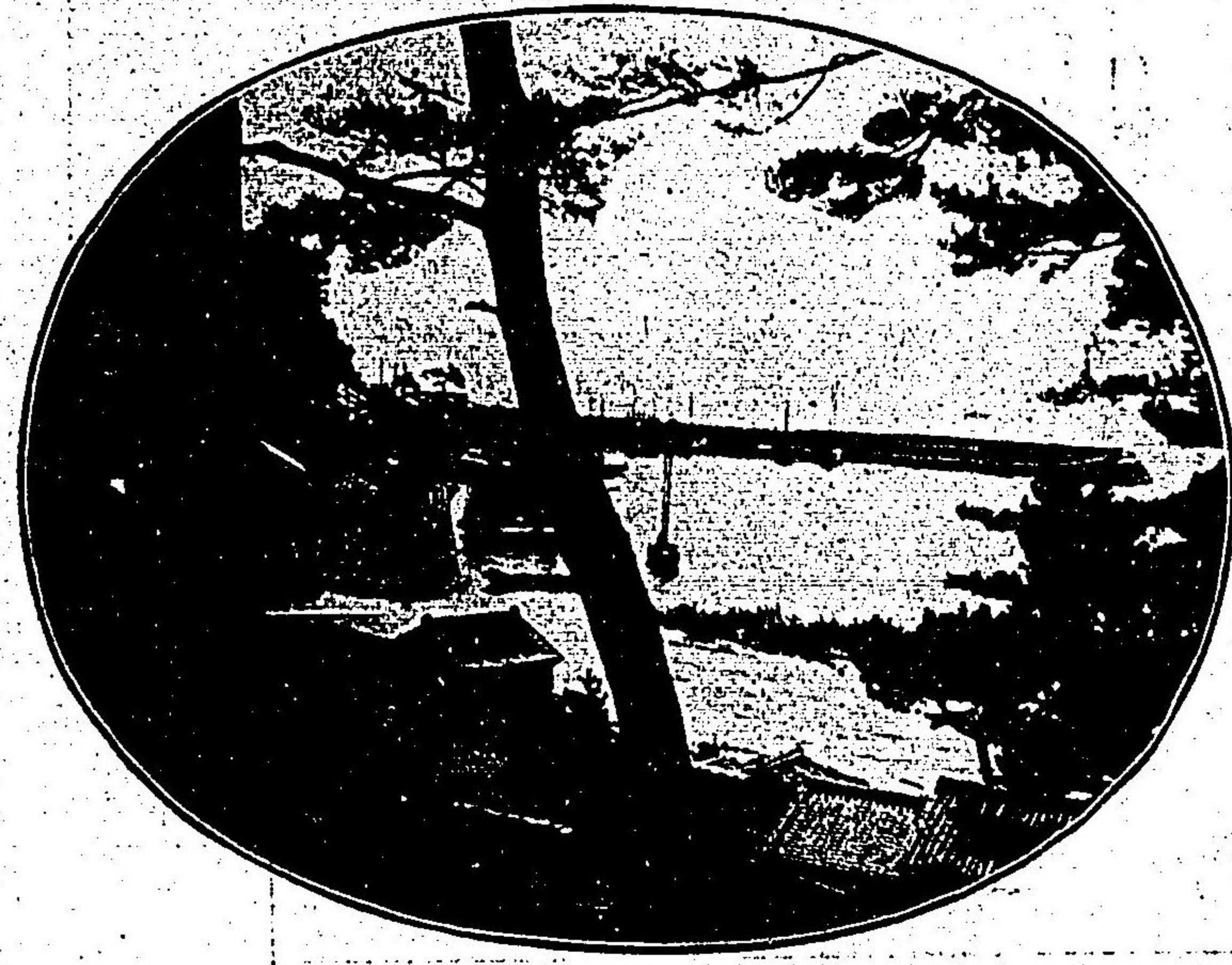
朝日山大日寺



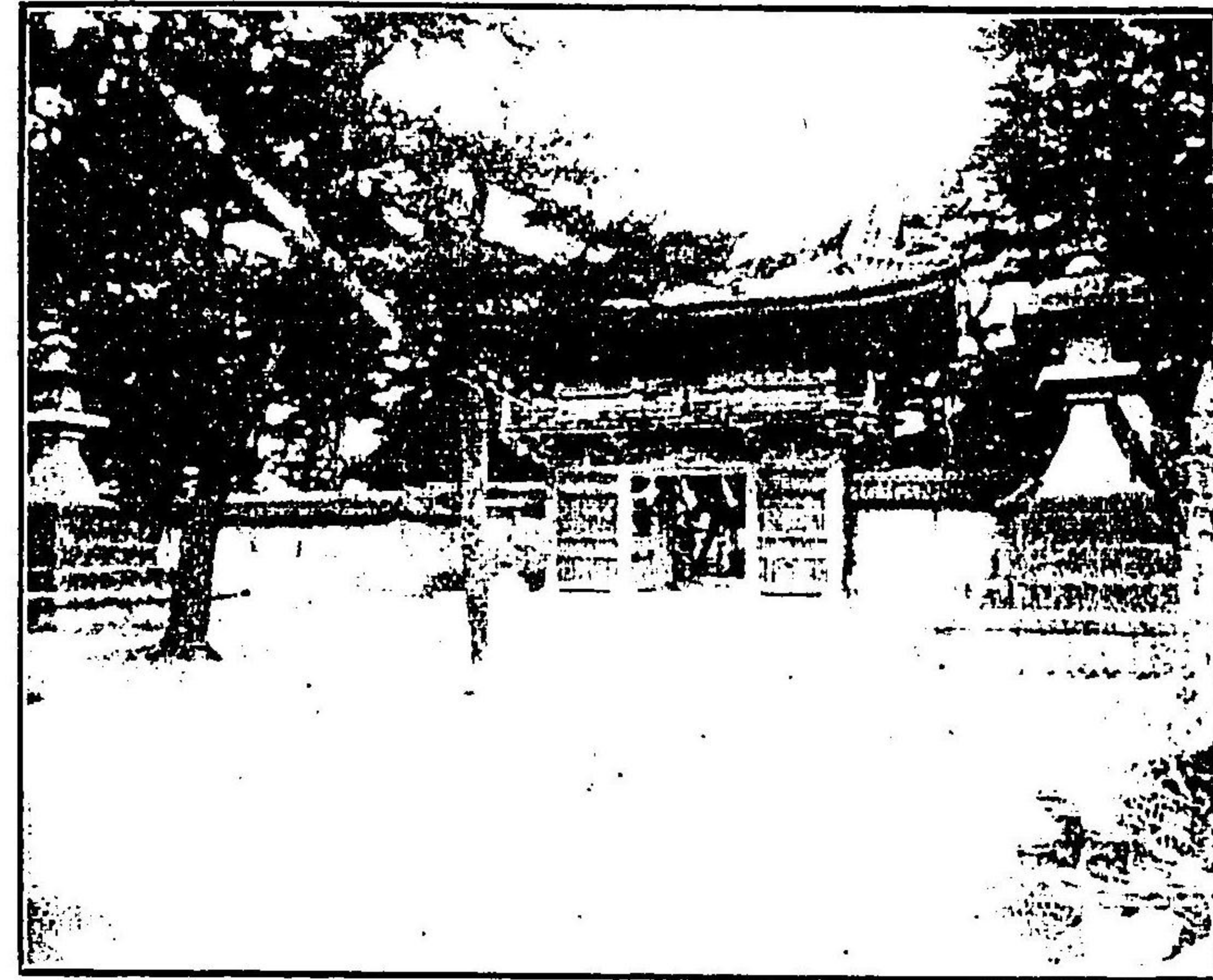
網千魚吹八幡神社



岩見港全景



網干魚吹八幡神社



岩見港全景



萬小間物

櫛 笄 簪 卸 小 賣

きせる たばこ 入

財布 錢 入

化粧品 各種

揖保郡龍野立町

念

登記商號

新

宮

屋

電話四十九番

内外砂糖商

兵庫縣龍野町



長野砂糖合名會社

電話乙五十四番

諸材木并板類

卸 小 賣

龍野新町

須藤商店

商號 煙草屋

電話五十三番

和洋酒類問屋

各地清酒賣買

白鶴印

嘉納合名會社特約店

日本魂印

江井ヶ島酒造株式會社特約店

柳正宗印

西灘酒造株式會社特約店



富井定助商店

帝國生命保險株式會社龍野代理店

電話第三十一番
大阪振替貯金口座二八九〇番

アサヒビール 大日本麥酒株式會社製品販賣

三ツ矢印礦泉 帝國礦泉株式會社製品販賣

營業品目

和洋酒

菊一醬油

勸清酢

龍野町

菊屋 片岡友次郎店

電話二十五番

兵庫縣農工銀行借入申込取次所
有隣生命保險株式會社代理店

内外砂糖商

并ニ菓子掛物米利堅粉



龍野砂糖合資會社

大日本精糖株式會社特約販賣店
神戸精糖株式會社特約販賣店

電話長距離二八番
振貯大阪一三二〇六番

和洋金物卸小賣
并ニ金庫販賣

本店

州播

町原川下野龍

商標 **新**

中村仁藏商店

萬荒物一切

耕地理用
土管各種

并ニ
左官原料一式

煉土
五特約販賣

店向

話電

番一十七

最新流行萬履物製造

卸小賣

并二洋傘帽子

兵庫縣揖保郡龍野町内角目

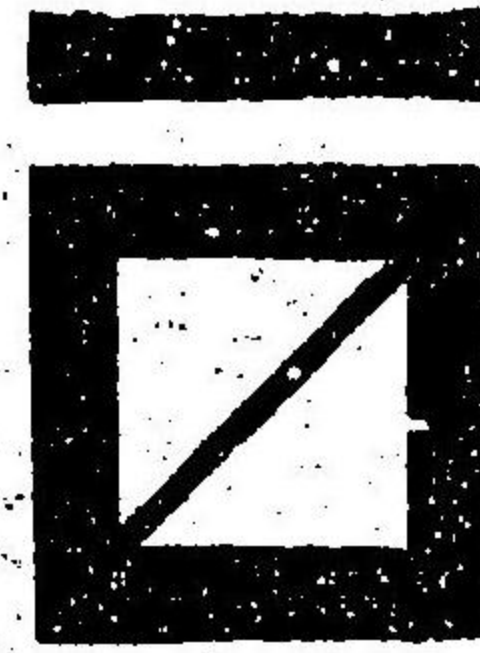
魚市場南エ入ル二軒目

勝原勝次郎商店



確

商標



實

各國漆器家具

嫁入道具一式

金銀箔漆釘類

龍野町

種谷嘉兵衛商店

電略マヌヤ
電話五十番

金物商

營業概略

大工道具打刃物各種
散髪道具ナイフ各種
ポンプ鉛管金庫各種

和洋建築金物類各種
和洋鐵釘金網類各種
地銅浪平板針金各種

商標



播州龍野町下川原町

八木甚商店

電話七十四番
(發信略號ヤキ)

營業概略

火鉢瓶掛花器類各種
神佛具裝飾品類各種
農道具園藝器具各種
○其他金物一式御注文ニ可應候也

銅真鍮日用金物各種

アルミニウム各種

鍋釜鑄物製品各種

共同火災保險株式會社
海上運送保險株式會社
ノ保險料ハ低廉ニシテ最懇切ナリ

東京市本橋區橋本町
電話本局三三二一(番)一五六一(番)

出張所
神戶
廣島
福岡

神戶通三丁目
電話二二二六
大寺通四丁目
電話六四八
下西長町二〇九



出張所
仙臺
横濱
名古屋
京都

大町四丁目
電話七四九
辨天通三丁目
電話一七四六
西區傳馬町七丁目
電話八七二
三條通東河原町西六
電話三三三六

大阪市東區高麗橋二丁目
電話長東一七五(番)一〇八二(番)

代理店

諸金物度量衡

卸小賣

揖保郡龍野町

谷理兵衛

種谷理兵衛

電話七十五番

廣告

一和洋酒各種 井ニ酢、味淋、燒酎類

富久娘、白鹿、花盛、娘盛、花娘、
菊正宗、白鶴、勇駒、なみさけ、

(キリンビール、アサヒビール、ミュンヘンビール、サイダー)
右の通り各種類特別勉強廉價販賣仕り候に付好飲家
諸士續々乞御引立

龍野町之内下モ町西角

各位

種谷酒店

商號 ますや

酒

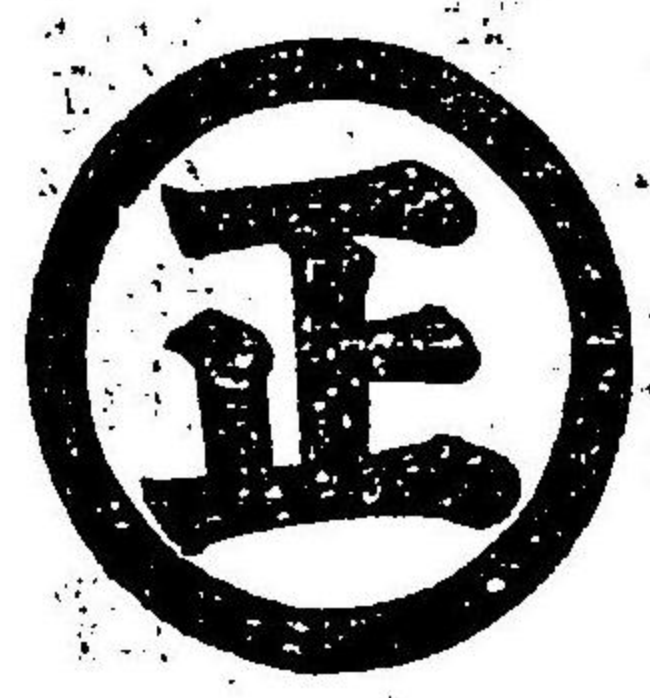
西播ニ於ケル
唯一ノ問屋創
業明治五年一
ヶ年販賣高一
千石到ル處ニ
販賣店アリ

各清酒問屋 國 矢木正三商店

(揖保郡門前村)

薄口最上醬油

マシヨウ印



品質純良經濟上調理由適ス

釀造元

矢木醬油造會社

(揖保郡揖保村)

キリンビール
ブカナシウキール
特約販賣
洋酒洋食料品及洋食器類

銘酒櫻正宗富久娘瓶詰各種

播磨網干町新在家

川中屋商店

(電話乙十九番)

揖保郡指要目次

前編

(1) 揖保郡指要

第一編	郡勢	一
第一章	位置及面積	一
第二章	沿革及現状	一
第二編	山河及港灣島嶼	三
第一章	山嶽	三
第二章	河川	六
第三章	港灣	八
甲	網干港	八
乙	室津港	一三

(1)

揖保郡指要

揖保郡指要目次

前編

第一編 郡勢

第一章 位置及面積

第二章 沿革及現状

第二編 山河及港灣島嶼

第一章 山嶽

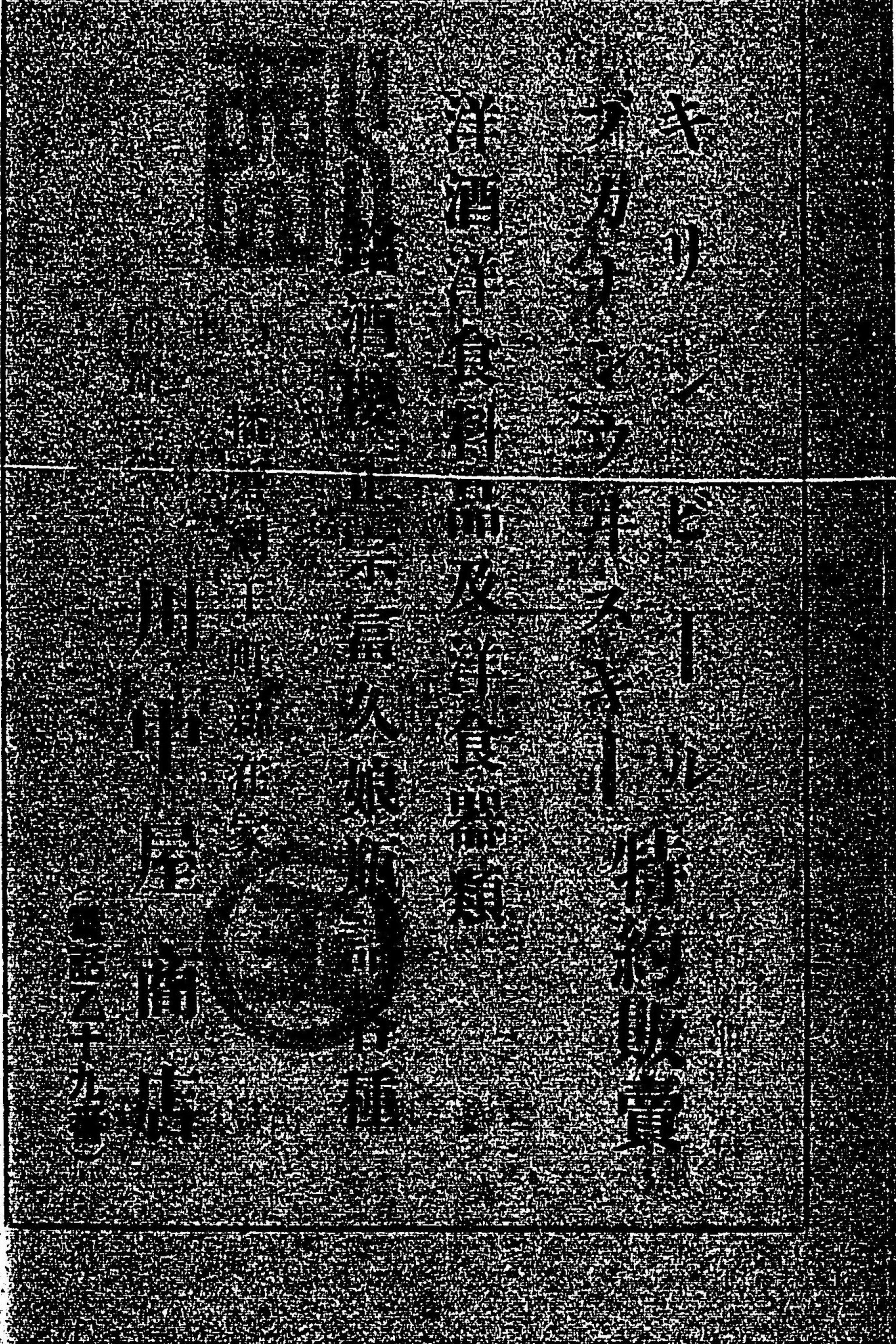
第二章 河川

第三章 港灣

甲 網干港

乙 室津港

一 一 一 三 三 六 八 八 二



(3)

要 指 郡 保 掛

第七編	第八章	第七章	第六章	第五章	第四章	第三章	第二章	丙	乙	甲	第一章	第六編
司	林	土	稅	兵	警	衛	勸	特殊教育	初等教育	中等教育	教	行政及施設
法	務	木	務	事	察	生	業	業	育	育	育	施設
.....
三九	三八	三七	三六	三四	三四	三二	三〇	二九	二七	二七	二五	二五

(2)

要 指 郡 保 掛

第二章	第一章	第二章	第一章	第三章	第二章	第一章	第四編	第三章	第二章	第一章	第三編	第四章	丙
職	風	戶數及人口	氣	鷗	林	新	氣象及戶口	鷗	田	宮	小	島	岩見港
業	俗	業	象	田	田	宮	業	田	田	宮	邑	嶼	港
.....
二四	二三	二一	二一	一九	一七	一五	二一	一九	一七	一五	一五	一四	一三

第一章	區裁判所	三九
第二章	檢事局	四〇
第八編	町村自治	四〇
第一章	町村役場	四〇
第二章	町村吏員	四一
第三章	町村會議員	四三
第九編	産 業	四三
第一章	官 業	四三
第二章	商 業	四四
甲	會 社	四四
乙	個人營業	四五
第三章	農 業	四五
甲	米	四五

乙	麥	四九
丙	其他農作物	五〇
丁	養蠶及茶	五一
第四章	工 業	五二
甲	素 麵	五二
乙	樂 器	五三
丙	貝 卸	五三
丁	燐 寸	五三
戊	織 物	五四
己	革 細工	五四
庚	紙 類	五五
辛	菓 子	五五
壬	セルロイド	五五

癸	其他工業	五六
第五章	釀造業	五七
甲	醬油	五七
乙	酒類及酢	五七
第六章	水產業	五八
甲	漁獲物	五八
乙	水產製造物	五九
第七章	畜產業	六〇
甲	牛馬	六〇
乙	家禽	六一
第八章	鑛產業	六一
甲	採鑛	六一
乙	精煉	六二

丙	鑛泉	六二
第九章	林產業	六三
甲	用材及薪炭	六三
乙	果實	六三
丙	茸類及筍	六五
第十編	財政及金融	六六
第一章	郡財政	六六
第二章	町村財政	六七
第三章	銀行	六九
第四章	產業組合	六九
第五章	貯金	七〇
第十一編	租稅及負擔	七一
第一章	國稅	七一

第二章 縣 稅……………七二

第三章 町 村 稅……………七二

第四章 協 議 費……………七三

第十二編 交 通……………七四

第一章 鐵 道……………七四

第二章 電 氣 鐵 道……………七五

第三章 諸 車……………七六

第四章 水 運……………七六

第十三編 通 信……………七七

第一章 郵 便 電 信 電 話……………七七

第十四編 青 年 團 體……………七八

第一章 沿 革……………七八

第二章 現 狀……………七九

第十五編 特種部落啓發……………七九

第一章 優 良 特 種 部 落……………七九

第二章 啓 發 の 狀 況……………八一

第十六編 城 趾 及 墳 墓……………八二

第一章 城 趾……………八二

第二章 墳 墓……………八六

第十七編 社 寺 及 教 會……………九〇

第一章 神 社……………九〇

甲 縣 社……………九〇

乙 鄉 社……………九二

第二章 寺 院……………九六

第三章 教 會……………一〇四

第十八編 名 勝 及 舊 蹟……………一〇五

第一章	名勝	105
第二章	舊蹟	111

後編

龍野	117
----	-----

目次 (終)

揖保郡指要前編

第一編 郡勢

第一章 位置及面積

揖保郡は播磨國の西南に位し管轄は兵庫縣に屬せり其面積は二十一
 方里にして東西三里十八町南北六里東は太田村の内太田山田村を以
 て飾磨郡に接し西は揖西村の内小犬丸村によりて赤穂郡に界し南は
 室津村を限りて海に面し北は西栗栖村及香島村を通じて宍粟佐用の
 兩郡と境界を交え居れり

第二章 沿革及現狀

揖保郡内は龍野林田丸龜一橋三日月姫路の六藩及び幕府領池田播磨

守知行の八領地に分屬したりしが明治四年十一月姫路縣後飾磨縣の管轄に移り龍野町に出張所を置きて揖東揖西兩郡を管轄したり同九年九月に至り飾磨縣廢止の結果兵庫縣の管轄に屬し同十二年一月鶴村に揖東郡役所を龍野町に揖西郡役所を置きて兩郡各別の統治をなしたりしも同二十六年九月兩郡を一郡役所の管轄に屬せしめて揖東揖西郡役所と稱し位置を龍野町字霞城町に定めたり同二十九年四月郡制實施の結果兩郡を合併して揖保郡と改稱し同三十三年十月現今の廳舎を新築移轉せり現郡長は安達儀一郎なり

郡會議員は三十一名議長は長谷川佳副議長は種谷理兵衛にして毎年一回通常會を開き金額五百圓以内の議決は郡參事會に委任せり

郡參事會は毎月一回例會を開く名譽職參事會員は富井桂治山本眞藏、松本永五郎中村重太郎大龜直造の五名なり

第二編 山河及港灣島嶼

第一章 山 嶽

本郡の山脈は西山揖西村の内新宮村に起りて東久保箴山に連り久保箴山は北瀧谷に接し大藏山は同村の内中垣内村の西北より崛起して東大那留山及び龜の山に及ぶ之を大那留山脈と稱す又東境には刀出の山脈郡界を走りて南海濱に至つて飾磨郡を限り大那留山脈の一部は東北龍野町に入りて臺山鷄籠の諸山となり龜の山は北方東栗栖村の内善定村の札樂山に至りて極る今其重なる山脈を列記すれば左の如し

一、大那留山 は揖西村の内中垣内村の北に在りて滿山喬木なく其山麓に大那留の溜池あり中垣内川の水源にして滿池深黒古來より大蛇の棲息すると傳へ土人は此附近に遊ぶを避くるの風あり

二龜の山 は揖西村の内中垣内村の東北隅に在りて山路峻險要害の名あり往昔赤松滿祐此山上に城の山城を築きて居る今尙當時の遺物を發見する事ありといふ

三臺山 は龍野町の西方に聳えて往時は綠樹鬱蒼たりしが明治十五年より同二十年の交數回火災に罹りて赭山となり其後漸次舊態に復し四十二年中龍野町の有志齎金して山腹に紅葉櫻を移植するの計畫成り既に其の幾分を植付たり山腹に野見宿禰の墳墓山麓に龍野神社あり

四鷄籠山 は臺山の東北に連りて山上に赤松氏の朝霧城趾あり今尙斷礎散在して往時を追懷せしむ其北方北龍野村に面する處は祇園が嶽と稱し素盞鳴尊を祭り其下は岩石數丈斷崖を成して神靈の地たりしが明治九年社殿を北龍野村に移す建速神社是なり相傳ふ朝鮮の忠清南道錦江の對岸に鷄籠山あり其山上に素盞鳴尊を祭り古

碑に庚人戈 或禾多と記載しあり從來其意味を解するものなかりしが明治四十三年庚戌の歲韓國合併の事あり始めて此句の意味を解するに至れり即ち此七字を綜合すれば庚戌國移の四字を成し昭代の慶事を豫言したるものなりとの事なるが亦た一奇と謂ふべし

五札樂山 は東栗栖村の内善定村の西邊に在る大山にして松茸の名産地なり此山には千餘の溪谷相連りて赤穂郡矢野村に通ずる徑路あり滿山松樹繁茂して閑雅幽寂仙境に入るが如し

六妹脊山 は東栗栖村の内能地村に在りて栗栖川の兩岸に南北相對峙せり郡内著名の山なり

七槻坂 は小宅村の内中井村より太市村の内西脇村に通ずる峻坂にして頂上は岩石より成り往昔源公曉實朝を此地に要撃したりと傳へ飾磨郡に通ずる要路なり數年前より改修の議起り明治四十四年一月郡費壹千圓を投じて改修する事となり目下其準備中なり

八貴船山 は林田村の内上構村の西方に在りて山麓に縣社祝田神社を安置し貴船大明神を祭る故に此名あり此山亦た松茸を以て名あり

九朝日山 は勝原村の内朝日谷村に屬し山上に朝日山大日寺あり觀世音菩薩の靈地として其名高し山腹に向陽館山麓に朝日高等小學校あり

十立岡山 は石海村の内立岡村に在り樹木疎生昔は元岡の峯と稱し八幡宮を奉祀せしが文治五年之を譽田村の内廣山村に移して阿宗神社と稱す現今山上に天満宮を祭る立岡天神と稱するもの是なり
十一檀特山 は太田村の内太田村の西方に在り満山松樹叢生して幽邃を極む山中聖德太子の遺蹟あるを以て著名なり

第二章 河川

本郡の流域は揖保川を幹線として林田川は揖保村の内眞砂村より栗栖川は越部村の内佐野村より大津茂川は大津村の内吉美村より之に合す其他篠首川札樂川中垣内川角龜川の各支流あり重なる川流左の如し

一、揖保川 は其源を宍粟郡繁盛村の内倉床村大身谷及び持越官林に發し同郡城下村の内下比地村より本郡香島村の内香山村に入り新宮越部の二村を経て龍野町の東方を流れ南に下りて網干海に入る流域十七里十六町舟楫灌溉の便あり夏期に至れば河水清淺鮎の産地を以て有名なり龍野町に面する所に樟津橋あり延長百四十五間明治四十一年橋身を鐵製に改造したり

二、林田川 は宍粟郡富栖村の内皆川村の官林に其源を發し安師村の内名坂安志鹽野植木野狭戸の各村を経て本郡林田村の内松山村に入り神岡小宅譽田揖保の各村を流れて揖保川に合す延長八里十四

丁平時は水流淺く舟楫の便を缺く
三、大津茂川 は伊勢村の内大堤村西の奥山より流れて太市、龍田、太田、勝原、旭陽、大津の各村を経て揖保川の分流新在家川に入る延長三里十五町舟筏を通せず

四、栗栖川 は源を栗栖郡菅野村の内奥小屋村字本谷山に發し西流して本郡西栗栖村の内牧村に入り東栗栖、新宮、越部、龍野の一町三村を経て揖保川に注ぐ延長約八里

第三章 港 灣

甲 網 干 港

町勢 網干港は本郡の南東に在り東は大津茂川を隔てて大津村の内吉美村に接し西は揖保川の支流を通じて御津村の内苧屋、中島兩村に連り南は海に臨み北は旭陽、余部兩村に隣れり戸數千七百四十三戸人

口男四千三百九十六人女四千三百三十二人合計八千七百二十八人郡内第一の良港にして船舶常に輻輳す河野鐵兜詩あり曰く十里垂楊風不斷家々門外有春帆以て其殷盛を知るべし此地は新在家、興濱、濱田、余子濱、大江島の五部落より成り興濱、濱田の二部落は素と丸龜藩主京極氏の所領にして興濱に興濱陣屋を置きて之れを統轄したり又新在家、余子濱、大江島は舊幕府の領地にして余子濱組と稱したり廢藩置縣の後余子濱は揖保郡第九小區、興濱、大江島新在家は同第十小區、濱田村は揖保郡第八小區に分屬したりしが其後二回の沿革あり明治二十二年四月町村制實施に際し五部落を合して揖保郡網干町に編入、同二十九年四月揖保郡網干町と稱するに至れり又町財政状態は良好にして四十二年度の決算に據れば歳入壹萬七千四百四拾參圓、歳出壹萬四千四百九拾圓、同年度租稅負擔額國稅壹萬八千七百七拾八圓、縣稅八千貳百九拾九圓、町稅壹萬七千四百四拾參圓、町基本財産は土地、建物現金を合

官衙及會社 網干警察分署は余子濱村、專賣支局出張所、網干郵便局、網干町役場は新在家村、龍野區裁判所、網干出張所は興濱村に在り、會社數は株式二、合資五、合名二にして日本セルロイド、人造絹絲株式會社、西播石炭株式會社、網干燐寸合資會社、網干九八合資會社、網干牛乳合資會社、合資會社、盛航回漕店、合資會社、福壽回漕店は新在家村、山本合名會社は興濱村、小塚醬油合名會社は濱田村に在り、其他岩見銀行支店、九十四銀行支店、網干銀行支店、龍野電鐵網干停留所は何れも新在家村に散在せり

輸出入 此地はセルロイド業の開始と龍野電氣鐵道の開通に依つて其面目を一新し、從來の漁業地は一變して漸次都邑を形成し、人口年々増殖の傾きあり、其他燐寸、貝卸、鐵工等の製造工場數個所に設立せられ

港灣は遠淺にして大船を容るゝに不便なりしも、近年浚渫船數艘を以て港口を浚渫し、海路各地に輸出する醬油、米、小麥、肥料、素麵等の價額は明治二十九年の統計に於て八拾參萬圓なりしもの同四十二年には百四萬貳千參百八拾八圓に上り、米、鹽、石油、木炭等の輸入額同二十九年に參拾貳萬千六百五拾圓なりしもの同四十二年には百萬圓を計上するに至り、四十二年以後の増加は更に莫大なるものあり

學校及名蹟 網干技藝女學校、網干尋常高等小學校は新在家村に在り、盤珪國師の開基龍門寺の古刹は濱田村に、淨土宗の巨剎大覺寺は新在家村に在り、盤珪國師は元和八年三月濱田村に生れ、幼にして英邁神童の稱あり、十二歳にして郷學に就き、大學明徳の章を講ずるを聽き、之れを辯難して一座を驚嘆せしむ、後僧密乘に就き、佛法を聽き、雲甫和尚より得度受戒せり、萬治二年京極高豐の請により、龍門寺を創建し、寛文十二年詔を奉じて妙心寺に住し、佛智弘濟禪師の稱號を賜ふ、享年七十有

二 乙 室津港

室津港は本郡の西南隅に突出し海水深く陸地に入りて自然の良灣を成せり此地は郡内最古の要港にして南東西の三方海に面し北は室山を隔て、河内村の内馬場村及び御津村の内岩見村に接せり昔神武天皇東征の時加茂建角命此の地の良港なるを發見し使者の諸神に命じて開港せしめたりと傳へ其の時使用の斧鉞鎌の摸造品は今尙賀茂神社に保存しあり縣社賀茂神社は此神を祭れるなりといふ往時は中國四國九州の諸侯參勤交代の都度此地に寄港するを常とし當時は殷盛を極め遊女數百軒を列して船客を迎へたり日本外史に所謂津妓なるもの是なり此地は室小四郎の居城たりしが後赤松圓心室山城を建て、居り應仁の頃浦上政宗此に城居す浦上氏滅後舊姫路藩の所領となり維新後揖西郡に編入し町村制實施後も別に一區劃を成せり戸數三

丙 岩見港

百六十五戸人口男千九十五人女千四十一人合計二千百三十六人人情風俗自ら別天地の感あり
此地に室津郵便局室津村役場巡查部長派出所室津製煉所室津技藝女學校室津尋常高等小學校あり住民は多く漁業を營み明治二十九年の輸出總額一萬七千九百圓同四十二年には貳拾壹萬九千八拾壹圓に上り輸入額は二十九年に三萬六千七百五拾圓なりしも同四十二年には七萬九千九百拾參圓に達し二倍の増加を示せり輸出重要品は型銅海産物輸入重要品は鹽洋紙米砂糖等なり又此地の土質は農作に適する事昨年に至りて發見せられ將來農事上發展の見込あり又果樹栽培十年計畫を立て、實行の準備中なり
港内に突出したる小山は明神山と稱し山上に賀茂神社あり見性寺は遊女室君の建立したる五精舎の一にして淨運寺と共に名刹たり

岩見港 は御津村の内岩見村に在りて舊名を伊津の浦と稱し舊丸龜藩の所領にして藩主京極氏江戸參勤交代の際必ず此地に寄港せしを以て防波堤は藩費を以て築造したり岩見郵便局、岩見銀行の所在地にして住民の大半は漁業を營み醬油、米穀の輸出亦た盛なり四十二年中の輸出額貳拾四萬七千五百圓輸入額八千八百五拾圓四十年中米穀輸出検査を開始したり最近の戸數百七十人口男四百六十八人、女三百八十二人合計八百五十人なり

第四章 島 嶼

- 一、雀島 は岩見港の東南に在りて土人は「シママ」と稱せり滿島全部岩石にして草木を生せず石疊あり干潮の時は巨石顯る毎年春期に至れば岩見港より舟を雇して石疊の上に遊宴を開く
- 二、唐荷島 は室津港の南方一里の海中に在りて樹木叢生し沖の唐荷

中の唐荷地の唐荷の三島より成り地の唐荷尤も大なり三島を合せて周圍六百四十三間地の唐荷島の東三丁を隔て、楚波邊といふ巨岩あり満潮の時は全部波中に隠れ往來の船舶難破する事あり舊姫路藩主松平忠次其上に大石數百を寄せ掛け標木を立てたるより船舶の難を免れたりといふ

三、君島 は室津港の西南約二十三町の沖合にありて周圍二百二十三日間一名を鳴島といふ往昔韓人船に乗りて此海に漂流し島上に着きて一夜を泣き明したるより此名ありといふ

第三編 小 邑

第一章 新 宮

新宮は本郡の北部に位する新宮村の一部にして東は揖保川を隔て、

同村會我井村に接し西は東栗栖村の内芝田村に界し南は井野原村及び越部村の内段の上村に隣り北は宮内村に臨む実栗街道及び因伯街道の交叉點にして往昔は薬師寺氏の所領なりしが寛永四年池田重利此地に陣屋を移すに及び繁榮を見るに至れり重利の後三世邦照十三歳を以て寛文十年正月歿後一時絶家の姿なりしが其弟重明三千石を賜ひ後八世頼方江戸奉行となりて治蹟あり王政維新後會我井宮内井野原下野の四村と共に揖保郡第一小區に屬し明治十九年新宮村外四個村戸長役場と改稱し同二十二年町村制實施の際五村を總稱して新宮村と云ふ戸數は五部落を併せて四百九十六戸人口男千四百二十二人女千四百二人名計二千八百二十四人なり

新宮郵便局、新宮警察分署及び新宮村役場、新宮尋常高等小學校、新宮銀行及び新宮物産合資會社は新宮村に、新宮山西精米株式會社は井野原村に在り

郷社八幡神社は村内の勝地にして同村宮内村の梅林亦た有名なりしが近來其大半を失ひたり耕地となれり

此地の商工業は明治維新以後多少衰退の傾きあるも尙商家軒を列して小市街を成し山崎佐用兩地方に往復するもの必ず此地を過ぐといふ

第二章 林田

林田は本郡の東北方に在る一小邑にして林田村の中堅たり、東は林田川を隔て、同村口佐見村に通じ西は同村上構、久保兩村に連り北は六九谷村に接し南は下構村に界す鳥取街道の要衝にして往昔三木源六郎の窪山城ありし所なり元和三年建部政長此地に移封せられ此城趾に城樓を築きて居る政長九世の後裔政世に至りて王政維新となり林田藩知事たり林田藩は六九谷構、齋崎、東保の四組に分れたるが廢藩置

縣の後揖保郡第二小區、第三小區、第四小區、第六小區、第七小區に分屬し、明治十三年林田上構、中構、下構、久保、六九谷、松山、林山田、中山下、西奥佐見、東奥佐見、口佐見、林谷の十三村を第五戸長役場區域に編入し、同二十二年四月に及び之を林田村と總稱したり、戸數十三部落を合せて八百四戸、人口男二千四百五十八人、女二千二百六十一人、合計四千七百十九人なり。

敬業館は建部政賢の建つる所にして、今尙現存し、其一部は林田村役場、一部は林田文庫、一部は公會所に使用し、其上に窪山城趾なる聖が岡あり、礎礎尙在り、梅林のある所なり。

林田に林田郵便局、林田銀行、巡査部長派出所、林田村役場、林田尋常高等小學校あり、林田製麵合資會社は久保村に、長谷川合名會社は六九谷村に在り、又此地に河野鐵兜の遺趾あり、梅樹榭往時を追懷せしむ、鐵兜名厩宇夢吉秀野の別號あり、文政八年十二月網干余子濱村に生れ、天保

十一年丸龜藩儒吉田其淵に就て學ぶ事一年、弘化二年伊津村今の岩見港に出で醫業を開き、其後關東地方を遊歴して歸り、興濱大覺寺に入りて子弟を教授す、嘉永四年林田藩主建部政醇の聘に應じて、敬業館の教授たり、其後山陽九州の各地に遊んで、安政元年十二月歸國し、同二年四月林田に轉居し、新塾を開く、慶應三年二月六日病を獲て起たず、享年四十三、遺稿數種あり、鐵兜遺稿廣く世に行はる、其弟通鸚網干町に現存し、醫業を開く、鐵兜の子天瑞工學博士たり。

林田の西北方に鴨池あり、名勝の地なり、(第十八編名勝及舊蹟第一章及名勝参照)

第三章 鷗

鷗は斑鳩村に在りて舊名を斑鳩驛と稱し、赤松圓心、足利直冬、の古戰場たり、岡山街道の要路に當り、聖德太子の建立する斑鳩寺の所在地なり、此地は舊龍野藩の領地なりしが、維新後揖保郡第七小區に屬し、其後第

九戸長役場の管轄に移り同十九年阿曾下阿曾馬場の三村と共に鶴村外三個村戸長役場と稱し同二十二年町村制の實施に及びて此の四村を斑鳩村と總稱せり戸數は四部落を合せて三百五十九戸人口男千五百五十四人女千九十四人合計二千二百四十八人なり
此地は斑鳩寺によりて其存在を認められ明治四十二年龍野電氣鐵道開通するに及びて益々其名を高めたり同會社は鶴村の南部に在りて鶴銀行に對し其他鶴警察分署、鶴郵便局、龍野區裁判所、斑鳩出張所、斑鳩村役場、網干銀行支店、斑鳩燐寸合資會社、鶴牛乳合名會社の所在地たり
神社は稗田神社あり寺院は斑鳩寺の外に眞宗西光寺等あり斑鳩女學校、斑鳩高等小學校、斑鳩尋常小學校も亦た同村に在り
商工業は盛況と稱する能はざるも旅館等の設備ありて國道筋は一小市を成せり

第四編 氣象及戸口

第一章 氣象

氣候は概ね中和にして冬季降雪稀なり四十三年中の最高氣温龍野に於て攝氏三十四度一分、網干三十六度五分、最低氣温龍野零度、網干一度なり、降雨量は一個月最多量龍野二百十三耗、網干百七十八耗、最少龍野六十二耗、五網干三十三耗、晴天日數兩地平均二百二十三日、雨雪日數同上四十八日、其他は曇天にして地震回數は四回なり

第二章 戸數及人口

郡内の戸數は一萬七千七百九十八戸にして網干町の千七百四十三戸を最多とし伊勢村の二百二十一戸を最少とす又人口は男四萬九千二

百九十九人女四萬八千九十三人にして合計九萬七千三百九十二人最も多きは網干町の八千七百二十八人最少は伊勢村の千二百三十一人各町村別戸數及び人口左の如し

龍野	一、四二一	六、九九一	四栗栖	四七八	二、八八二
東栗栖	五七五	三、一七八	揖保	一、二九二	六四一四
半田	四〇六	二、一五九	神部	四八二	二、三三九
河内	三七三	二、一三一	室津	三六五	二、一三六
御津	八三三	五、四六四	余部	三二二	一、五八三
揖保	七六八	四、一三七	香島	六四〇	三、六〇六
新宮	四九六	二、八二四	越部	五一四	三、一二四
神岡	八五二	四、九四九	林田	八〇四	四、七一九
伊勢	二二一	一、二三一	太市	三七六	二、一四四
龍田	三七二	一、九四七	小宅	六八二	三、六六四
譽田	四八一	二、七七八	斑鳩	三五九	二、二四八
犬田	五五〇	三、二〇三	勝原	四五三	二、四六九

石津	七六九	三、六九二	旭陽	五六一	三、一五六
大津	六二〇	三、四九六	網干	一、七四三	八、七二八

第五編 風俗及職業

第一章 風俗

曆は大部分太陽曆を用ゐ或一部分に尙太陰曆を用ふるものありしも四十三年より此風漸次改れり一月は三日間門前に松竹を飾り此月十四日には「トンド」と稱して左儀長の儀式あり二月節分には豆撒の行事あり雑祭は三月三日又は四月三日端午は五月五日に之を行ひ男子出生の家は鯉幟を邸内に立て、其大を競ふ七月七日は七夕祭にして色紙を新竹に吊り下げて初生の茄子、胡瓜等を供へ乞巧の奠を行ふ十三日より十六日までは盂蘭盆にして各戸祖先の靈を祭り墓所に彩燈

を掲げて香花を供し夜間には男女各部落に集りて盆踊をなし居りしが近來此風漸次衰退の傾向あり毎年十月中には各所に鎮守祭を行ひ氏神を祭り又毎年春期に至れば青年一團となりて伊勢の神宮に詣で中には父兄に隠れて行くものあり一月八月は俗に大節季と唱えて商工業者の大取引を行ふ結婚は血統を重んじ男尊女卑の風あり葬儀は鄭重に行はれ隣保相助くるの美風を存す

第二章 職 業

戸數一萬七千七百九十八戸中六割八分は農業に従事し其數は四萬七千二百三十三人なり之に次ぐは商業の二千五百五十七戸五千六百八十四人工業の千四百二十七戸四千二百八十五人にして漁業及採藻業は六百七十六戸一千十六人日雇労働者六百五十一戸二千五十人公務及自由業二百八十二戸七百九十二人雜業百四十四戸六百一人之に次ぎ

其他は製鹽業交通業家事使用人飼畜業林業及狩獵業等にして無職業者亦た四十六戸二百十八人あり赤貧にして官衙の救助を受くるものは九戸十四人の少數なりとす

第六編 行政及施設

第一章 教 育

郡教育費は四十三年度豫算參千參百參拾八圓にして郡費總額の一割五分五厘に當り町村教育費は四十二年度決算に據れば小學校費拾壹萬貳千五百貳拾壹圓其他教育費參千八拾九圓にして町村費總額貳拾萬八千七百九拾六圓の五割五分三厘を占む又學齡兒童數は男八千八百二人女八千七百七十三人にして就學歩合は百人中男九十八人九三女九十八人五四平均九十八人六九に當れり小學兒童の貯金は尋常一萬

四百七十六人貯金額貳萬六千參百貳拾壹圓、高等千百六十八人貯金額七千參百九拾六圓にして一人の貯金最多額尋常百九拾貳圓八拾六錢六厘、高等百七拾五圓五拾參錢五厘平均額尋常貳圓五拾壹錢貳厘、高等六圓參拾參錢貳厘なり次に學校基本財産は現金、有價證券、田畑、山林の總價額貳萬九千貳百參圓に上れり

郡教育會は元私立揖保郡教育會と稱し會員組織なりしが明治三十八年十月日露戰勝紀念として町村教育會を起し全町村教育會を糾合して私立揖保郡教育會を設立せり現今の會長は大塚薫にして四十一年以來基本金壹萬圓を募集し四十三年末之を財團法人の組織に改め其利子を以て事業を經營する事となり毎年一回夏期講習會を開きて教員養成に努め其他矯風談話會、特種部落啓發青年會、指導獎勵等を行ふ今郡内の教育を中等教育、初等教育、特殊教育の三種に分ちて之を詳述すべし

甲 中等教育

中等教育の機關としては縣立龍野中學校、郡立技藝女學校及び私立宮本塾あり其位置は何れも龍野町に在り龍野中學校の生徒數は三百三十三人、校長は大塚薫にして明治三十年四月の創立に係る、郡立技藝女學校は元と龍野町立なりしが明治四十二年四月郡立に改めたり生徒數百五十七人、揖保郡長安達儀一郎校長の事務を取扱ふ又私立宮本塾は明治三十三年の創設にして漢學、英學、數學を教授す宮本矩繫塾長たり

（龍野第一編第二章人文誌第一節）
（三住民の二教育の部參照）

乙 初等教育

郡内の小學校は高等小學三尋常高等小學十五尋常小學十三、合計三十一校にして高等小學はもと全町村の組合立にして龍野、網干、斑鳩、旭陽、新宮、林田、神部の七校を經營したりしが明治三十年三月三十一日之を解散して七組合に分離し現今にては龍野高等朝日高等、斑鳩高等の三

校のみ附近町村の共同經營に屬し其他は各自村の尋常小學校に併置す西栗栖、東栗栖、揖西、半田、神部、河内、室津、御津、揖保、香島、新宮、神岡、林田、大津、網干の十五尋常高等小學校是なり高等科生徒數千四百三十五人、之を男九百三十九人、女四百九十六人に分つ、四十三年三月末學級數三十七、教員數四十二人、此月俸總額九百貳拾參圓、其最高は四拾圓、最低八圓、平均月俸貳拾壹圓九拾七錢なり、又龍野高等小學校は修業年限一個年の補習科を設け生徒數男八人、女九人、合計十七人あり尋常科は前記の十五校及び龍野、余部、越部、伊勢、太市、龍田、小宅、譽田、斑鳩、太田、勝原、石海、旭陽の十三尋常小學校にして生徒數一萬二千九百六十八人、内男六千六百八十一人、女六千二百八十七人、學級數は普通編制二百十七、二部編制四十にして全日二部教授を實施し居るは西栗栖二、太市四、龍田二、合計八學級、半日二部教授は河内二、室津四、御津四、林田四、譽田二、太田四、大津四、網干八、合計三十二學級なり而して教員總數二百六十八人、月俸總額四

千參百貳拾四圓、最高四拾圓、最低は八圓にして平均月俸拾六圓拾參錢なり、又郡内の小學校教員總數を男女に區分すれば男二百三十六人、女七十四人なり

丙 特殊教育

特殊教育は龍野町の私立商工補習夜學校、私立子守學校、龍野幼稚園及び網干技藝女學校、斑鳩女學校、室津技藝女學校、西栗栖裁縫學校等にして商工補習夜學校、龍野幼稚園、子守學校に關しては龍野の記事に譲り

(龍野第一編第二章人文誌第三節 三住民の二教育の部参照) 其他に就て述べん

網干技藝女學校は町立にして同尋常高等小學校内に在り裁縫、家政、修身、國語、算術を教授し生徒數十五人、男教員三人、女教員一人なり、室津技藝女學校は村立にして同村尋常高等小學校内にあり生徒數二十七人、裁縫、手藝、家事、修身、國語を教授し男教員一人、女教員二人なり、斑鳩女學校は斑鳩外三村の組合立にして斑鳩高等小學校内に在り生徒數十八

修身、國語、算術、家事、音樂を教授し、女教員一人、西栗栖裁縫學校は村立なるが、現今入學生なく、休校の姿に在り

第二章 勸業

四十三年度郡歳出豫算に據れば、勸業費四千貳百參拾八圓にして、農業技手三名を置きて、農事及び畜産の奨励に従事せしめ、又各種講習會の開設、産業組合の奨励、實業功勞者の表彰、各種品評會の褒賞、稻苗正條植の奨励、實業視察員派遣、樹藝及び遠洋漁業の奨励等に相當の費用を支出し、別に參千四百四拾圓の勸業補助費を設けて、耕地整理、郡農會、素麵同業組合、播磨釀酒業者組合に補助金を交付し、居れり、又四十二年度の町村勸業費總額は、壹千百五拾圓にして、龍野町及び大津揖保の兩村は勸業會を組織せり

郡農會は、町村農會を以て組織し、會長は橋本新一郎なり、郡費より千五

百圓の補助を受けて、各種品評會の開設、種苗の交換及び肥料の共同購入、其他農業上の奨励事業を施設せり、町村農會に四十二年度町村費より補助したるは、貳千七拾四圓なり

郡産牛馬組合は、郡内の牛馬飼育業者を以て組織し、其數五千八百六十五人、郡内を九區に分ち、郡農會より壹千圓の補助金を受けて、家畜市場の開設、牛馬糞市の開始、患畜の治療等を行ひ、畜産技術員二名を置けり、組合長は橋本新一郎なり

耕地整理は、明治三十九年より施行し、既に工事に着手せるは、神岡村の内大住寺村、神部村の内那波野村、揖保村の内揖保上村、半田村の内半田村、余部村の内下余部村、神岡村の内澤田村、揖保村の内揖保中村、勝原村の内山戸村、御津村の内新屋村、揖西村の内佐江村の十地區にして、總反別三百八十三町六反三畝二十步、設計工費額八萬六千五百貳拾八圓、内成功反別二百九町一反四畝十九步なり、又揖保、譽田、小宅三村に跨る浦

上井組四百三十四町三反七畝十四歩の地區は本縣下第一の耕地整理地區にして四十三年中組合設立の認可を得、組合長は桑田房吉之に任じ設計既に成り四十四年度より工事着手の筈なり
 其他稻苗正條植獎勵、米麥種子の鹽水撰及種子交換、綠肥栽培、堆肥改良、副業の獎勵、害虫驅除の豫防等相當の實踐を擧げ居れり

第三章 衛 生

郡内の衛生状態は良好にして毎年春秋二期大清潔法を行ひ種痘は公種痘、私種痘の二種に分ち公種痘は毎年春期一回町村費を以て施行し私種痘は各戸随意に醫師の施術を受く、四十二年度町村費中衛生費六千八百八圓、四十三年度郡費中衛生補助費を支出せるは壹千四拾圓にして町村常設産婆補助、郡衛生會補助、産婆學資補助、郡醫師研究會補助等に支給せり

郡衛生會は會員數三百餘名、毎年夏期傳染病發生の時期に至れば郡内數個所に衛生講話會を開く、郡費補助額は毎年金百圓なり又町村衛生組合數は二百七十九を算せり

郡醫師會は郡内の免許醫を以て組織し毎月六日研究會を開き又臨時に斯道の大家を招聘して研究に資する所あり會長は中原誠也、郡費補助額は毎年金百圓なり

郡産婆會は郡内の新産婆三十四名より成り會長は中原誠也、時々講習會を龍野町に開く又學校醫は二十一名にして伊勢大津を除くの外は各小學校とも之を設置するも一人にして二校以上を兼務するものあり一箇年手當總額四百四拾壹圓、最高六拾圓、最低拾貳圓なり

最近の調査に據れば醫師六十二名、齒科醫二名、整骨醫一名、新舊産婆百八十三名、藥劑師十名なり

第四章 警察

龍野警察署は龍野町に在りて網干、鶴新宮の三分署を管轄し居れるが其沿革は明治三年揖西郡龍野町に集會所を置き邏卒若干名を配置して揖東揖西、赤穂、佐用、宍粟の五郡を總轄したり明治十年佐用、山崎、安積、新宮、鶴網干、正條の七分署を新設し同十五年中赤穂郡を分離し同十九年十一月宍粟郡分割同二十六年十二月佐用郡を分割し同二十七年林田、正條兩分署を廢し同四十年六月林田に巡查部長派出所を置きたり現在の廳舎は明治二十一年の新築に係り署長は播磨靖行、網干分署長藤原恒吉、鶴分署長新納時徽、新宮分署長辰見友吉、全管内の派出所三駐在所三十五個所なりとす

第五章 兵事

第四章 警察

龍野警察署は龍野町に在りて網干、新宮の三分署を管轄し居れるが其沿革は明治三年揖西郡龍野町に集會所を置き、遷卒若下名を配置して揖東、揖西、赤穂、佐用、宍粟の五郡を總轄したり。明治十年佐用、山崎、安積、新宮、鶴岡、正條の七分署を新設し、同十五年中赤穂郡を分離し、同十九年十一月宍粟郡分割、同二十六年十二月佐用郡を分割し、同二十七年林田、正條兩分署を廢し、同四十年六月林田に巡查部長派出所を置き、たり。現在の廳舎は明治二十一年の新築に係り、署長は播磨靖行、網干分署長藤原恒吉、鶴岡分署長新納時徽、新宮分署長辰見友吉、全管内の派出所三駐在所三十五個所なりとす。

第五章 兵 事

官 鹽 元 賣 捌 所

ライジングサン石油株式會社指定代理店

神戸海上運送火災保險株式會社代理店

兵庫縣網干町

中 圓 尾 商 店

店主 中圓尾善左衛門

電話長三十八番

和洋菓子司處

并

煉

羊

羹

干

生

菓

子

餅

饅

頭

其他

各國名菓箱詰罐詰各種販賣

播州龍野町角目

合

林宇市商店

營業課目

各國銘石

龍野町北龍野

鳴瀬合名石材店

電話八三番

地方石材

作州吉田郡上齊原

鳴瀬製材所

工業用木材

販賣

土木請負

鳴瀬德太郎

音福大一の界藝園業農

兵庫縣立農事試驗場有効證明

大阪 松本化學研究所發明

園藝作物害虫 驅除特效液 **ゾナール**

打田商會製造に係る松本化學研究所發明の園藝作物害虫驅除液「ゾナール」は農作物特に園藝作物の害虫驅除に其の効果顯著なるものあるを認む、柑橘の赤壁蝨、梨の軍配虫、果樹蔬菜の蚜虫等を全滅すること容易にして使用簡便なるは石油乳劑、松脂合劑等に優る事數等なりとす農家、園藝家にして普ねく之を使用せば能く栽培の目的を達することを得べし

明治四十三年九月十四日

大阪府技師農學士高橋久四郎印

詳細ナル説明書御申越次第無料進呈可仕候

製造發賣元 大坂市北區上福島 打田商會 代理店 播州龍野とち川内海辰治

有効證明

産前 産後、子宮病、ちのみち、大妙藥。特に しらち、ながちの特効劑。

婦人 **豊血湯** 定價 二日分 七拾錢、三日分 七拾錢、七日分 四拾五錢

並にちのちの出る妙藥。たんせきの妙藥。

明石大久保小山製のお花藥。ね小べんの藥。

此他各有名賣藥特約販賣

但し何の病にても藥御入用の時は御尋下さい

赤穂名産しそり鹽、こんぶ鹽、ごま鹽、おかるはみがき鹽、腹ぬくめ、温石鹽 此外御進物箱入瓶入やき鹽いろくあり。

龍野横町商號木屋

專賣局指定 煙草鹽販賣人 **高須常次郎**

○諸油、蠟燭、筆、墨、紙、硯、上品安價販賣。

團扇製造業

御一報次第見本及カタログ送呈

兵庫縣龍野町



原田彌兵衛商店

長電話 二十四番

振替大阪八三七三番

各國時計販賣並修繕
京都染物一手大取扱所
金錢株券土地家屋賣買周旋業

播州龍野河原町

合 山田繁太郎

美術紙函製造商

龍野町

赤帽商會

永野冬苗

振替大阪七六五五

全國各博覽會
一等賞金牌多賜

長くも皇室の御用品として

賜宮内省へ御買上榮

龍野名物 煉羊羹

御菓子司

名産揖保のさび一名 鮎菓子

龍野町字立町 (電話乙四九)

製造本店 龍野町 齋崎屋

店主七世 溝江幸吉

近來粗弊 自來品店 轉有純良 車及御ナ 及イ注ル 一ヤア意 和シス 製販ス



商標



登錄



英國皇室御料

パイナップル自轉車特約販賣

附屬品卸小賣販賣

并ニ修繕

天下第一品

英パーマタイヤ

輸入元東京二葉屋特約販賣

優等車

龍野町角目魚市場四五軒南

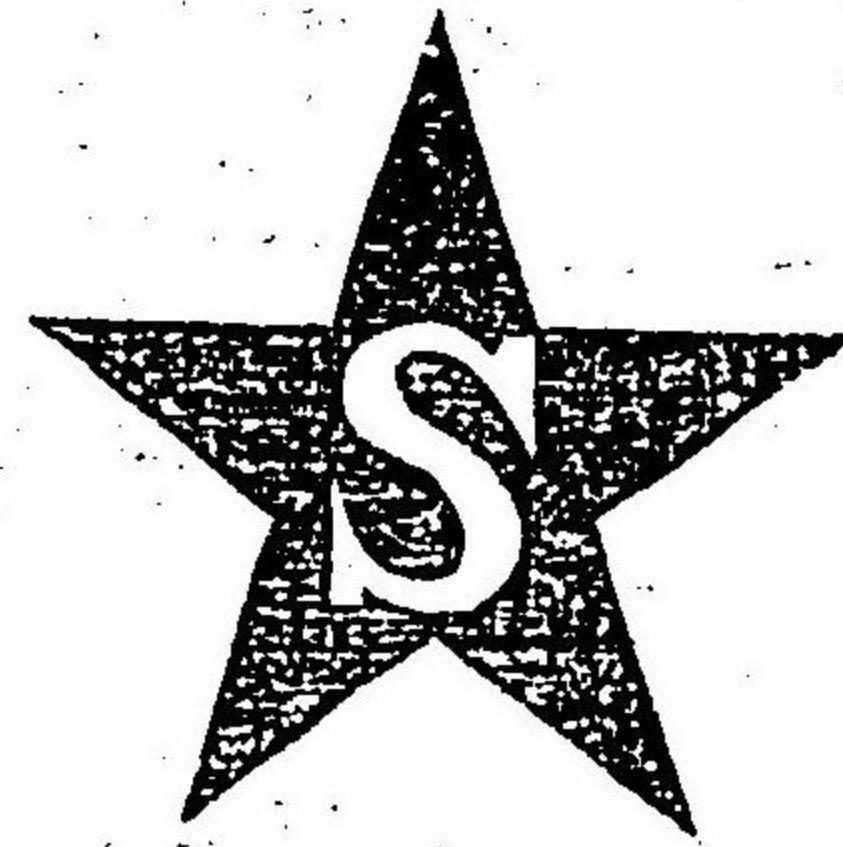
フート號 湯口佐太郎商會

電話一二四番

111

TRADE MARK

達用 陸軍



牛牝 精肉

路姫 電話 二三一

大鹿ニ限ル

洋西 料理ハ

110



賜一等金牌

龍野名物

煉羊羹
菓子
商

各博覽會金銀賞牌多數受領
第五回內國勸業博覽會
縣下出品菓子品中第一位ノ高賞ヲ賜フ



萬年堂
龍野下町

安原次郎

(電話百二十番)

米穀
麵素

問屋業

兵庫縣揖保郡龍野町

高田壽吉商店

電話番二十八番

三三

靴

第十師團御用達
 姫路師範學校御用達

姫路市東二階町一番地

製造元 島村商店

電話三一七番
 振替 大阪二三九〇番

兵庫縣揖保郡龍野町

特約販賣 山村商店

電話百十五番

●大日本武德會教士田邊又右衛門先生考案

大日本武德會
 御制定新型

柔道稽古着製造處

姫路市鍛冶町

武德會。警察。監獄。
 各府縣學校各道場

御用達

藤本政吉商店

商糸吉

柔道着部

特約販賣店
 播州龍野下町

山村商店

電話百五十五番

●營業品科目

足袋 裝束
 シヤツ 厚司
 其外裁縫品
 ●公私設消防組被服調製

製造卸販賣

内外米穀

播州揖保郡龍野町

滿韓大豆

米國小麥



山田佐太郎商店

素麵。越

電話長八十一番

現物及ヒ先物賣買

電略(ヤマサ)又ハ(サ)

同 郡龍野町

精米業

山田精米場

電話八十一番



石拔朝鮮改良米販賣

其他賃搗可仕候

明治四十三年の壯丁總數は一千八十七人にして内陸軍現役二百五十一名補充兵三百七十四名を採用し要員超過三十三名現役中のもの六名徴集延期猶豫百三十六名徴集免除二百三十三名兵役免除五十四名なり又海軍志願兵は四十四年志願者二十六名なり最近の調査に據れば陸軍現役將校以下六百二十八名補充兵三千五百六十一名豫備役一千二名後備役七百三十八名合計五千九百二十九名海軍現役將校以下五十六名豫備役十三名後備役八名合計七十七名第一國民兵百二十五名第二國民兵一萬五千二百五十四名なり

在郷軍人は各町村毎に在郷軍人分團を設け郡在郷軍人團之を統轄したりしが明治四十三年十一月三日帝國在郷軍人會の組織によりて之を解散し新に町村を一區劃として在郷軍人分會を設け郡在郷軍人聯合分會の下に糾合したり現聯合分會長は土屋寛なり

最近の日本赤十字社員は總數四千二人海員掖濟會員一千二百十九人

武徳會員八千八人愛國婦人會員二千三百八十二人なり又武徳會支所は郡公會堂敷地内に在り明治四十三年四月の創設に係れり

第六章 税 務

税務は龍野税務署ありて國税の徴收間税の検査所得税の調査等を行ひ縣税は郡役所之を統轄し町村税は二十八町村の收入役其徴收を司る
龍野税務署の基源は明治十九年中龍野町に租税検査員派出所を置き西播五郡の間税検査を行ひたるが同廿三年十一月官制改革の結果其の事務は龍野間税分署に移り直税事務は従來郡役所の管轄なりしもの同廿二年六月收税部出張所同廿三年十一月龍野直税分署に引繼ぎ兩税分署は揖東揖西兩郡のみを司る事となれり同廿六年十二月兩署を合併して龍野收税署を置き同廿九年一月龍野税務署設置の結果大

藏省の直轄に屬し同三十二年所得税の事務を郡役所より引繼ぎたりしが同四十二年十一月五日龍野山崎兩税務署を合併して現今の龍野税務署を新設し現署長は中村長次郎にして所得税調査委員六名相續税審査委員三名を置く同四十三年十月五日國税の納税成績優良なる町村の表彰式を行ひて之を奨励し順次縣税町村税に及ぼす豫定にして滞納者は各税を通じて漸次減少の傾向を呈せり

第七章 土 木

兵庫縣土木出張所は郡役所内に在りて主幹は島田一二縣道國道及び橋梁河川港灣の修築等に從事す國道延長十一里縣道延長二十二里二十四町橋梁數八十九總延長九百八十八間七合なり郡土木事務は郡土木事務員一名を置きて那里道の修繕編入等を司り四十三年度に於て郡費參千七百六拾七圓の豫算を計上せり又那里道の修繕は従來常入

夫を置きて施行し來りしが四十三年度より之を各町村青年會に依
し居れり四十三年中の郡里道延長は三十六里なり
町村里道の土木事務は町村費又は部落協議費中より之を支辨せり四
十二年度中町村土木費に支出したるは町村費四千五百貳拾參圓協議
費貳萬六千五百六拾五圓なり

第八章 林 務

國有林の行政事務は姫路小林區署第六保護區を龍野町に置きて龍野
町外十四個村を同第七保護區は神部村に在りて網干町外十二個村及
び赤穂郡一圓を管轄せり各保護區に森林主事一名を置きて山林の伐
採増林及び司法事務を取扱ひ現主事は龍野岡本常吉神部素末三郎に
して第六保護區國有林面積一千七百八十八町三反四畝步第七保護區
那内一千四百町步なり

其他公有山林四千三百四十六町六反步社寺有山林六十六町七反步私
有山林九千七百五十五町四反步にして町村基本財産林七十六町五反步
其他各團體の基本財産林約百町步模範林二町二反步學校植栽林十五
町五反步砂防林八町九反步あり

第七編 司 法

第一章 區裁判所

龍野區裁判所は龍野町に在り、斑鳩網干、赤穂、上郡、佐用、山崎、安積に出張
所を置きて登記事務を同判事は尾上勁、執達吏三名にして其沿革を
述ぶれば明治十七年中龍野治安裁判所を置きたるに始り同二十三年
十一月裁判法構成法の實施によりて龍野區裁判所と改稱せらる

第二章 検事局

検事局は龍野區裁判所内に在りて龍野警察署長播磨靖行検事の事務を取扱ふ

第八編 町村自治

第一章 町村役場

町村役場は龍野、網千の兩町役場、西栗栖、東栗栖、揖西、半田、神部、河内、室津、御津、余部、揖保、香島、新宮、越部、神岡、林田、伊勢、太市、龍田、小宅、譽田、斑鳩、太田、勝原、石海、旭陽、大津の二十六村役場にして其沿革は明治五年七月廢藩置縣の際揖東郡に十一小區、揖西郡に八小區を置き同八年十一月小區を改め各小區に正副區長、各町村に戸長を置きたりしが同十三年七月

數町村を聯合し揖東郡に十六、揖西郡に十四の戸長役場を設け各戸長に行政事務を取扱はしめたり同二十二年四月一日町村制實施の際揖東十七、揖西十三の町村に改め自治政の基礎始めて確立し同二十九年四月郡制實施と共に揖保郡に合併したるが其内平井、桑原、布施の三村は同四十二年五月現今の揖西村を成立せり

第二章 町村吏員

郡内廿八の町村長中室津、揖保の兩村は有給、其他は名譽職にして名譽職報酬は最高年額貳百八拾圓、最低九拾五圓なり、助役は龍野、網千の兩町のみ有給、其他は名譽職にして名譽職は概ね無報酬なるが事務の分掌あるものは最高年額貳百圓、最低參圓の報酬を受け居れり、西栗栖、揖西、揖保、新宮、神岡、伊勢、龍田、勝原、旭陽の九村是なり、又收入役中余部村は村長、揖保村は助役之を兼掌し、其他は專任を置く、專任收入役月給最高

武拾參圓、最低八圓にして書記總數八十六人、雇五人計九十一人、書記の最高月給貳拾六圓、最低は五圓なり、現今の町村長氏名左の如し

龍野	中原	信之	網干	奧本	傳吉
西栗栖	小谷	住治	東栗栖	吹田	大藏
揖西	内海	仙	半田	曾谷	徹之
神部	平田	傳右衛門	河内	西脇	太郎左衛門
室津	壽明	卯太郎	御津	堀	正一
余部	本	田恒次	揖保	横田	敬造
香島	森	本健治	新宮	田	峯喜美
越部	横山	彌逸	神岡	森	川謙治
林田	矢羽	野連	伊勢	藤	井秀之助
太市	井垣	盛一	龍田	森	本傳三郎
小宅	湯	淺武	譽田	松本	四郎兵衛
斑鳩	小路	利吉	太田	宗	野徳太郎
勝原	福原	茂	石海	武木	嘉之助

旭陽 山野新 滋 大津 安 積 昱 二

又區長制度を實施し居るは東栗栖揖西室津御津揖保神岡林田伊勢太市小宅勝原の十一村にして龍野町は各町に組長を置き其他の町村は總代の名稱を存置す

第三章 町村會議員

町村會議員總數は三百五十六名にして龍野網干の兩町及び揖西御津の兩村各十八名伊勢村は八名其他は十二名にして一級總數百七十八名二級百七十八名なり

第九編 産業

第一章 官業

鹽專賣事務は網干町に赤穂專賣支局出張所を置き之を管理し四十年中の鹽賣下高は三百六十一萬五千二百斤此價額九萬百八拾六圓にして出張所長は高瀬益太郎なり

第二章 商業

甲 會社

郡内に於ける會社數は株式會社十九銀行を除く合資會社二十七株式合資會社一、合名會社十九にして資本金總額四百三拾五萬參千百五拾圓商工業を兼營するもの多數を占め専ら商業に従事するもの亦た少からず之を營業別に區分すれば醬油十九運輸六金錢貸付五米穀肥料四精米四牛乳三燐寸三海陸產物三砂糖二農具二藝妓檢番二素麵二金物二林業貝卸製粉石炭樂器烟草織布セルロイド製粉麵各一にして内酒造業一電燈業一の兼營あり

乙 個人營業

商家の多數は龍野網干兩町に在り其他新宮村新宮神岡村東嶺崎林田村林田小宅村富永譽田村廣山斑鳩村鶴石海村糸井旭陽村和久高田神部村正條室津村亦た商家軒を並べ居れり
郡内の商業者二千百五十七戸中物品販賣業其八割三分を占め就中酒類烟草吳服菓子日用品下駄雜貨等の販賣業者多數にして龍野町には醬油業者少からざるも多くは會社組織に改めたり之に次ぐは旅人宿及料理店飲食店九分其他は仲立及仲買金融及保險の業務に従事す

第三章 農業

甲 米

郡内農產物の多數を占むるものは米にして作付反別七千四十九町三反歩一個年の收穫高は粳米十四萬九千五百六十七石糯米一萬四百九

十四石陸米千八百六十七石合計十六萬千九百二十八石總價額百九拾四萬三千百三拾六圓なり稻種は晚生種多數を占め、中稻、早稻之に次ぐ稻種中多數を占むるものは神力種にして神力種は本郡御津村の内中島村の老農丸尾重次郎が多年苦心研究の結果程好種の中より撰出育成したるものにして時恰も明治十年自作地栽培の稻刈取に着手し隴上に踞して疲勞を慰め居る際有芒程好種の中に無芒の嘉禾三穗の混在するを認めたるもの實に神力稻の原種にして重次郎は之を拔取り翌春自作地に播種栽培し漸く數畝の種子を得て試作したるに分蘖旺盛にして莖幹強剛、伸長の度多かりしを以て倒臥の憂なきのみならず、籾の色澤鮮黃を呈し米粒大ならざるも品質良好、且つ收穫量の多き他に比類なきを見て大に之を喜び器量好と命名して近隣に分與せしに其成績優良なりしかば、某年ならずして器量好の名四方に喧傳し、明治十九年中余部村の岩村善六之を神力種と改稱し其由來を農商工會報

第十九號に掲載して、廣く世上に紹介したり、蓋し人力の企て及ぶべからざるの謂なり、此事世上に傳はるや、種子の分與を求むるもの、二府十七縣數量四百石を算するに至れり、重次郎は此の功績を貽して、明治二十二年一月病死したれば、郡内の有志相謀り、同二十七年八月龍野粒座神社境内に左の碑石を建て、其功勞に報ひたり

神力稻紀功之碑

從二位子爵 榎本 武揚

瑞穂之稱起于神代、耕稼之業歷朝所勸、而用力其業者蓋少矣、丸尾重次郎揖西郡中島村人、家世業農、夙圖米質改良、明治十年適獲嘉禾三穗、試養籽種、雨暘弗疵、確春弗耗、果良種也、於是神力稻之名喧傳于四方、種藝洽于海内、民賴其利焉、嗚呼、光瑞穂之稱、以副歷朝勸農之聖旨、其偉績寧其可沒也、乃有志者相詢、請文勒于石、以傳于不朽云

明治二十七年八月

兵庫縣知事從四位勳四等 周 布 公 平 撰

斯くて神力種の需用は逐年増加し遠く米國テキサス洲に輸出するに至りしも栽培久しきに亘れば自然變化を生じ其特性を維持する能はざるを憂ふるものあり明治四十一年平井村農會率先して採種田を設けたりしが同四十二年平井水稻採種組合を組織し久保治郎助組合長となり共同耕作の方法によりて施肥栽培採種の施設を神力種の上に加へ其特性を維持向上せしめたる結果同組合の採種田は神力種の原産地となり遂に本縣農會は同組合に奨励金を交付し同農會の神力稻採種田を附設經營せしめたり農商務省最近の統計に據れば其栽培三十一府縣に亘り植付反別六十二萬五千五百二十町歩に上り同組合は毎年八百石を各府縣に輸送し稻種中最優等の地歩を占むるに至りたり神力種に次ぎ多數なるは荒地政岡雄町等にして播州米の聲價は本郡實に負ふ所少からず

明治四十一年四月兵庫縣米穀検査所龍野出張所を郡役所内に設置し石原石松主事として輸出検査員五名生産検査員二十八名を統轄し龍野驛網干驛網干港菊崎村岩見港の五個所に輸出検査員詰所を設けて輸出米の検査に従事し生産検査の成績亦た良好にして稻種の混同を防ぐに於て多大の効果あるに至れり今最近一個年の生産検査高を調査するに二十八萬九千三百三十六俵全收穫高四十萬四千八百廿一俵に對し七割一分に當り輸出検査數は二十二萬六千二百七十五俵なり

乙 麥

明治四十三年の麥作植付反別は六千六百四十三町四反歩にして全收穫高八萬二千九百九十四石内大麥十六石裸麥三萬二百一十一石小麥五萬二千七百六十七石總價額七拾六萬八千六百九拾圓なり小麥の品質は殊に良好にして素麵醬油等の原料に使用し此の二大物産が今日の聲價を博したるもの實に郡内生産小麥の品質與つて力あり本郡農會

に於ては明治四十四年より生産小麥の品評會を開きて小麥の種類改良及び乾燥調製の改善に資すべし郡小麥粉同業組合は小宅村の内富永村に在りて明治三十七年十二月の創設に係り製粉工場八十一組合員七十四名、森崎忠作組合長たり最近の製造額小麥粉十三萬三千九百七十三石、價額七拾貳萬參千五百六拾貳圓、小麥粕四萬八千二百三十八石、價額五萬五千四百七拾參圓なり

丙 其他農作物

四十三年の統計に據れば大豆の生産額二千八百八石、小豆二百五十八石、粟九百十三石、黍二百二十石、蕎麥四百九石、蠶豆千六百八十石、豌豆三百二十六石、甘藷七十三萬三千九百五十貫、馬鈴薯八萬三千六百七十貫、青芋二萬五千七百五十貫、茄子七萬二千三百三十貫、葉藍千四百三十貫、漬菜六萬二千四百貫、蘿蔔百四十三萬六千八百六十貫、蕪菁四萬二千九百八十二貫、胡蘿蔔三萬三千九百九十九貫、牛蒡四萬三千八百八十八貫、蓮根七千

九十貫、胡瓜一萬百二十貫、南瓜三萬三千八百二十貫、西瓜一萬八千八百二十貫、甜瓜九萬四千二十貫、甘藷三千貫、干瓢五千八百八十貫、玉蜀黍五十貫、此の總價額拾五萬九圓にして井の原蘿蔔、林田甜瓜、苧屋の馬鈴薯、中河原の西瓜尤も名あり

丁 養蠶及茶

養蠶は農家の副業として西栗栖、林田、東栗栖、太田各町村の一部に行はれ、其の種類は又昔、小石丸等にして西栗栖村は明治四十三年養蠶傳習所を設置したり、四十三年中の飼養戸數二百五戸にして産額五十六石、此價額壹千七百參拾六圓、飼養の原料桑畑は八町二反歩なり、而して郡又は郡農會に於ても目下極力桑樹の栽培、春蠶の飼養を奨励しつゝあり、又茶畑は一町七反歩にして一個年の生産額番茶二千八百八十八貫、價額四百六拾貳圓なり

第四章 工業

甲 素 麵

素麵は郡内二大物産の一にして農家の副業として尤も優勢の位置を占め明治三十年十二月重要輸出品同業組合法により郡素麵同業組合を組織して製品の検査を勵行し標準價格設定所を旭陽村の内高田村に設けて濫賣の弊を矯正し同四十一年小宅村の内富永村に模範工場を新築して斯業の改良を圖り最近の製造戸數一千八百六十九戸、製造年額四十八萬八千箱價額百三拾七萬八千六百圓最近五個年の平均産額五十三萬三千七百四十四箱價額百三拾四萬五千貳百圓に上り四十二年日英博覽會に出品以來海外諸國の注文續出するに至れり現組合長は澤野利正にして其の沿革販路等は龍野の記事に詳かなり

(龍野第一編第二章人文誌第
四生業の内工業の部参照)

乙 樂 器

樂器の多數は東洋樂器製造株式會社の製出に係り山葉製風琴に對抗して遠く九州關東地方に輸出す(龍野第一編第二章人文誌第
四生業の内工業の部参照)又神部村の内黍田村に寺田樂器製造工場龍野に池内樂器製造所あり最近の年産額三者を併せてオルガンヴァイオリン共三千二百四十臺價額壹萬三千三百貳拾圓なり

丙 貝 卸

貝卸は從來龍野町日本貝卸製造株式會社の特占なりしが明治四十三年中網干町に太田工場を設け製造を開始せり四十三年中の製造高二萬五百四十マース價額拾五萬四千圓使役職工男女合計五百五十三人なり日本貝卸の狀況は龍野の記事に就て知るべし(龍野第一編第二章人文誌第
四生業の内工業の部参照)

丁 燐 寸

燐寸の製造工場は網干町の山本合名會社網干燐寸合資會社斑鳩村の斑鳩燐寸合資會社の三個所に在り、最近の調査に據れば安全燐寸六百九十萬八千四百打價額拾七萬五百圓、使役職工三百四人、黃燐燐寸四百七十三萬五千六百打價額七萬五千五百四拾八圓、使役職工百九十人なり

織物

織物工場は揖保村の内門前村に在る揖保織布株式會社を始め個人事業に屬するもの旭陽村に一個所あり、最近年産額綿織物二萬千三百九十五反價額壹萬七千參拾圓、絹綿交織物二百四十反價額參百六拾圓、使役職工百五十一人なり、郡織物組合は組合員三十七名、組合長は林宗兵衛にして龍野稅務署監督の下に斯業の増進を圖れり

革細工

製革の産地は揖保、譽田、越部、河内、神岡諸村にして年産額牛革一萬九千四百枚價額八萬九千七百五拾圓にして製造戸數六十九戸、從事職工二

百六十人又革細工の原産地は室津村にして年産價額五萬四千圓なり

紙類

紙類は小宅、林田兩村を重なる産地とし、林田村には林田製紙業者の組合あり、太田、龍野、揖西、揖保の一町三村之に次ぐ、四十二年の産額半紙六千八百九十緋、コッピ一萬二千斤、塵紙三萬七千四百三十二緋、大平紙九萬枚、總價額四萬七千六百拾圓、使役職工三百八十八人なり

菓子

菓子の重なる製造地は龍野、網干の二町にして郡内の製造戸數四十五戸、一個年の生産價額壹萬九千五百貳拾參圓、龍野の煉羊羹尤も著名なり

セルロイド

網干町に在る日本セルロイド人造絹絲株式會社は資本金百貳拾萬圓の大會社にして社長は近藤廉平なり、明治四十二年六月製造工場の建

築に着手し全部完成したるは同四十三年末にして工場總數二十四棟
坪數四千四十三坪、全敷地坪數約十萬坪、課セルロイド會社に對抗して
我國セルロイド業の創始時代を形成せり而してセルロイドの製造は
近く開始の筈なるも未だ其製産額を見るに至らず

癸 其他工業

其他は燐寸函木地貳千八百七拾五圓、箱類參萬四百七拾圓、瓦類壹萬八
千五百八圓、扇子及團扇壹萬圓、莫大小九千參百四拾四圓、油類千參拾
圓、竹製品參千五百九拾六圓、下駄九百七拾八圓、陶磁器八百四拾圓、麥稈
及經木真田八百四拾圓、葉製品貳萬七千八百八拾壹圓、及物壹千圓、漆器
四百六拾圓、靴壹千六百貳拾圓、荷車五千五百貳拾七圓、雨傘貳千參百五
拾四圓、膠貳萬五千四百五拾圓、干餛飩四千四百四拾七圓、紙函及折箱八
百圓、麻裏草履七百九拾貳圓、足袋貳百圓、麥稈細工百五拾圓、酒樽百八拾
圓等なり

第五章 釀造業

甲 醬油

龍野醬油の名は維新以前より全國に普及し千葉縣野田に次ぐの釀造
地なり明治三十二年六月重要輸出品同業組合法に基き同業組合組織
以來検査法の勵行、品評會の開設、品質鑑定力の養成等其成績顯著なる
ものあり四十三年中の産額九萬四千九百三十六石、價額百五拾參萬五
千七百貳拾壹圓、最近五個年の平均産額八萬八千八百八拾圓、價額百三拾
四萬八千八百三拾壹圓の巨額に達せり組合長は横山省三、死亡後中原
信之其任を襲へり、四十三年中釀造試験所設置の計畫成り近々位地の
選定に着手する豫定なり其沿革、販路等は龍野の部に譲る(龍野第一編第二章
人文誌第四生

業の一醸造
の部参照)

乙 酒類及酢

清酒の醸造戸数は六戸にして四十二年度の産額二千三百三十二石價額八萬參千九百五拾貳圓、味淋の醸造戸数は三戸にして一個年の産額三百三石價額壹萬四千五百七拾五圓、焼酎は清酒業者の兼營に屬して五戸あり一個年の産額十四石價額七百七拾五圓なり

播磨醸造業者組合は斑鳩村に在りて組合員約八百人堀林之助組合長たり毎年一回清酒鑑定會及び杜氏講習會を開設して杜氏の養成を圖れり酢の醸造戸数は六戸にして年産額一千二百石價額壹萬貳千圓なり

第六章 水産業

甲 漁獲物

水産物は之を魚類、貝類、藻類其他に四大別し最近の魚類捕獲高十二萬八千二百二十三貫價額六萬八千四拾圓、貝類二千五百五十五貫價額參百五拾七圓、藻類二百十貫價額貳百五拾五圓、其他三萬四千二百四十五貫

價額九千九拾六圓にして之に従事する漁戸は網干、室津、御津、大津の一町三村に於て六百七十六戸、使用の漁船五百七十五艘なり又水産養殖場は公有面積三萬六千坪、養殖數は鯉二百一貫價額貳百參拾圓、蛤三百貫價額四拾五圓、私有面積一萬三千八百坪、養殖數鯉三百貫價額貳百七拾圓、鰻二百五十貫價額參百七拾五圓、鱒二千貫價額貳千四百圓、鯪魚一千貫價額壹千圓等なり

淡水産の漁獲物中揖保川の鮎は同地の特産にして其名全國に高し明治二十八年五月本縣令第二十七號により毎年二月一日より五月三十一日まで鮎の捕獲を禁じ其蕃殖を保護したるより漁獲數頓に増加せり一個年の漁獲高五千三百四十五貫價額六千七百壹圓にして毎年六月の解禁期に至れば遠く京阪神の地方より鮎狩の遊客群集し揖保川沿岸は異常の賑ひを呈するなり

乙 水産製造物

水産食料品の製造高は煮干鯷壹萬四千圓、田作り千百七拾圓、乾鰯千貳百五拾圓、脊黒鯷七千七百圓、鯷兒四千五百圓、海參壹百拾圓、このわた貳百四拾圓、肥料には乾鰯糠八拾五圓、鹿海藻六拾圓を製出す

郡水産組合は網干町に在りて山内武平組合長たり煮干鯷の検査改良、竈の製造、遠洋漁業の奨励に努め、漁業組合は御津村三網干町一、大津村一、室津一の六組合あり、四十二年度町村費中より漁業組合に補助したる金額は參百四拾圓なり

第七章 畜 産 業

甲 牛 馬

郡内の家畜頭数は牝牛五千四百二十頭、牡牛三百九頭、牝馬二百一頭、牡馬三百九十頭にして、郡産牛馬組合は畜牛改良上エアシヤ種牡牛を以て其蕃殖を圖り、毎年一回、犢牛品評會を開きて、優種に褒賞を授與し

患畜の治療は郡農業技手一名、産牛馬組合技手二名之を行ひ居れり、一個年の屠畜數牛馬七百八十四頭、犢牛五十二頭、價額參千七百六拾貳圓にして、乳牛數六十三頭、牛乳産額三百二十六石、郡内の獸醫六人、蹄鐵工一人なり

乙 家 禽

家禽の飼養は農家の副業として行はれ、飼養戸數鶏二千二百六十九戸、鶯十四戸、四十三年六月末日の現在數は、鶏成禽八千七百四十八羽、同雛六千八百八十二羽、此價額六千六百八拾六圓、産卵一個年六十三萬六千八百四十六個、此價額壹萬四千六百四拾九圓にして、種類は名古屋コーチシ、アングルシヤン、ミノルカ種等最も多し、又鶯成禽三十七羽、雛百三十七羽、兩價額四拾參圓、産卵九百八十個、價額貳拾圓なり

第八章 鑛 産 業

甲 採 鑛

小犬丸鑛山は揖西村の内小犬丸村にあり鑛區面積四萬八千七百三十一坪明治三十五年二月一日採掘特許を得たり一個年の採掘高銅鑛七千貫價額參百四拾圓なるが四十二年より休鑛し居れり又同所より赤穂郡矢野村に亘る四十六萬五千三百三十七坪の試掘地あり銅及び硫化鐵を試掘せり

乙 精 煉

室津村字七曲りに室津製煉所あり明治三十六年一月の創業に係り型銅の製煉に従事す一個年の型銅製出高二十萬三千二百四十五斤此價額六萬五千百圓室津港を経て大阪地方へ輸出せらる

丙 鑛 泉

香島村の内下笹村に綠礬冷泉より成る鑛泉浴場あり龍野電鐵箸崎停留所より北方一里の地に在り明治四十三年八月開業森本鑛泉と稱す

背後の山腹に深さ百數十間の岩窟あり一たび此内に入れば夏尙寒きを覺ゆといふ

第九章 林 産 業

甲 用材及薪炭

木材の重なる産地は西栗栖、東栗栖、林田、伊勢、太市、香島、越部、神岡、揖西の各村にして林田村に山陽林業株式會社あり薪炭用材及び建築用材を製出版賣す郡内最近の統計に據れば建築用材一萬千八百九十三尺、薪炭材九千六百七十三尺、竹材二千三百六十五束此の總價額四萬千參百四圓なり

木炭の重なる産地は西栗栖村にして東栗栖、香島の二村之に次ぐ一個年の木炭製出高二萬四千貫價額貳千八百六拾圓なり

乙 果 實

果實中尤も有利なるは梅實にして其種類は林洲多數を占め居れり郡内の梅林は林田聖が岡城趾八百株神部村黍田五百株を重なるものとし網干町濱田の龍門寺境内龍野町初音旅館内にも數十株の梅林あり新宮村の内宮内の梅林亦た名ありしが漸次枯木となれり四十三年中の産額六百七十五石價額六千七百五拾圓なり

梅に次ぐは桃實にして神岡村の内小那田河原に一町九反歩餘の桃園あり廢兵の經營に係るものにして天津上海兩水蜜桃、アムスデンジュン其他三千株を植栽し花時には遊客雜沓す四十三年中の全郡桃實産額六千二百三十四貫價額壹千貳百四拾七圓に上れり

其他日本梨五百八十貫、西洋梨六百貫、生柿二萬四千五百五十二貫、干柿三千六百貫、枇杷二千三百十三貫、葡萄三百六十七貫、栗千二百二十八貫、無花果三千百二十四貫、密柑千五百九十一貫、夏橙千五百九十七貫、其他柑橘類千五百六十貫此總價額九千貳百四拾圓なり近來農家の副業と

して果樹栽培を行ふもの多く其種類は桃、柿、梨、栗等なり

丙 茸類及筍

茸類は東栗栖村の内善定村札樂山を始め太市、林田、掛西、譽田、小宅等の山林に多數發生し松茸は郡内名産の一なり四十二年中の産額松茸六千六百七十七貫價額九百參拾五圓諸菌類千四百九貫價額百四拾壹圓なり

筍は太市村の特産物にして太市中村信用購買販賣組合は其の販賣を一手に引受け姫路岡山を始め尾道、廣島地方に多數輸出し又四十三年より鑑詰の製造を開始したり一個年の産額七萬五千六百四十九貫價額壹萬五百九拾壹圓なり

第十編 財政及金融

第一章 郡 財政

本郡の財政は四十三年度豫算歳入貳萬四百參拾七圓歳出貳萬四百貳拾五圓、四十四年度豫算歳入貳萬貳千參百拾九圓歳出貳萬貳千參百七圓にして歳出は各種補助費、勸業費、教育費等多額を占め、四十四年度豫算に據れば勸業補助費參千圓、衛生補助費壹千貳百五拾圓、土木補助費六百八拾貳圓、教育補助費四百圓、教育會補助費貳百圓、合計五千五百參拾貳圓、勸業費六千四百八拾七圓、播磨生產品評會費本年度支出額貳千貳百拾參圓を含む、教育費參千六百參拾四圓にして之に次ぐは土木費の參千六百拾圓、特別會計編入金壹千圓、郡吏員費七百八拾圓、會議費六百九拾五圓、財産管理費四百七拾九圓、豫備費參百圓、事務費貳百圓、選舉

費參拾圓、徵發馬匹輸送費拾圓なり、又特別會計は毎年度壹千圓を積立て、公債の買入及び預金利殖等をなし居れり、而して歳入の大部分は町村に分賦徵收し、其他は技藝女學校授業料、公會堂使用料、勸業技術員補助金、物品賣却代等を以て之に充つ、四十四年度の町村分賦額の豫算壹萬八千八百六拾貳圓、技藝女學校授業料壹千參百八拾九圓、公會堂使用料壹百圓、補助金四百圓、物品賣却代五圓にして、其他は前年度繰越金五拾圓、寄附金壹千五百拾參圓なり

第二章 町村 財政

二町二十六村の財政を調査するに、四十二年度決算歳入貳拾參萬參拾八圓、歳出貳拾萬八千七百九拾六圓、四十三年度豫算歳入貳拾壹萬千六百五拾九圓、歳出貳拾壹萬千五百八拾壹圓にして、同年度歳出内譯は、教育費拾壹萬六千百拾六圓、内小學校費拾壹萬四千五百五拾圓、幼稚園費

九百五拾壹圓、技藝專修女學校費六百拾五圓、役場費四萬貳千八百四拾八圓、諸稅及負擔壹萬六千九百五圓、基本財産蓄積金壹萬五千八百五拾六圓、補助費五千圓、衛生費四千九百參拾六圓、土木費參千五拾壹圓、會議費貳千參百九圓、豫備費壹千九百六拾圓、其他は勸業費六百八拾七圓、雜支出六百參拾壹圓、警備費五百八拾八圓、寄附金貳百五拾圓、財産管理費百八拾壹圓、救助費百參拾壹圓、報時費七拾七圓、公債費五拾圓、徵發物件輸送費五圓なり、又歳入は四十三年度豫算町村稅拾七萬四千參百五拾壹圓、雜收入壹萬百五拾五圓、財産收入參千參百五拾六圓、國庫交付金貳千七百六拾圓、現品貳千貳拾八圓、縣稅交付金千五百七拾四圓、縣費補助千六百五拾九圓、郡費補助千四百七拾八圓、使用料及手数料八百五拾參圓にして、其他は前年度繰越金壹萬貳千六百貳拾參圓、寄附金八百貳拾貳圓なり、又最近の町村基本財産は土地、建物、公債、株券、現金等を併せて拾五萬五千九百四拾四圓に達せり

第三章 銀行

郡内の銀行は九十四網千岩見、龍野、龍野貯蓄、鶴堀、神岡、林田、新宮の十行にして、資本金總額貳百六拾萬圓、拂込資本金百七拾貳萬貳千五百圓、積立金貳拾八萬參千貳拾貳圓にして、四十三年下半年期の入金總額貳千五百拾五萬八千貳拾九圓、出金總額貳千四百貳萬八千五百四拾七圓、期末預り金總額貳百貳拾貳萬壹千九拾七圓、同貸金總額參百六拾貳萬參千六百六拾五圓、純益金拾參萬五千七百九拾七圓、株主配當金七萬四千四百圓に達し、配當率は八朱以上九朱なり

第四章 産業組合

本郡にては明治三十九年以來産業組合の設立を奨励したる結果、四十年末には信用組合二、信用購買組合三、信用購買販賣組合五十、購買販

賣組合三購買組合二合計六十組合の成立を見るに至り其多數は一部落を區域となし出資一口の金額は金貳拾圓にして存立年限は二十年なり而して特種の組合としては製麵業者のみを以て組織したるもの二個所製紙業者一個所あり四十三年以來組合實務理事の講習會を開き組合運用に必要な講習科目を實習し順に其面目を改め近々郡を區域とし掛保郡信用購買販賣組合聯合會を設立すべく計畫中なり最近の組合員四千五十三人出資拂込金五萬千五百八拾四圓準備及積立金七百六拾貳圓貯金壹萬五千八百貳拾五圓なり

第五章 貯 金

貯金は銀行貯金郵便貯金共同貯金の三種にして最近の調査に據れば銀行貯金貳拾貳萬千八拾七圓預人員二萬二千二百九十二人一人平均九圓八拾七錢貳厘郵便貯金八萬四千四百六拾八圓預人員一萬六千六

百六十人一人平均五圓七拾錢共同貯蓄組合數百四十貯金額參萬貳千六百拾參圓一組合平均貳百參拾貳圓九拾五錢なり

第十一編 租 稅 及 負 擔

第一章 國 稅

四十二年度の實收に據れば國稅の負擔は直接國稅參拾六萬六千四百八拾八圓内地租貳拾四萬六千參百五拾貳圓第一種所得稅貳萬四千七百五拾五圓第三種所得稅四萬四千八百貳拾八圓營業稅四萬百拾壹圓相續稅五千五百九拾圓通行稅四千六百九拾四圓登録稅百五拾八圓にして間接國稅拾八萬貳千七百八拾八圓中醬油稅拾貳萬六千四百五拾圓自家用醬油稅四千百五拾五圓酒造稅四萬九千貳百拾五圓織物消費稅貳千四百拾六圓賣藥營業稅參百八拾參圓鑛區稅百六拾九圓なり

第二章 縣 稅

四十二年年度の縣稅實收額は拾貳萬參千四百九拾八圓にして内地租割七萬五千貳百五拾八圓、營業稅六千四百參拾五圓、雜種稅壹萬九千四拾七圓、所得稅附加稅貳千七百拾壹圓、國稅營業稅附加稅參千九百七拾參圓、戶數割壹萬六千七拾四圓なり

第三章 町 村 稅

四十二年年度決算の示す處に據れば町村稅拾七萬八千八百參拾壹圓、内直接國稅附加地價割四萬八拾貳圓、同所得割參千七百六拾壹圓、同營業稅割參千五百九拾參圓、直接縣稅附加戶別割拾貳萬五百四拾圓、同營業稅割千七百貳拾八圓、同雜種稅割七千四百拾貳圓、特別稅戶別割七百拾五圓なり

第四章 協議 費

四十二年年度町村協議費決算は歳出總額五萬貳千七百六拾六圓、内土木費貳萬六千五百六拾五圓、事務取扱費七千參百參拾圓、神社費六千八百拾壹圓、雜支出五千九百六拾六圓、衛生費壹千七百七圓、會議費壹千六百拾參圓、勸業費九百六拾八圓、財產管理費八百八圓、寺院費五百五拾九圓、軍人待遇費參百貳拾壹圓、公債費百八拾八圓、警備費百八拾五圓、諸稅百七拾參圓、寄附金百八拾八圓、財產蓄積金百七拾壹圓、渡船場費百五拾壹圓、墓地費九拾六圓、青年會補助九拾壹圓、教育費七拾壹圓、尙武會補助貳拾五圓、土木費補助九圓なり

第十二編 交通

第一章 鐵道

郡内の南部を貫通する鐵道總延長は八哩十鎮にして明治二十二年十一月十一日開通し當時は山陽鐵道株式會社の私設經營なりしが同三十九年十二月一日國有に歸したり龍野停車場は神部村の内黍田村網干停車場は旭陽村の内和久村に在り四十三年中の龍野驛乗客四萬六千五十五人、賃金壹萬八千參百六拾九圓、降客四萬四百九十七人、積込貨物一萬二千四百噸、賃金壹萬七千九拾四圓、到着貨物九千四百十四噸、輸入貨物は豆粕大豆大麥、小麥、貝殼、輸出貨物は醬油、小麥、樂器、貝卸、白米等なり又網干驛同年中の乗客十七萬三千九百六十七人、賃金五萬七千九百拾壹圓、降客十六萬五百八十六人、積込貨物一萬八千六百十五噸、賃

第二章 電氣鐵道

龍野電氣鐵道は明治四十二年一月の開通にして南端網干港より網干驛に入り鶴廣山等を経て龍野、小宅村の内富永村に至り迂曲して神岡村の内東薮崎村に至る總延長八哩六十九鎮、停留所數は簡易を併せて十八個所、四十三年中の乗客五十萬六千二百七十一人、賃金參萬八千六

金貳萬八千參百八拾六圓、到着貨物一萬三千八百五十五噸にして輸入貨物は小麥、豆粕、大豆、木材、牛皮、石炭、輸出貨物は素麵、米、燐寸、醬油、粉、粕、牛皮等なり

龍野、網干兩驛を比較して斯く懸隔を生ずるに至りしは從來龍野町に來る外客は總て龍野驛を経たりしもの明治四十二年一月龍野電氣鐵道、網干驛、龍野町間の開通ありたるより網干驛乗降客の激増を見たるに由るなり

龍野電氣鐵道は明治四十二年一月の開通にして南端網干港より網干驛に入り鶴廣山等を経て龍野、小宅村の内富永村に至り迂曲して神岡村の内東薮崎村に至る總延長八哩六十九鎮、停留所數は簡易を併せて十八個所、四十三年中の乗客五十萬六千二百七十一人、賃金參萬八千六

百貳拾參圓貨物噸數三萬千九百八十八噸賃金七千五百拾五圓なり尙
嶺崎停留所終點より林田村及安栗郡安師を経て山崎町に至る輕便鐵
道敷設の計畫あり動力は電氣を用ふる筈にて目下出願中なり

第三章 諸 車

馬車は龍野山崎間を往復するものあり最近の調査に據れば人力車三
百三十一輛牛馬車五百三輛荷車三千四十六輛自轉車五百六十三輛合
計四千四百四十四輛にして人力車數は電氣鐵道開通以來噸に其數を
減少したり

第四章 水 運

川上の運送は揖保川を上下する荷船あり海運は網干港より室津港を
往復するの外は網干岩見室津の三港より他地方に至るもの多く最近

の船舶數は日本形百石積以上三十艘同五十石積以上五十二艘小船四
百二十三艘なり

第十三編 通 信

第一章 郵便電信電話

郡内の郵便局は龍野(局長竹内庸卿)網干(局長圓尾廣之助)高田(局長山野
安太郎)林田(局長三木祝之助)鶴(局長三木岩次郎)新宮(局長三里辰次郎)岩
見(局長上西宗兵衛)室津(局長高島爲治)正條(局長圓尾重太郎)東嶺崎(局長
小池常吉)の十局にして特設電話は龍野百三十、網干四十六、高田十七合
計百九十三名の加入者あり電信事務を取扱ひ居るは龍野、網干、高田、林
田、鶴、新宮、岩見、東嶺崎の八局なり又無集配局は高田、東嶺崎の二局にし
て林田、東嶺崎の兩局は公衆電話事務を取扱ひ居れり

第十四編 青年團體

第一章 沿革

從來各町村には若衆組ありて一定の規約を設け十五歳以上の青年は之に加入の義務あり道義的制裁を維持し來りしも世運の發展に伴ひ改良の必要を感ずるに至りたれば郡當局者は明治卅八年青年會設立趣意書及び青年會準則を制定して其設立を促したり斯くて同四十一年には二百三十の多數に達したれば同年十月各青年會の代表者を郡役所に召集し青年會勤儉貯蓄規約を決議し青年俱樂部設置夜學會の開催其他急要の施設をなすに決し同四十二年五月一日郡青年會の發會式を行ひ郡長を會長に推薦し同日第一回の優良青年會及び指導功勞者の表彰式を行ひ同四十三年六月第二回を開き以て今日に至れり

第二章 現 狀

明治四十三年末の青年團體數二百四十六會員總數九千八百四十四人にして各小學校長之が指導獎勵の任に當り夜學會及び講話會の開設貯金及基本金の蓄積風紀の改善米麥の試作肥料配合の獎勵共同耕作耕地整理植樹養鯉道路修繕消防擔當祭典斡旋産業組合の設立等に從事し四十三年度より郡里道の土木工事を引受け居れり最近の貯金總額壹萬六千九百五拾圓基本金總額壹萬貳千四百參拾圓不動産價額七千圓俱樂部及建物備品等の價額參萬五千五百圓なり

第十五編 特種部落啓發

第一章 優良特種部落

郡内の特種部落中優良の成績を挙げ居るものは譽田村の内廣山新村、林田村の内下構村にして廣山新村は明治三十五年四月譽田尋常小學校長福田忠太郎此村の小學兒童中缺席者多く學業の進歩遅々たるを憂ひ一面嚴重に其出席を督勵すると共に家庭訪問を行ひ保護者會、幻燈會等を開きて熱心獎勵の結果稍々見るべきの成績を得たれば進んで部落民生活の状態を調査したるに彼等には教育衛生の觀念殆んど絶無なるを知り茲に啓發の念を起し同三十八年一月矯風會を組織し言語風紀の改良教育衛生及び勤儉の思想を養成し同四十年二月名を積善社と改め同年九月啓發二十年計畫を立て、實行に着手したり下構村は林田尋常高等小學校訓導矢野卯之助啓發の端緒を開きたり則ち明治三十九年四月同校就職以來學校の休日と夜間を利用して部落民と會合し互に胸襟を開きて意見を交換したる末同四十年四月若衆組の改造に着手したるなり

第二章 啓發の狀況

廣山新村は戸主會婦人會、青年會の組織、果樹植栽、投書函設置、嫡子相続親子同居貯金の獎勵、言語の矯正、就學の督勵、敬老會の組織に勉め毎年一月善行表彰式を行ふ福田忠太郎は其功勞により四十三年中金貳百圓を下賜せられたるが直ちに其過半を啓發事業に投じたり下構村は青年會組織に次で明治四十年八月婦人會及び戸主會を設立し言語行爲、衛生資産家庭風俗交際、公德、宗教、教育、法令、兵役納税の各項に亘り改良の必要を諭示し同四十二年十二月少女會の組織成り毎月一回以上の四會員を集めて幻燈會、活動寫真會を開催し又た講話會を開く事あり毎年善行表彰式を行ふ又揖西村の内構村の特種部落は揖西尋常高等小學校訓導八川鐵之助明治四十二年より啓發に着手し時々講話會を開きて貯蓄心の養成、言語風紀の矯正及び衛生の改善に

努め居れり

第十六編 城趾及墳墓

第一章 城 趾

一、窪山城趾 林田村の内林田町字聖が岡に在り天正二年三木源六郎英賀城没落の際宍粟郡門前村に住し同年十二月此城に移る三世三郎左衛門の時建部政長攝津國川邊郡より來るに當り三郎左衛門には構村二反四畝二歩の代地を與へ政長窪山城に居る維新後此城を破壊す今尙城臺高五間東西四十五間南北二十五間の城趾を存す

二、内山城趾 譽田村の内内山村に在り文治年中鹽津新左衛門尉義經源頼朝より廣山庄太市郷小宅庄の地頭職を命せられ此地に内山城を築きて居る其後義秀赤松勢に加り蟹坂にて戦死す其子義信剃髮して

努め居れり

第十六編 城趾及墳墓

第一章 城 趾

一、窪山城趾 林田村の内林田町字聖が岡に在り天正二年三木源六郎英賀城没落の際実栗郡門前村に住し同年十二月此城に移る三世三郎左衛門の時建部政長攝津國川邊郡より來るに當り三郎左衛門には構村二反四畝二歩の代地を與へ政長窪山城に居る維新後此城を破壊す今尙城臺高五間東西四十五間南北二十五間の城趾を存す

二、内山城趾 譽田村の内内山村に在り文治年中鹽津新左衛門尉義經源頼朝より廣山庄太市郷小宅庄の地頭職を命せられ此地に内山城を築きて居る其後義秀赤松勢に加り蟹坂にて戦死す其子義信潮媛して

嶄新流行洋服調進

御注文ノ節ハ早速參上可仕候

並ニ精々御用命願上候

米國シソニガミシソニ特約販賣店

家庭用工業用裁縫機械

月賦現金御好ニ應ス

御一報次第參上御相談仕候

揖保郡龍野町 高見熊吉

登錄商標 おさく筆元祖

歐米文具卸問屋



姫路市西三階町

本多寶榮堂

振替貯金口座大阪六二〇五番

木綿製造販賣
厚司

龍野下川原町

太物商 雜貨商
松本量三

商號 姫路屋

服吳 物洋反 物類
三
龍野町角目
高屋嶋吳服店

純粋
福太郎大茶

眞精堂

大阪市南區長堀橋壹丁目

家門庄吉

如何なる品

水白ク

正紺保險

地質堅牢

丈尺潤澤

宿禰織

ヨレサ名

如何なる品

買入

方?

揖保郡揖保村

揖保織布株式會社



候仕可製調ルイタスノ新薪
候度下被命用御

松本洋服店

龍野立町

目科業營

紹貸金賣建主株公
介借錢買物地券債

一カーロブル原石

川字十町野池郡保掛
郎太原石 主業營
(シイ)略電番二四一話電

Ishiwara Bill-Broker

The kind of Business:
the PURCHASER and SELLER of
PUBLIC LOAN BONDS, LAND AND BUILDINGS,
and the INTRODUCER to
MONEY LENDER OR BORROWER.

TARO ISHIWARA

(The Proprietor)
Fujikawa, Tatsuno-machi, Ibo-gori, Harima.
Telephone No. 142.
Tele. code address: "ISHII."

寫真

龍野紺屋町

藤井寫真館

電話二二二番

糸綿商

紡績糸右撚 本瓦斯之部

鐘淵 十六手

攝津 以下

大阪 八手迄

足袋之部

津山足袋

染糸之部

八〇シルケット

六〇シルケット

紺戎大國 十六手

攝津 二十手

郡山 二十手

高原治助製

特約店

姫路福中町

六角屋足袋

特約店

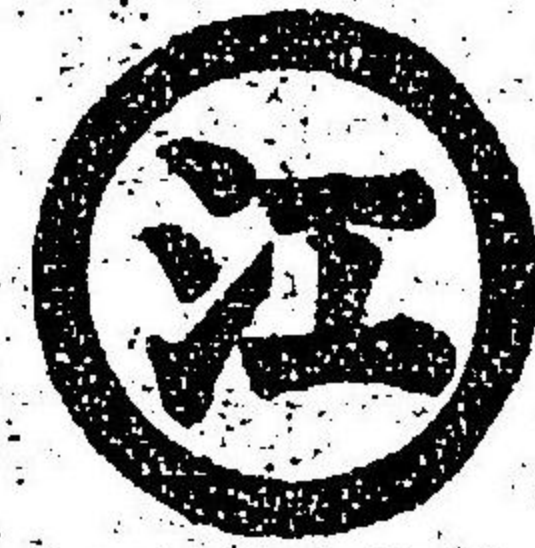
白金貨 三二

尼雉子 四二

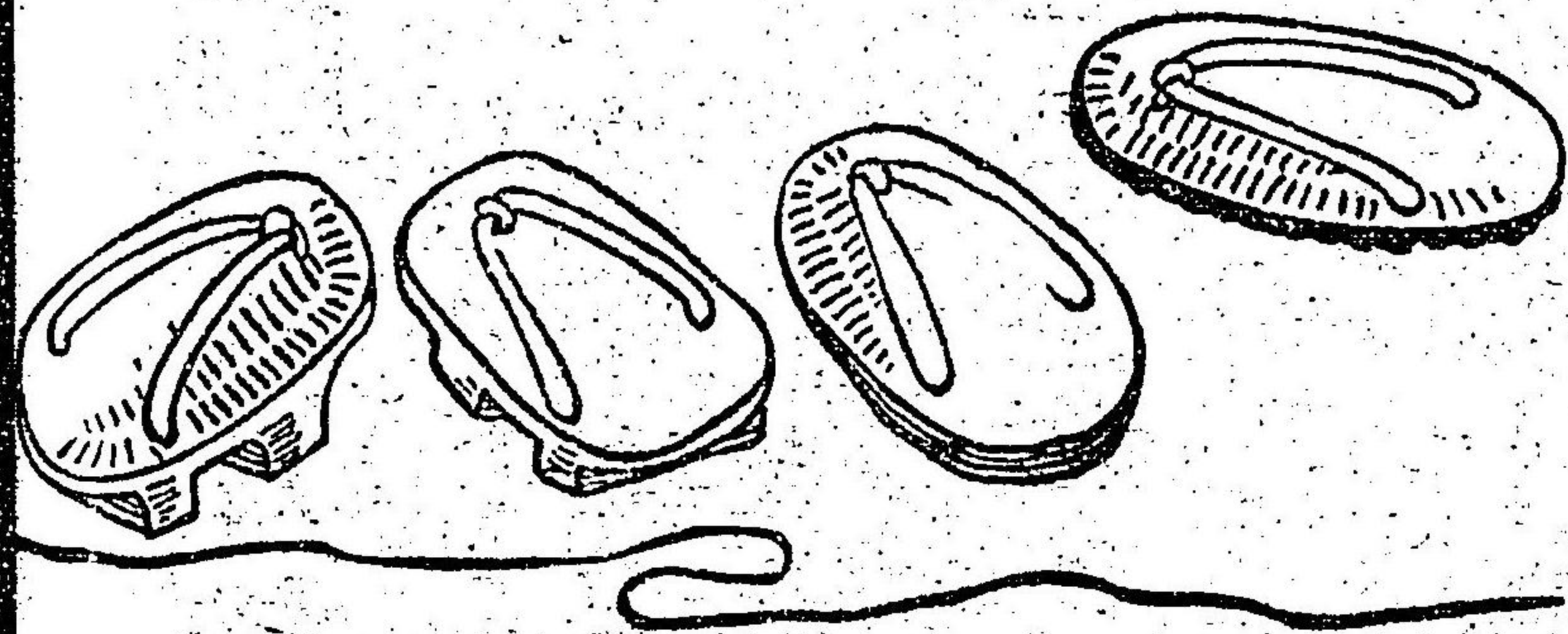
四二正紺

編糸色々

林宗兵衛 (電話三十一番) 野マ (八龍)



最新流行行
萬はまきもの



ぬのやの分店
高見好藏

三〇

絹蒲團 麻蚊帳

更紗蒲團 木綿蚊帳

かすり蒲團 新流行 白無縫目裾ボカシ
模様入等

編蒲團 外諸綿

確實ヲ旨トシ種々新柄ヲ以テ御用ニ預リ度候間
相變ラズ御引立ノ程伏而奉願上候也

揖保郡龍野町角目

製造販賣 しかまづや **セ**三木清兵衛

電話長七十三番

三二

洋服調進處

志水洋服店

本店 播州山崎町
支店 全龍野紺屋町

東京流もなか製にして風味絶好

名物 鮎菓子

(御土産として當地一等の賣れ高を有する)

東京流 羊羹 龍野下川原町
生菓子 和田吾妻堂
カステラ 謹製

諸綿龍野下町

蒲團丸山屋

蚊帳

最新流行

洋傘大賣出し

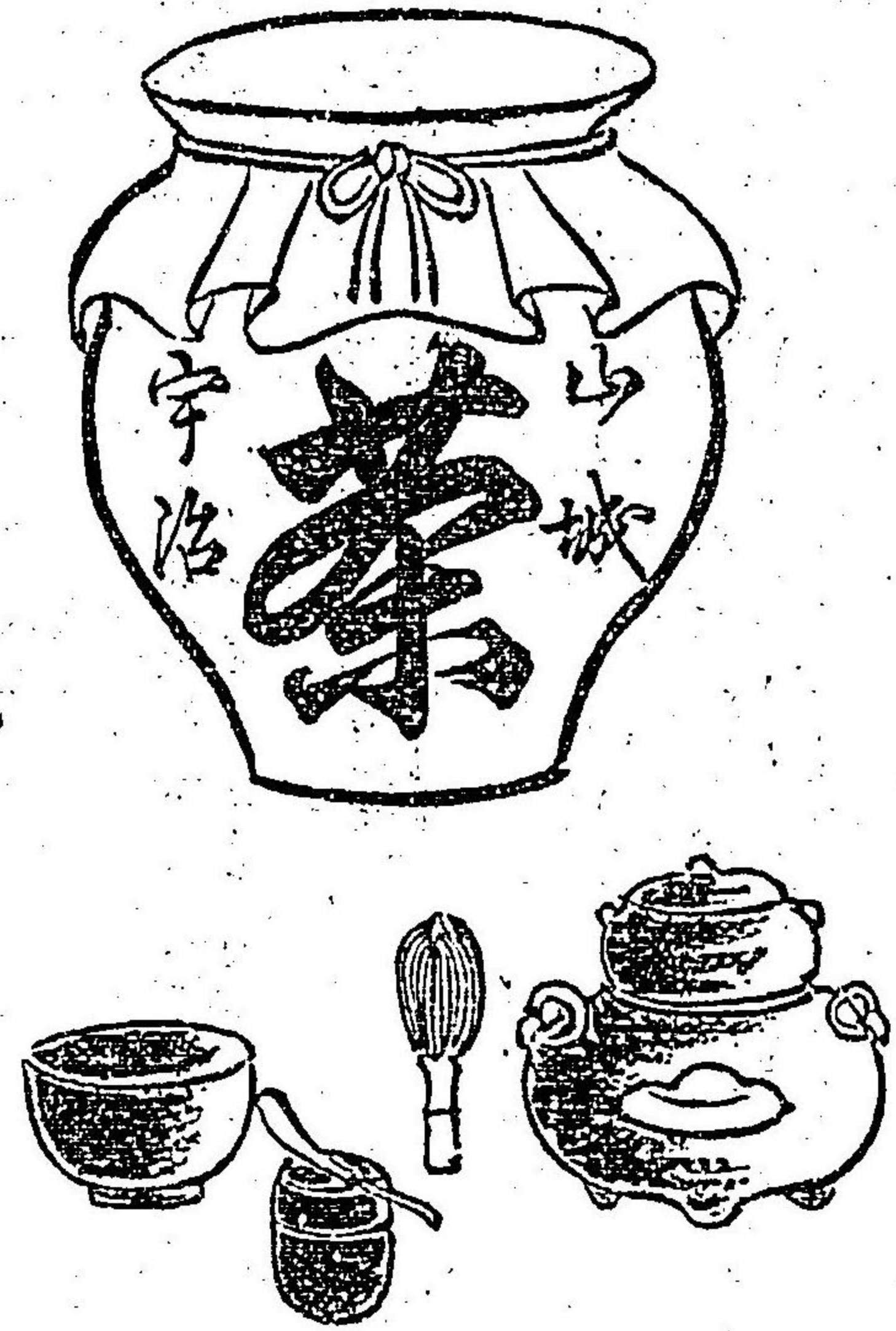
正紺手織縞太物一式洋反物
メリヤス類和洋雜貨各種。

龍野下川原町中程

商號 矢根屋 勝原忠兵衛

諸國を念佛修行し歸來龍野の如來寺に住す宗空松山上人は是なり其子
 義元廣山村に移住し今尙其後裔を存す
 三、楯岩城趾 太田村の内太田村宇太田山に在り往昔三浦大介の居城
 たりしが建武年中赤松則弘同恭秀此城を守る後加東郡に移り嘉吉年
 中赤松貞村復た來り居る赤松氏は五世相續て榮えしが天正年間羽柴
 秀吉播磨國を領するに至り此地を退轉したり山上尙長六尺幅五尺の
 斷礎を見る
 四、城山城趾 平井村の内中垣内村の東北隅に在り赤松滿祐の古城趾
 なり(龍野第一編第三章名所誌の
 一龍野附近の名所舊蹟参照)
 五、室山城趾 室津村の東南隅宇城山に在り室小四郎の居城なりしが
 元弘年中赤松圓心此地に城廓を建て、室山城と名づく後中絶せしが
 應仁の年に至り赤松政則此城を修補し執事浦上政宗をして居らしむ、
 永祿九年正月赤松政秀則宗の孫政宗を夜襲し政宗恨を呑んで自盡し

諸流
 薄茶用
 並ニ
 煎茶用
 道具種々



福 集 鳳 堂

電話百二十五番

播州龍野立町